

2023(令和5)年度
リハビリテーション学科
理学療法学専攻
シラバス

リハビリテーション学科 理学療法学専攻 目次

教育課程 (カリキュラムマップ)	4
カリキュラムツリー	5
1年生	7
年間予定表	8
シラバス	11

開講科目	頁
日本語表現法	11
コミュニケーション論	12
英語 I	13
英語 II	14
大学生活論	15
現代の社会	16
心理学概論	17
情報処理	18
生物学	19
物理学	20
健康スポーツ科学	21
解剖学	22
解剖学演習	23
解剖学実習	24
生理学 I (神経・運動・感覚)	26
生理学 II (内臓・代謝・血液)	27
生理学実習	28

開講科目	頁
運動学	30
運動学実習	31
人間発達学	33
病理学	34
医学概論	35
社会福祉概論	36
リハビリテーション概論	37
理学療法学概論	38
運動療法基礎理論	39
基礎理学療法評価学概論	40
基礎理学療法評価学実習	41
物理療法学	43
物理療法学演習	44
日常生活活動学	45
日常生活活動学演習	46
臨床実習 I (体験実習)	47

2年生	49
年間予定表	50
シラバス	53

開講科目	頁
歴史と文化	53
暮らしの中の法律	54
運動学演習	55
内科学	56
神経学	57
臨床医学特論	59
小児科学	60
整形外科学総論	61
整形外科学各論	62
精神医学総論	63
老年学	64
臨床心理学	65
リハビリテーション栄養学	66
救急救命医学	67
公衆衛生学	68
医療関連法規	69

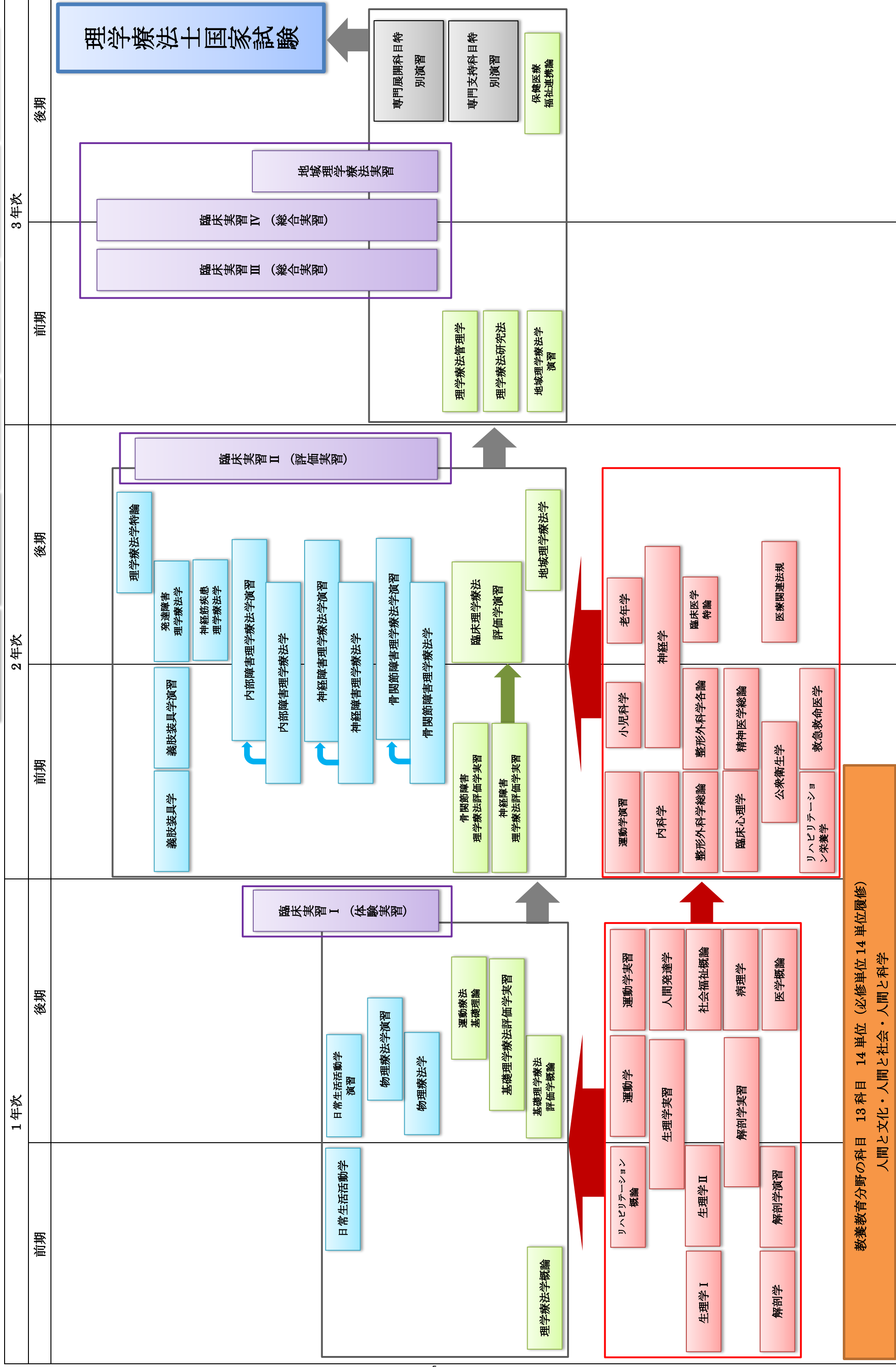
開講科目	頁
骨関節障害理学療法評価学実習	70
神経障害理学療法評価学実習	72
臨床理学療法評価学演習	74
骨関節障害理学療法学	76
骨関節障害理学療法学演習	78
神経障害理学療法学	80
神経障害理学療法学演習	82
内部障害理学療法学	84
内部障害理学療法学演習	86
神経筋疾患理学療法学	88
発達障害理学療法学	89
義肢装具学	90
義肢装具学演習	91
理学療法学特論	92
臨床実習 II (評価実習)	93
地域理学療法学	94

3年生	95
年間予定表	96
シラバス	99

開講科目	頁
理学療法研究法	99
理学療法管理学	100
臨床実習Ⅲ（総合実習）	101
臨床実習Ⅳ（総合実習）	102
地域理学療法実習	103

開講科目	頁
地域理学療法学演習	104
保健医療福祉連携論	105
専門支持科目特別演習	106
専門展開科目特別演習	108

ナンバリング	112
教員一覧	115
実務を有する教員一覧	116
オフィスアワー	117



リハビリテーション学科
理学療法学専攻
1年生

【2023(令和5)年度入学生】

- 年間予定表
- シラバス

2023(令和5)年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻1年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月	26	27	28	29	30	31	1
	2	3	4	5	6 入学式	7	8
	9	10 健康診断	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29 昭和の日
	30	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6
5月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
6月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	1
7月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17 海の日	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31	1	2	3	4	5
8月	6	7	8	9	10	11 山の日	12
	13	14	15	16 定期試験	17 定期試験	18 定期試験	19
	20	21 定期試験	22 定期試験	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2
9月	3	4 再試験	5 再試験	6 再試験	7 再試験	8 再試験	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18 敬老の日	19	20	21	22	23 秋分の日
	24	25	26	27	28	29	30

- ・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
- ・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

2023(令和5)年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻1年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9 スポーツの日	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3 文化の日	4
11月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23 勤労感謝の日	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
12月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1 元旦	2	3	4	5	6
1月	7	8 成人の日	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29 定期試験	30 定期試験	31 定期試験	1 定期試験	2 定期試験	3
2月	4	5 (定期試験)	6 (定期試験)	7 (定期試験)	8	9	10
	11 建国記念の日	12 振替休日	13	14	15	16	17
	18	19 臨床実習 I	20 臨床実習 I	21 臨床実習 I	22 臨床実習 I	23 天皇誕生日 臨床実習 I	24 臨床実習 I
	25	26	27	28	29	1	2
3月	3	4 再試験	5 再試験	6 再試験	7 再試験	8 再試験	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19 卒業式	20 春分の日	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6

・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
 ・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-01				
	●		●	●						
科目名	日本語表現法				単位認定者	吉田 理		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	40 %
	O T	必修	1年			授業時間数	20 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	医療の現場においては、健康に問題を抱えるさまざまな年代の患者の方々と、日本語という言語を通じてコミュニケーションを図り、患者の方々が何を求めているかを適切に把握し、かつ医療側の方針を適確に伝達しなければならない。この講義では、正確な日本語の使用法を身につけることができるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	日本語に興味を持ち、自分の身の回り(周り)で使われている「ことば」に敏感になること。授業をその都度理解し、疑問な点はすぐに解決できるよう、集中して受講のこと。問題演習を通して日本語力(語彙力)を身につけていきましょう。なお、単位認定試験についてはマークシート式による実施を予定している。									
回	授業計画				準備学修					
1	「日本語表現法」ガイダンス(日本語とは何か)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
2	日本文の概要：現代文の成り立ち				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
3	日本文の概要：古典と文語文法				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
4	日本文の概要：現代文法				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
5	日本文の概要：現代文法つづき(品詞分類)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
6	現代文の修辞：原稿用紙の使い方など				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
7	現代文の修辞：表記法(句読点、現代仮名遣い、送り仮名)				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
8	文章の作成：作成要領、手順・構成、推論、推敲 実践：課題文を書く(800字)…主題は当日指示				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
9	課題文返却及び添削指導① 語彙：辞書語彙…漢字と対義語・類義語				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
10	課題文返却及び添削指導② 敬語：種類と働き、尊敬語、謙譲語、丁寧語				当日の新聞や雑誌(漫画を除く)に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分程度)					
教科書	「原色シグマ新国語便覧(増補三訂版)」国語教育プロジェクト編著、文英堂									
参考文献	「社会人のためのビジュアルカラー国語百科」大修館書店編集部、大修館書店									
備考	P T・O T合同授業 進捗状況や理解度に応じ、順序や内容を変更する場合がある。また適宜テキストの文学史の部分にも触れていく。授業内課題である課題文(含事後指導)は、単位認定の必須事項として成績に加える(未提出・不参加は認定しない)。受講態度は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作・居眠りの禁止等を想定している。なお、受講ノートとして大学ノートを用意すること(試験は持ち込み可とするが、コピー用紙の切り貼りやルーブリーフ等は認めない)。また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には、試験を中止し課題文のみで評価することもあり得るので心得ておくこと。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-0-HCU-01				
	●		●	●						
科目名	コミュニケーション論				単位認定者	大橋 孝子		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	コミュニケーションについて広く学び、良好な人間関係を積極的に構築する姿勢や態度を養う。コミュニケーション能力を高めるために、1対1の会話や、ディスカッションでの効果的な意見交換、プレゼンテーションなど、さまざまな状況を想定し、学生生活や社会において求められる言語的なスキル、論理的思考力及び非言語的表現力を養い、相手とのスムーズな相互理解を深める基礎を身につける。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 医療従事者に必要なコミュニケーションスキルを理解することができるようになる。 相手の言動や文章を理解し、自分の考えを相手に適切に表現し伝えることができるようになる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの相手に適切に接するためには、自分自身を知ることから始まります。授業を通じて自分自身を振り返りましょう。 自分自身のコミュニケーションスキルを獲得しましょう。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	理学療法士におけるコミュニケーションの必要性				教科書を参考にして、なぜ理学療法士にコミュニケーションが必要なのかまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
2	自分を知る方法① 自己概念、自己肯定感 自分の性格				教科書のP21～P28を読んで、自分の性格について考えてみる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
3	自分を知る方法② 自己存在についての意識 自分の態度				教科書のP29～P40を読んでまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
4	コミュニケーション力① コミュニケーション力とは？非言語コミュニケーションについて				教科書のP41～P45を読んで具体的なコミュニケーション力についてまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
5	コミュニケーション力② 相手を観る力、話を聴く力、伝える力				教科書のP46～P68を読んで、まとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
6	自律とは① 自己管理と自己実現 (授業内課題1)				P69～86を読みまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
7	自律とは② 自分の使命と就職活動				P87～101を読み理解する。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
8	社会人としてのコミュニケーション① 挨拶と電話のかけ方				P104～123を読みまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
9	社会人としてのコミュニケーション② お礼状の書き方 (授業内課題2)				P124～127を読みまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
10	社会人としてのコミュニケーション③ 電子メールのマナー (授業内課題3)				P128～133を読みまとめる。(概ね30分)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
11	コミュニケーションスキル① 医療面接 演習 グループディスカッション (授業内課題4)				P134～P146を読んでまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
12	コミュニケーションスキル② ミラーリングとペーシング 演習 グループディスカッション (授業内課題5・6)				P147～P149を読んでまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
13	コミュニケーションスキル③ バックトラッキングと質問の方法 演習 グループディスカッション (授業内課題7)				P149～P155を読んでまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
14	コミュニケーションスキル④ リーディング 演習 グループディスカッション (授業内課題8)				P156～P165を読んでまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
15	コミュニケーションスキル⑤ 症例を想定しての演習 グループディスカッション (授業内課題9)				P165～P179を読んでまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子 伊藤 大亮		
教科書	「PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド」山口美和、医学書院									
参考文献	LMSに必要な資料をアップします。授業毎に資料が確認できるように準備してください。									
備考	A B別2クラス 授業内課題のフィードバックは授業内で行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02				
	●									
科目名	英語 I				単位認定者	タフス マーク		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	1年		授業形態	演習	授業時間数		20 時間	
							授業回数		10 回	
授業の概要	日常会話で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を習得させる。また、当該専門職として必要となる語彙や基本表現も身につける。									
到達目標	この授業では日常会話に必要なとされる基本的な単語と文法について学修し、またそれらを使って対話ができるようになる。また理学療法士に関する簡単な単語を使うことができるようになる。									
学修者への期待等	次の授業で学ぶであろうユニットに目を通し、分からない語彙があれば辞書で調べて授業に臨んでください。 毎回辞書を持ってきてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	Nice to meet you Unit 1 What do you do? Unit 2 Groupwork				教科書の該当箇所を予習することPages 2, 3, 7 and 12. (30 minutes)					
2	Do you like spicy food? Unit 3 How often do you do yoga? Unit 4 Pairwork				教科書の該当箇所を予習することPages 18 and 26. (30 minutes)					
3	What are you watching? Unit 5 Human Body (own material) Pairwork/Quiz				教科書の該当箇所を予習することPage 32. (30 minutes)					
4	Where were you yesterday? Unit 6 Did you have a good time? Unit 11 Pairwork				教科書の該当箇所を予習することPages 38 and 72. (30 minutes)					
5	Review of Units 1, 2, 3, 4, 5, 6 and 11 Minitest				教科書の該当箇所を予習することPage 22. (30 minutes)					
6	Which one is cheaper? Unit 7 Pairwork				教科書の該当箇所を予習することPage 46. (30 minutes)					
7	What's she like? Unit 8 Pairwork/Quiz				教科書の該当箇所を予習することPage 52. (30 minutes)					
8	I'm going to go by car Unit 12 Pairwork				教科書の該当箇所を予習することPage 78. (30 minutes)					
9	Introduction to Rehabilitation Vocabulary and Expressions (own materials) Roleplay				教科書の該当箇所を予習すること					
10	Course Review Minitest				教科書の該当箇所を予習することAll notes. (1 hour)					
教科書	「Smart Choice (4/E) Level 1 Student Book with Online Practice」 Ken Wilson、 Oxford University Press									
参考文献										
備考	1学年を2クラスに分けて実施する。 授業にはテキスト、ノート、辞書、ファイル（渡されたプリント等を整理できるもの）を持参すること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-0-HCU-02				
				●						
科目名	英語Ⅱ				単位認定者	タフスマーク		試験(筆記)	70%	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30%
	O T	必修	1年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	日常で一般的に使われている英語文法に加え、医療の現場で使用される英語表現や基本用語を修得し、理学療法、作業療法に関する英文の文献を把握できる基礎読解力を身につける。									
到達目標	理学療法士に必要な基本的な英語表現、医学英語を習得できるようになる。									
学修者への期待等	理学療法士、作業療法士に必要な基本的な英語表現、医学英語を習得できるようになる。授業の前に予習しておくこと。具体的には、次の授業で学ぶであろうユニットに目を通し、分からない語彙があれば辞書で調べておく。									
回	授業計画				準備学修					
1	イントロダクション、家族の呼び方 UNIT 1、2、数、日付関係 UNIT 3				教科書の該当箇所を予習することPages 12, 13 (introduction questions) and 19, 20 (dates and numbers). (30 minutes)					
2	病院の診療科名、道順 UNIT 4、5				教科書の該当箇所を予習することPages 23 and 28. (30 minutes) Medical Departments and Directions					
3	人体各部の名称 UNIT 6、7				教科書の該当箇所を予習することPages 34, 35and 51. (30 minutes) Symptoms and Diseases					
4	The Human Body CHAP. 1、The Skeletal System CHAP. 2				教科書の該当箇所を予習することPage 1, 2 and 3. (30 minutes) "What is the body made up of?" and Pages10, 11, 12and13 Skeletal System and Human Bones (30minutes)					
5	The Muscular System CHAP. 3				教科書の該当箇所を予習することPages 24, 25and26. (30 minutes) Muscular System and Muscles					
6	The Nervous System CHAP. 9				教科書の該当箇所を予習するPages98, 102, 103and104. (30 minutes) Nervous System and Nerves					
7	リハビリテーションの単語について				Rehabilitation Process and Review all notes (1 hour)					
8	復習				Review all notes (1 hour)					
教科書	「クリスティーンのやさしい看護英会話」知念クリスティーン・上瀧真紀恵著、医学書院 「医療従事者のための医学英語入門」清水雅子著、講談社									
参考文献	特になし									
備考	1学年を2クラスに分けて実施する。授業にはテキスト、ノート、辞書、ファイル(授業で渡されたプリント等を整理できるもの)を持参すること。授業内課題(小テスト)は、授業内に答え合わせをします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-01			
	●		●	●					
科目名	大学生生活論				単位認定者	大橋 孝子		授業内課題等 (授業ノート)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法 <td></td>	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	大学生生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、大学生生活の基礎知識（ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等）、健康に関わる知識（睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が会おうこころの問題等）を身につける。								
到達目標	1. 大学生・社会人としての基本的マナーを身につける。 2. 大学生生活を有意義に送るための知識やスキルを身につける。 3. 大学での学びを基盤に、学修の自己管理ができる。								
学修者への期待等	大学生生活を有意義に送るために設定した科目である。自己の目標を叶えるために、積極的に学ぶことを期待する。さらに多くの仲間をつくり、いろいろな考えに触れてほしい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	学内ガイダンス（本学の教育方針）				科目専用の授業ノートを準備する。学生便覧を読んでくる。（概ね30分程度）			大和田 宏美	
2	大学生生活での学び1（カリキュラム）				学生便覧とシラバスを読んでカリキュラムを確認してくる。（概ね30分程度）			大和田 宏美	
3	大学生生活での学び2（交流会1 学生自己紹介）				授業内容をノートにまとめ復習する。（概ね30分程度）			大橋 孝子	
4	大学生生活での学び3（交流会2 学生間交流）				授業内容をノートにまとめ復習する。（概ね30分程度）			大橋 孝子	
5	大学生生活での学び4（図書館の利用 文献検索の仕方）				学生便覧の図書館のところを読んでくる。（概ね30分程度）			阿部 奈津紀 大橋 孝子	
6	大学生生活での学び5（授業の受け方 ノートの取り方）				授業内容をノートにまとめる。（復習30分程度）			大橋 孝子	
7	大学生生活での学び6（自己学修 予習復習）				授業内容をノートにまとめる。（復習30分程度）			大橋 孝子	
8	大学生生活に関わる基礎知識1（学校生活のルール）				大学生とは何かを考えてくる。（概ね30分程度）			学生総合支援センター 大橋 孝子 須藤 あゆみ	
9	大学生生活に関わる基礎知識2（新生活での注意点 生活トラブル 交通ルール）				授業内容をノートにまとめ復習する。（概ね30分程度）			学生総合支援センター 大橋 孝子 須藤 あゆみ	
10	大学生生活に関わる基礎知識3（ネットの危険 情報モラル、ハラスメント）				情報モラルやハラスメントについて調べてまとめる。（概ね30分程度）			齋藤 佑樹 熊谷 竜太 大橋 孝子	
11	大学生生活に関わる基礎知識4（消費者トラブルについて）				消費者トラブルとは何か考えてくる。（概ね30分程度）			学生総合支援センター 大橋 孝子 須藤 あゆみ	
12	健康に関する知識1（睡眠 食生活 ドラッグの危険性）				健康に関して調べ、まとめる。（概ね30分程度）			学生総合支援センター 大橋 孝子 須藤 あゆみ	
13	健康に関する知識2（大学生が会おうこころの問題）				授業内容をノートにまとめて復習する。（概ね30分程度）			神山 直子 大橋 孝子	
14	健康に関する知識3（感染症対策）				授業内容をノートにまとめて復習する。（概ね30分程度）			千葉 由里 大橋 孝子	
15	先輩から学ぶ大学生生活 グループワーク				授業内容をノートにまとめて復習する。（概ね30分程度）			大橋 孝子	
教科書	特になし								
参考文献	必要に応じて紹介します。資料を配付します。								
備考	1、5、8～13回はP T・O T合同授業です。大学生生活論専用のノートを持参し、授業ノートを作成してください。前期終了後、後期終了後計2回授業ノートを提出してもらい、採点し返却します。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-03			
	●			●	●				
科目名	現代の社会				単位認定者	吉田 理		試験（筆記）	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		評価の方法 ※筆記試験はマークシート（60%）とレポート（20%）を同時内に実施。詳細は備考欄を参照すること。
	O T	必修	1年			授業時間数	20 時間		
				授業形態	講義	授業回数	10 回		
授業の概要	現代の日本及び世界がどのような構造になっているかについて、経済、政治の視点を主としながら理解する。また、日本社会が抱える諸問題についても考える。現代の社会を生きるために不可欠な基礎知識を身につけ、社会の動向に絶えず関心を持ち続け、社会生活において的確な選択や判断ができるようにする。								
到達目標	取り上げるテーマは、いづれも社会人として当然備えるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。								
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。								
回	授業計画				準備学修				
1	「現代の社会」導入(現代世界概観-特に文化と思想・宗教、歴史)				私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。当日配信する確認テストに備えること。(30分程度)				
2	現代社会の誕生(特に大衆社会)				前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)				前回の講義内容(現代社会の誕生)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)				前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)				前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
6	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と政党政治)				前回の講義内容(憲法の基本的性格)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
7	現代の経済社会(特に財政と金融) レポート作成に当たって(説明)				前回の講義内容(日本の政治機構と政治参加)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について)				前回の講義内容(現代の経済社会)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
9	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための制度について)				前回の講義内容(少子高齢化)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
10	労働問題(日本の労働事情や労働関係法規・制度、労働格差について) 附. レポート作成に当たって(再度)				前回の講義内容(消費者問題)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)				
教科書	「2023小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus」第一学習社								
参考文献	「別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業 君たちはどう生きるか」池上彰著 (NHK出版 2017) 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)								
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施するが、板書を中心に進めるのでノートを準備すること。なお、理解の妨げとなるので早送りなどしないこと。 試験は、同時内にマークシート解答(60%)とレポート作成(20%)を実施する。レポート作成の要領については講義内で説明するので集中して聞くこと。なお、持込一切不可である。 受講態度は、確認テスト解答の返信確認で判断するが、白紙など不誠実なものは減点或いは評価しない。(課題の解説は次回講義の際に講義内で行なう)。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-0-HSO-01				
	●		●	●						
科目名	心理学概論				単位認定者	内山 彩香		試験 (レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	50 %
	O T	必修	1年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	心理学は、行動と心的処理過程の科学である。我々の行動と心的世界は多様であるため、心理学の領域も極めて広汎であり、さまざまなアプローチがある。経験主義に基づく実験心理学を基盤として、知覚、学習と記憶、言語、思考、問題解決等を包括する認知心理学をはじめ、認知発達及び社会発達、パーソナリティ、社会心理学といった主な領域を中心に、心理学全般における理解と基礎知識を習得する。									
到達目標	①対人援助をおこなう上で求められる基本的な心理学的知識を幅広く修得することができるようになる。 ②授業で紹介した様々な心理学的知見を日常生活の問題に結び付けて論述できるようになる。									
学修者への期待等	単なる知識の修得へ向けた予習復習にとどまらず、なるほど、なんでなんだろうといった知的好奇心を持って講義に出席すること、日常生活に引き寄せて考えることを強く望む。									
回	授業計画				準備学修					
1	様々な心理学の分野について概説				配付する資料（心理学とは？）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出					
2	動機付け理論				配付する資料（動機付け）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出					
3	記憶・学習 記憶の仕組みと変容				配付する資料（記憶）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出					
4	発達				配付する資料（発達）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出					
5	パーソナリティと性格 類型論、性格検査				配付する資料（パーソナリティ理論）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出					
6	社会心理学：集団				配付する資料（社会心理学：集団）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出					
7	社会心理学：攻撃				配付する資料（社会心理学：攻撃）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出					
8	カウンセリング入門				配付する資料（カウンセリング入門）の復習（概ね30分）及び問題への解答の提出					
教科書	特に指定しない									
参考文献	特に指定しない									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。授業内課題のフィードバックは次回以降の講義で行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0HSC-01				
		●		●						
科目名	情報処理				単位認定者	佐々 順子		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
	O T	必修	1年		授業形態	演習	授業時間数		20 時間	受講態度
							授業回数		10 回	
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学習する。									
到達目標	コンピュータの基本操作を習得し、一般的な業務に通用するWord・Excel・PowerPointの操作スキルを身につけることを目標とする。 Word：基本的なビジネス文書の作成、表現効果を上げる表や画像を使用した文書の作成。 Excel：数式、グラフを含む表計算ソフトの基本操作と応用的な機能の習得。 PowerPoint：プレゼンテーションソフトの基本操作と目的に沿ったスライドの作成。									
学修者への期待等	コンピュータの基本的な操作技術とともに、利用上のマナーや注意点などを含むコンピュータ・リテラシーを身につけることを目標にして欲しい。コンピュータ操作経験者も基本事項の再確認や、これまで自己流で感覚的に行っていた部分を正確な知識・技能に高準化するための見直しとして意欲的に臨むこと。また、操作がわからない者へのアドバイスや受講者間での相談等の協調によるスキルアップも大切にしていきたい。 欠席や遅刻をせず、1回1回の授業に積極性を持って「参加」すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	コンピュータを使用するうえでのマナー・情報の保護 コンピュータの基本知識・画面の操作 LMSの使用				<p>予習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マウス操作、タッチパッド操作、キー操作、タイピングに自信がない者は、継続的な自主練習を行う。特に入力操作が苦手な場合はタイピング（ローマ字入力）、マウス操作の練習を行って授業に臨む。（30分程度） <p>復習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業で学んだ操作内容を復習し、次回までに確実に操作できるようにしておく。 ・授業時間内に完成しなかった課題は次回授業までに完成させる。（30～60分程度） 					
2	Word：Wordの起動と基本操作・文書の作成と印刷 ページ設定・ファイルの保存・表の作成									
3	Word：表の作成・クリップアートやワードアートの使用による表現力アップ									
4	Word：長文作成サポート、ビジネス文書作成									
5	PowerPoint：プレゼンテーションの操作と作成									
6	PowerPoint：オブジェクトの挿入・編集を含む効果的なプレゼンテーションの作成									
7	PowerPoint：特殊効果を設定した効果的なプレゼンテーションの作成									
8	Excel：Excelの基本操作と表作成（関数の使用、罫線や塗りつぶし、セルの書式設定）・ブックの保存									
9	Excel：表の印刷設定・色々な数式の使用									
10	Excel：さまざまな関数の使用・グラフ作成									
教科書	30時間アカデミック Office2021 Windows11対応 杉本くみ子/大澤栄子 実教出版									
参考文献	授業内容に応じてプリント配付（配付プリントはすべてファイリングすること。）									
備考	1学年を2クラスに分けて実施する。 ○アプリ操作性の向上と、授業課題の保存・移動のため、授業開始時までに各自次のものを準備してください。 USBメモリ（他の科目と共用可 ノートPCの仕様によりUSBポートがない場合はコネクタも必要） ノートPC用マウス ○私物ノートPC使用の授業では事前に充電を済ませておくこと。（授業中に充電を行わない。）									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-0-HSC-01				
	●									
科目名	生物学				単位認定者	石澤 公明		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	10 %
	O T	必修	1年			授業時間数	16 時間		受講態度 (毎回の授業内課題を含む)	30 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	生命現象、生命の尊厳、生物の多様性と、生命現象の普遍性を学ぶことにより、ヒトの存在への理解を深める。理学療法士・作業療法士の専門科目を理解するための基礎知識を習得する。									
到達目標	生命の尊厳を深く認識する社会人として、生物学の教養を深めるとともに、理学療法士・作業療法士としての専門・臨床科目における生物学の原理を理解できるようになる。									
学修者への期待等	質問があれば、講義中に発言するか、配付する用紙に記入して下さい。教師との積極的なコミュニケーションを期待します。また、復習を心がけてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	生物とは？				配付する資料(生物とは?)の復習(概ね30分)及び問題への解答の提出					
2	細胞Ⅰ(構造と分裂)				配付する資料(細胞Ⅰ「構造と分裂」)の復習(概ね30分)及び問題への解答の提出					
3	細胞Ⅱ(生体膜の構造と機能)				配付する資料(細胞Ⅱ「生体膜の構造と機能」)の復習(概ね30分)及び問題への解答の提出					
4	生体のエネルギーと代謝				配付する資料(生体のエネルギーと代謝)の復習(概ね30分)及び問題への解答の提出					
5	環境応答と神経伝達				配付する資料(環境応答と神経伝達)の復習(概ね30分)及び問題への解答の提出					
6	免疫				配付する資料(免疫)の復習(概ね30分)及び問題への解答の提出					
7	遺伝				配付する資料(遺伝)の復習(概ね30分)及び問題への解答の提出					
8	遺伝情報の発現				配付する資料(遺伝情報の発現)の復習(概ね30分)及び問題への解答の提出					
教科書	毎回の講義資料									
参考文献	「解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理」岡田隆夫著、羊土社									
備考	P T・O T合同授業。 授業内課題(レポート)は、最初の講義で課題を提示します。紙媒体(A4レポート用紙一枚)で、期限内に提出して下さい。そのフィードバックは、最後の講義で行います。 上記レポート課題とは別に、毎回講義で出題する課題及び質問等を配布する用紙に記入し、講義終了時に提出して下さい。その課題解答や質問等のフィードバックは、次回以降の講義中に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-0-HSC-02				
	●									
科目名	物理学				単位認定者	菊池 康夫		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	20 %
	O T	必修	1年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	人体の動きから人体内部の生命現象まで、物質が関与する現象はすべて物理学の原理に従っている。また医療現場では多くの医療機器が使われている。物理の基礎から人体と力学、人体と流体、熱、音や光、電気と磁力、原子と放射線等、直接医療に関わる物理学の基礎を中心に人体と物理学の関係について学修する。									
到達目標	他の科目で学ぶ人体の構造や動きを物理学の基礎原理に基づいて理解し、わかりやすく説明し、応用できるようになる。リハビリテーションの現場で活躍する専門職者として常識というべき物理学全般の基礎的な教養と知識を身につけることができる。さらに、様々な医療機器の動作原理を理解する能力を身につけ、病気の治療や健康増進の支援に役立てることができるようになる。									
学修者への期待等	リハビリテーションの各科目を学ぶ上で基礎となる内容である。講義で使用する図表はまとめて講義資料として配付する。講義を聞きながら資料の重要箇所にマークやメモを記入してほしい。講義後にはメモを整理して説明を補っておくとあとで見ても理解できる自分自身の資料になる。この過程で講義内容の理解度が格段に高まる。毎回の講義の後半では内容の理解度を確かめる小テストを行う。答えは採点して返却するので講義内容の理解に役立ててほしい。正解は次回の講義で解説し講義資料にも記載する。さらに、練習問題として基礎的なものから国家試験レベルのものまでを適宜出題し、次回に解説するので積極的に取り組んで応用力を一層深めてほしい。									
回					準備学修					
1	「物理学の基礎」 物理量と単位系、有効数字、他				教科書 (第1章 測定と医療機器) p1~5を読む (概ね1時間程度)					
2	「人体と力学」(1) 静止している物体の力学 運動している物体の力学				教科書 (第2章 力学と人体) p8~22を読む (概ね1時間程度)					
3	「人体と力学」(2) 人体の力学、医療機器と力学				教科書 (第2章 力学と人体) p22~31を読む (概ね1時間程度)					
4	「流体と人体」 静止流体の力学、流体と医療、他				教科書 (第3章 流体と人体) p33~42、 p46~52を読む (概ね1時間程度)					
5	「熱と体温」 熱と温度、体温調節の仕組み、他				教科書 (第4章 熱と体温) p53~72を読む (概ね1時間程度)					
6	「音と光と人体」 音と光の性質、医療への応用				教科書 (第5章 音と光と人体) p73~87を読む (概ね1時間程度)					
7	「電気と磁気」 電気・磁気の基礎と医療への応用				教科書 (第6章 電気と磁気の世界) p89~107を読む (概ね1時間程度)					
8	「原子力と放射線」 医学における放射線、他				教科書 (第7章 原子と放射線) p109~128を読む (概ね1時間程度)					
教科書	「医療系のための物理 第2版」佐藤幸一・藤城敏幸著、東京教学社									
参考文献	授業の中で適宜紹介する。									
備考	1学年を2クラスに分けて実施する。 授業内課題(小テスト)の正解は次回の講義で解説し講義資料にも記載する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-0-HSC-03				
	●		●	●						
科目名	健康スポーツ科学				単位認定者	小関 友記		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	40 %
	O T	必修	1年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	健康であることは生活の質を上げるために不可欠な要素である。その健康を維持するために食生活とスポーツの重要性を説き、それを科学的に検証する。運動を通して健康増進や体力増進等を行う知識と方法に関して、具体的なデータ等を使いながら学んでいく。また、生活習慣病と運動及び食生活の関係、疾病の状態や健康の状態、加齢による体力の衰えなどによる運動の選択などについても具体的に学んでいく。									
到達目標	健康と運動・スポーツについて理解し、生涯にわたっての運動・スポーツを取り入れた生活が、健康の維持・増進にとっていかに重要であるかを理解し、自発的、積極的な運動・スポーツ実践や運動・スポーツ指導につなげることができるようになる。障がい者の特性を理解し、可能なスポーツ活動を提案できるようになる。									
学修者への期待等	今後学修する基礎医学や理学療法・作業療法の基礎となる科目です。予習・復習を期待します。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	健康の定義、成り立ち、モデルについて -グループワーク、レポート作成-				教科書の項目(健康であるとはどういうことか?)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
2	生活習慣と健康について -グループワーク、レポート作成-				教科書の項目(生活習慣と健康)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
3	心の健康とは? 心の病について -グループワーク、レポート作成-				教科書の項目(心の健康とは?)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
4	ストレスと健康の関連性 -グループワーク、レポート作成-				教科書の項目(ストレスと健康)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
5	体力の概念、構成要素 -グループワーク、レポート作成-				教科書の項目(体力とは何か?、大学生の体力、体力の測定と評価方法、身体を知る、発育・発達)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
6	なぜ運動が必要か?、運動の実際・効果 -グループワーク、レポート作成-				教科書の項目(運動の意味を考える、運動の実際)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
7	スポーツの概念、構成要素 -グループワーク、レポート作成-				教科書の項目(スポーツの役割、スポーツの変遷、スポーツとマナー、スポーツとパーソナリティ)を事前に読む。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
8	障がい者の特性を知る -グループワーク-				グループに分かれ、与えられる障がい者の症例を理解・調査し、次回からの障がい者スポーツ企画につなげる。(グループディスカッション)(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
9	障がい者スポーツの企画立案 -グループワーク-				HOKUTO SPORTS SQUARE(体育館)にて、企画した障がい者スポーツを実践しつつ現実的なものに修正していく。(グループディスカッション)(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
10	企画立案した障がい者スポーツの修正 -グループワーク-							小関 友記 熊谷 竜太		
11	企画立案した障がい者スポーツのまとめ -グループワーク、プレゼンテーションの準備-				企画した障害者スポーツのプレゼンテーションの準備を行う(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
12	障がい者スポーツの実行準備 -グループワーク-				HOKUTO SPORTS SQUARE(体育館)にて、企画した障がい者スポーツを他の学生にその必要性や機能への影響をを説明するプレゼンテーションを実施する。また実行しながらリスクやその管理を確認する。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
13	障がい者スポーツの提案・説明 -グループワーク、プレゼンテーション-							小関 友記 熊谷 竜太		
14	障がい者スポーツの実行と管理 -グループワーク、スライド作成-				実施した障がい者スポーツの発表用スライドを作成する。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
15	企画・実行した障害者スポーツの発表 -スライド発表-				企画実行した障がい者スポーツについて、スライドや動画にまとめ、発表準備をする。(概ね30分程度)			小関 友記 熊谷 竜太		
教科書	「大学生の健康スポーツ科学」大学生の健康スポーツ科学研究会著、道と書院									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業 必要に応じて、LMS上に参考資料をアップロードします。また、レポート提出もLMS上で実施しますので、講義時には必ずPCを持参して下さい。授業内課題のフィードバック：次週に実施。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-01				
	●	●		●						
科目名	解剖学				単位認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	20 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。本講義では、人体の構造を理解するために、運動器系の基本となる骨・筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨格系では、骨の名称について説明ができるようになる。また、骨の形状から骨の連結（関節）についても説明ができるようになる。 2. 筋系では、各筋の起始・停止、作用、支配神経を理解する。また、各筋の運動から体（各関節）の動きをイメージすることができるようになる。 3. 末梢神経系では、各神経支配を理解し、どの筋がどの末梢神経によって支配されているかを説明できるようになる。 4. 骨・筋・末梢神経系を学び、ヒトの身体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることができるようになる。 5. 人体解剖学見学実習では、御献体をおとして人体の構造を立体的に捉えることができるようになる。 6. 解剖学の学修をおとして、生命の尊厳を理解し、医療従事者としての自覚と倫理観を身につけることができるようになる。 									
学修者への期待等	骨格系・筋系・末梢神経系を学び、人の体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることを期待する。解剖学を学ぶことは、自分の体を知ることにつながります。興味を持って学修してください。事前にLMSに講義資料を掲載しますので、予習として必ず講義資料を確認してください。									
回	授業計画				準備学修					
1	解剖学総論				「解剖学とは何か」、「人の命の尊さとは何か」を考えてくる。（予習時間概ね1時間程度）					
2	骨学1：肩甲帯（鎖骨・胸骨・肩甲骨）				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）					
3	骨学2：上肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨・手部）									
4	骨学3：上肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨・手部）と連結									
5	骨学4：下肢骨（大腿骨・脛骨・腓骨・足部）									
6	骨学5：下肢骨（大腿骨・脛骨・腓骨・足部）と連結									
7	骨学6：脊柱の骨① 頸椎・胸椎・胸郭									授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）
8	骨学7：脊柱の骨② 腰椎・骨盤									
9	骨学8：頭蓋骨									
10	筋学総論									
11	上肢帯の筋									
12	前腕・手部の筋									
13	体幹部の筋（腹筋群、脊柱起立筋群）									
14	骨盤・下肢の筋									
15	中枢神経・末梢神経				授業計画に該当する骨・筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）					
教科書	「系統看護学講座 基礎専門分野 人体の構造と機能1 解剖生理学」第10版 板井健雄・岡田隆夫著、医学書院 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 第3版」板井健雄・松村譲児監訳、医学書院									
参考文献	「新・徒手筋力検査法 原著第9版」Helen J. Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown著、津山直一・中村耕三訳、協同医学出版社 「図解 四肢と脊椎の診かた」S. Hoppenfeld著、野島元雄監訳、医歯薬出版株式会社 「人体の構造と機能」エレインN. マリープ著、第4版 医学書院 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著、第5版 医学教育出版社 「グレイ解剖学 原著第3版」塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER									
備考	A B別2クラス 毎授業開始時に前回講義分の小テストを行い、次回講義時に返却・解説する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

大和田：理学療法士としての経験が豊富で解剖学を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング							
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-02							
	●	●		●									
科目名	解剖学演習				単位認定者	大和田 宏美		試験 (口頭試問)	80 %				
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題(スケッチブック・レポート)	20 %			
					授業形態		演習		授業回数	15 回			
授業の概要	解剖学演習では、理学療法・作業療法と関わりが深い、運動器系の人体の構造を理解するために、骨の名称、筋の名称、筋の起始・停止、筋の作用や支配神経について骨と筋の模型を用いて学修する。												
到達目標	1. 各骨の位置、各筋の位置、筋の起始・停止、筋の作用を理解し、運動から体の動きをイメージできるようになる。 2. 骨格系・筋系・末梢神経系を学び、人の体の動きについて理解を深めることで臨床に繋げることができるようになる。												
学修者への期待等	グループワーク中心の講義となります。講義以外にグループで骨格系・筋系・末梢神経系について、骨模型や筋模型を使用して、互いに問題を出題しあい復習を行ってください。 理学療法の専門知識を学ぶ上で必要になる基本的な知識を身に付けてください。												
回	授業計画				準備学修			担当					
1	骨学総論：骨模型を組み立ててみよう				「解剖学とは何か」、「人の命の尊さとは何か」を考えてくる。 (予習時間概ね1時間程度)			大和田 宏美 鈴木 裕治					
2	骨学1：肩甲帯（鎖骨・胸骨・肩甲骨）グループワーク				授業計画に該当する骨について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）			大和田 宏美 鈴木 裕治					
3	骨学2：上肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨・手部）グループワーク							大和田 宏美 鈴木 裕治					
4	骨学3：上肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨・手部）と連結 グループワーク							大和田 宏美 鈴木 裕治					
5	骨学4：下肢骨（大腿骨・脛骨・腓骨・足部）グループワーク							大和田 宏美 鈴木 裕治					
6	骨学5：下肢骨（大腿骨・脛骨・腓骨・足部）と連結 グループワーク							大和田 宏美 鈴木 裕治					
7	骨学6：脊柱の骨① 頸椎・胸椎・胸郭 グループワーク							授業計画に該当する筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）			大和田 宏美 荒牧 隼浩		
8	骨学7：脊柱の骨② 腰椎・骨盤 グループワーク				大和田 宏美 荒牧 隼浩								
9	骨学8：頭蓋骨 グループワーク				大和田 宏美								
10	肩甲帯の筋 グループワーク				大和田 宏美 鈴木 裕治								
11	上肢の筋 グループワーク				大和田 宏美 鈴木 裕治								
12	前腕・手部の筋 グループワーク				大和田 宏美 鈴木 裕治								
13	体幹部の筋（腹筋群、脊柱起立筋群）グループワーク				大和田 宏美 荒牧 隼浩								
14	下肢帯の筋 グループワーク				大和田 宏美 鈴木 裕治								
15	下肢の筋 グループワーク				授業計画に該当する骨・筋・神経について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。（予習・復習時間概ね各1時間程度）						大和田 宏美 鈴木 裕治		
教科書	「筋学ハンドブック 単行本（ソフトカバー） 飯島 治之（著）、盆子原 秀三（著）」医歯薬出版 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系 第3版」板井健雄・松村謙児監訳、医学書院* 「系統看護学講座 基礎専門分野 人体の構造と機能1 解剖生理学」 第10版 板井健雄・岡田隆夫著、医学書院* *解剖学と同じ教科書を使用する。												
参考文献	「解剖学トレーニングノート」竹内修二著、第5版 医学教育出版社 「グレイ解剖学 原著第3版」塩田浩平・秋田恵一監訳、ELSEVIER 「ホネタン 骨単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS」 「ニクタン 肉単 語源から覚える解剖学英単語集 河合 良訓監修 NTS」												
備考	A B別2クラス 自己学修用にスケッチブック（A4）、色鉛筆（12色）を準備する。 授業内課題はスケッチブック・レポートの提出になる。スケッチブックは、骨と筋のスケッチと部位の名称等の記載が必要である。スケッチブックは、それぞれ骨学・筋学講義終了後に提出し、採点後にスケッチブックを返却する。 骨および筋について、学修できているかについて口頭試問で評価する。												

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

大和田：理学療法士としての経験が豊富で解剖学を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-03			
	●	●		●					
科目名	解剖学実習				単位 認定者	鈴木 裕治		試験(実技)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の 方法	
				授業形態	実習	授業時間数	44 時間		
						授業回数	22 回		
授業の概要	<p>理学療法・作業療法における検査・測定および治療を実施するにあたり、体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管等の身体組織の触診を行えることは必要不可欠な技術である。</p> <p>解剖学実習では、各組織の名称、筋の走行などの基本的な体表解剖学の確認を行うとともに、各部位ごとに触診する技術を学修する。</p> <p>また、人体解剖見学実習では、御献体をとおして人体の構造を立体的に捉え、生命の尊厳を理解し、医療従事者としての自覚と倫理観を身につけることができるよう学修していく。</p>								
到達目標	<p>1. 身体各組織、器官の名称と機能、触診が可能な部位を説明できるようになる。</p> <p>2. 体表から骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管を触診できるようになる。</p> <p>3. 各組織、部位を触診する意義を理解し、診断に正しく応用できるようになる。</p>								
学修者への期待等	<p>身体構造や形態を体表から透かして見るように的確に捉え、筋骨格系組織を意識的に区別して触診ができることで、身体形態的異常・アライメント異常を確認でき、痛みの原因や損傷・障害のある筋骨格系組織の鑑別に繋げられるようになる。また再現性のある正確な検査・測定および効果的治療が実施できる。授業にあたっては、解剖学の内容を十分に復習し、具体的到達目標に基づいた予習を行ったうえで授業に臨み、名称、位置、機能を総合的に学修することを原則とする。</p>								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	各組織の触診方法・ガイダンス				①配付資料を確認 ②シラバス・具体的到達目標を確認(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
2	骨・関節の触診(骨盤・大腿)(実技)				①解剖学の骨盤・大腿部の骨・関節・軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習(反転授業・AL) ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
3	骨・関節の触診(下腿・足部)(実技)				①解剖学の下腿・足部の骨・関節・軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習 ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
4	下肢の骨・関節の触診の確認(実技)				骨盤帯・下肢、足部の骨関節の授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
5	骨・関節の触診(肩甲帯)(実技)				①解剖学の肩甲帯の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習(反転授業・AL) ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
6	骨・関節の触診(上腕・前腕)(実技)				①解剖学の腕・前腕部の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習(反転授業・AL) ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
7	骨・関節の触診(手部)(実技)				①解剖学の手部の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習(反転授業・AL) ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
8	上肢の骨・関節の触診の確認(実技)				肩甲帯・上肢・手部の骨関節の授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
9	骨・関節の触診(体幹)(実技)				①解剖学の体幹の骨・関節の復習 ②具体的到達目標の予習(反転授業・AL) ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
10	軟部組織の触診(骨盤・大腿)(実技)				①解剖学の骨盤帯・大腿部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習(反転授業・AL) ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
11	軟部組織の触診(下腿・足部)(実技)				①解剖学の骨盤帯・大腿部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習(反転授業・AL) ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
12	下肢の軟部組織の触診の確認(実技)				骨盤帯・下肢、足部の軟部組織の授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
13	軟部組織の触診(肩甲帯・上腕)(実技)				①解剖学の肩甲帯・上腕部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習(反転授業・AL) ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
14	軟部組織の触診(前腕・手部)(実技)				①解剖学の腕・手部の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習(反転授業・AL) ③授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	
15	上肢の軟部組織の触診の確認(実技)				肩甲帯・上肢・手部の軟部組織の授業の復習(触診の実技練習)(60分程度)			鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路	

回	授業計画	準備学修	担当
16	軟部組織の触診（体幹）（実技）	①解剖学の体幹の軟部組織の復習 ②具体的到達目標の予習（反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路
17	血管・神経、その他身体組織の触診（実技）	①解剖学の血管・神経の復習 ②具体的到達目標の予習（反転授業・AL） ③授業の復習（触診の実技練習）（60分程度）	鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路
18	筋の解剖と作用（下肢）（実技）	①解剖学の下肢の筋の復習（AL） ②下肢の筋の起始停止の確認（60分程度）	鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路
19	筋の解剖と作用（上肢）（実技）	①解剖学の上肢の筋の復習（AL） ②上肢の筋の起始停止の確認（60分程度）	鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路
20	触診の理学療法への応用（実技）	①現在まで学習した触診部位、触診の流れの確認（AL） ②現在まで学習した検査・測定の復習（60分程度）	鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路
21	解剖実習における倫理	命の尊厳について考える。解剖学実習オリエンテーションの配付資料をよく読んでおくこと（30分程度）	鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路
22	触診の確認（実技）	配付資料、課題をよく確認のうえ、これまでの講義の復習を十分に行っておくこと（30分程度）	鈴木 裕治 荒牧 隼浩 小松 佳路
教科書	「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢」、青木 隆明 監修、メジカルビュー社 「改訂第2版 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹」、青木 隆明 監修、メジカルビュー社		
参考文献	「骨格筋の形と触察法」河上敬介・磯貝香、大峰閣 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」（第2版）坂井建雄・松村譲児監訳、医学書院 「カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版」Donald A. Neumann著、嶋田智明・有馬慶美監訳、医歯薬出版株式会社 「基礎運動学 第6版」中村隆一・齋藤宏・長崎浩著、医歯薬出版株式会社		
備考	A B別2クラス（Aクラス担当教員：鈴木・小松）（Bクラス担当教員：鈴木・荒牧） 触診を行えるよう、可能な限り裸出できる服装で授業に臨むこと		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

鈴木：この授業では理学療法評価、治療の実施の際、必須となる身体組織を触診し、その形状、長さ、硬さなどを同定する技術を学ぶ。当該教科担当者は臨床における十分な実務経験を有し、また触診、徒手療法などの研修会への参加も行っている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-04			
	●	●		●					
科目名	生理学Ⅰ（神経・運動・感覚）				単位 認定者	鈴木 裕一		授業内課題 (小テスト)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の 方法	
	O T	必修	1年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間
						授業回数	15 回		
授業の概要	生理学は、人体の機能を理解する学問である。人体の生理機能を理解するために、人体を構成する各要素（細胞 - 組織 - 器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を学ぶ。本講義では、人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を学び、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ(メカニズム)について構造(形態)機能を一体的に講義する。								
到達目標	1. 人体を構成する各要素(細胞 - 組織 - 器官)に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を説明できる。 2. 人体の運動機能を構成する神経系、感覚器の形態及び生理機能を説明し、外的刺激に対する人体の反射・反応、運動・活動のしくみ(メカニズム)について構造(形態)機能を一体的に説明できる。								
学修者への 期待等	1. 理学療法・作業療法を学ぶのに基礎となる科目なので真剣に取り組むこと。 2. 臨床医学（内科学など）を理解するのに必要な科目であることを頭に入れて取り組むこと。								
回	授業計画				準備学修				
1	人体について				教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと (概ね30分) 小テスト(1)を実施するため準備をすること				
2	化学の基礎：生体の化学組成								
3	細胞と組織								
4	皮膚と膜								
5	骨格系：骨と関節								
6	興奮性細胞：神経と筋肉				教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと (概ね30分) 小テスト(2)を実施するため準備をすること				
7	骨格筋の収縮機構								
8	神経系の構成、神経系の細胞								
9	運動制御1：脊髄、反射								
10	運動制御2：下行路・小脳・大脳基底核、自律神経系								
11	体性感覚				教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと (概ね30分) 小テスト(3)を実施するため準備をすること				
12	特殊感覚1：視覚、味覚、嗅覚								
13	特殊感覚2：聴覚、平衡覚								
14	高次脳機能1：情動、記憶と学習								
15	高次脳機能2：言語、脳波、睡眠								
教科書	「人体の構造と機能」 エレインN. マリーブ著、医学書院								
参考文献									
備考	P T・O T合同授業 授業内課題(小テスト)は、採点し次回の授業で返却する。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-05			
	●	●		●					
科目名	生理学Ⅱ（内臓・代謝・血液）				単位認定者	鈴木 裕一		授業内課題（小テスト）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	生理学Ⅰと同時並行で進行し、主に人体の循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、血液の形態及び生理機能並びに体液・体温の調節、栄養と代謝を学び、人体の生命現象の恒常性（ホメオスタシス）と運動・活動時の適応（運動生理）について構造（形態）機能を一体的に講義する。								
到達目標	1. 人体を構成する各要素（細胞 - 組織 - 器官）に分解してその個々の機能を理解し、それら要素間の相互関係や統合関係を説明できる。 2. 人体の循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌、血液の形態及び生理機能並びに体液・体温の調節、栄養と代謝を理解し、人体の生命現象の恒常性（ホメオスタシス）と運動・活動時の適応（運動生理）について構造（形態）機能を説明できる。								
学修者への期待等	1. 理学療法・作業療法を学ぶのに基礎となる科目なので真剣に取り組むこと。 2. 臨床医学（内科学など）を理解するのに必要な科目であることを頭に入れて取り組むこと。								
回	授業計画				準備学修				
1	内分泌系1：視床下部と脳下垂体、甲状腺、副甲状腺				教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（概ね30分） 小テスト（1）を実施するため準備をすること				
2	内分泌系2：副腎、膵島、その他のホルモン								
3	心臓、心電図								
4	循環、血圧								
5	微小循環とリンパ系								
6	血液の組成と機能				教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（概ね30分） 小テスト（2）を実施するため準備をすること				
7	呼吸器系1：構造								
8	呼吸器系2：機能								
9	腎尿路系の構造と機能								
10	体液調節、体温調節								
11	消化器系1：構造				教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（概ね30分） 小テスト（3）を実施するため準備をすること				
12	消化器系2：消化と吸収								
13	栄養と代謝								
14	生殖器系1：生殖線の構造と働き								
15	生殖器系2：妊娠と胚の発育								
教科書	「人体の構造と機能」エレインN. マリーブ著、医学書院								
参考文献									
備考	P T・O T合同授業 授業内課題（小テスト）は、採点し次回の授業で返却する。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-06				
	●	●		●						
科目名	生理学実習				単位認定者	坂上 尚穂		授業内課題 (レポート)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	40 %
					授業形態	実習	授業時間数		44 時間	
							授業回数		22 回	
授業の概要	本講義では、「生理学Ⅰ・Ⅱ」で学修した内容について、実際の測定・実験を通し、その生理学的メカニズムについて学修する。主に、心電図、神経伝導速度、筋電図、反射、感覚、心肺機能、体組成、血圧、尿組成に関する測定・実験を実施する。									
到達目標	心電図、神経伝導速度、筋電図、反射、感覚、心肺機能、体組成、血圧、尿組成について、各臓器の構造と機能を基に説明できる。									
学修者への期待等	観察や測定・実験中心の講義になります。積極的に実習に臨むようにしてください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	細胞の構造、細胞膜の透過性（実習）				細胞に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
2	骨、骨髄、及び関節の観察（実習）				骨や関節に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
3	骨格筋の生理：表面筋電図測定（実習）				骨格筋に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
4	脊髄の解剖、運動神経伝導速度測定（実習）				脊髄に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
5	脳の解剖と生理：脳波（実習）				脳に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
6	体性感覚：皮膚感覚（実習）				体性感覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
7	体性感覚、腱反射（実習）				腱反射に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
8	視覚：盲点、対光反射（実習）				視覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
9	聴覚・平衡覚（実習）				聴覚・平衡覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
10	味覚・嗅覚（実習）				味覚・嗅覚に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
11	体組成の測定・筋肉量と筋力（実習）				体組成に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
12	血球の観察（実習）				血球に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			坂上 尚穂 荒牧 隼浩		
13	血管の解剖と生理：脈拍、血圧、静脈（実習）				血管系に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
14	心臓の解剖と生理：心音、心電図（実習）				心臓に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
15	呼吸器系の解剖と生理：スパイロメトリー（実習）				呼吸器系に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		

回	授業計画	準備学修	担当
16	運動生理学：エネルギー代謝（実習）	エネルギー代謝に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	伊藤 大亮 荒牧 隼浩
17	運動生理学：循環機能（実習）	運動と循環器に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	坂上 尚穂 伊藤 大亮
18	消化器系の解剖、口腔機能（実習）	消化器系に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	坂上 尚穂 伊藤 大亮
19	体温測定（実習）	体温調節に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	坂上 尚穂 荒牧 隼浩
20	泌尿器系の解剖と生理：尿組成測定（実習）	泌尿器系に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	坂上 尚穂 荒牧 隼浩
21	内分泌系の解剖と生理：血糖値測定（実習）	内分泌系に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	坂上 尚穂 荒牧 隼浩
22	生殖器系の解剖（実習）	生殖器系に関する生理学の講義内容を復習してくる（概ね30分）	坂上 尚穂 荒牧 隼浩
教科書	「人体の構造と機能」エレインN. マリーブ著、医学書院		
参考文献			
備考	A B別2クラス 授業内課題においては採点后返却します。全ての講義にてグループにて実験を実施します。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

坂上：理学療法士としての経験が豊富で生理学を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-07			
	●	●		●					
科目名	運動学				単位認定者	原 和彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	運動学は、人間の身体運動に関係のある諸原理を多くの科学から取り入れ、系統的に応用している。本講義では、解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、身体運動を自然科学的観点から学修する。また、身体運動の基本的な理解のため頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動を学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 身体構造を学ぶ解剖学を基に、身体運動を学ぶ運動学を合わせて理解することができる。 身体運動に関する基本的知識を理解することができる。 基本的な運動を理解することで、身体運動について専門用語を用いて表現することができる。 身体運動を理解するために運動学の知識を用いて考察することができる。 								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士の専門基礎となる本科目について自己学修時間を十分に確保しましょう。 指定教科書、参考書、LMSへ掲載の資料を用いて自己学修し、授業に臨みましょう。 本科目は「運動学実習」「運動学演習」をはじめ、PTの専門領域に繋がる重要な科目であり、身体運動を考察できるよう着実に学修を進めましょう。 								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	運動学の概要、生体力学の基礎①(身体運動、力学、円運動、筋力と重力)				P1～31を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦	
2	生体力学の基礎②(モーメント、運動法則、仕事とエネルギー、身体とてこ)				P31～46を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦	
3	肩関節複合体の運動学				P213～224を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			坂上 尚穂	
4	肘関節・前腕の運動学				P224～229を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			坂上 尚穂	
5	手関節・手指の運動学				P229～246を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			坂上 尚穂	
6	股関節の運動学				P246～256を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			森永 雄	
7	膝関節の運動学				P256～260を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			森永 雄	
8	足関節・足部の運動学				P260～271を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			森永 雄	
9	脊柱・体幹の運動学(頭部・頸部)				P293～296、271～278を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦	
10	脊柱・体幹の運動学(胸部・腰部)				P283～292を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦	
11	体力と運動処方、生体の構造と機能				P47～213、327～378の指定箇所を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦	
12	姿勢				P347～378を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦	
13	歩行(歩行周期、関節運動、重心移動)				P379～404を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦	
14	歩行(床反力、筋活動、異常歩行)				P404～440を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦	
15	運動学習				P467～500を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦	
教科書	「基礎運動学 第6版補訂」中村隆一他著、医歯薬出版著(2015) 「エッセンシャル・キネシオロジー～機能的運動学の基礎と臨床～」弓岡光徳、溝田勝彦、村田伸 監修 エルゼビア・ジャパン								
参考文献	プロメテウス解剖学アトラス、足の外科学用語集 第3版(日本足の外科学会) 運動学(15レクチャーシリーズ)中山書店								
備考	授業特徴: A B別2クラス、アクティブラーニング、ICT利活用教育(LMS上で資料提示等を行う) 試験(筆記): 授業で扱った範囲を出題する。 授業内課題: 授業毎に前回講義内容の確認テストを行い、次回講義時に返却・解説する 受講態度: 無断欠席は減点対象となる								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

原: 理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-08					
	●	●		●							
科目名	運動学実習				単位認定者	坂上 尚穂		授業内課題	80 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	PT		必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
						授業形態		実習		授業回数	22 回
授業の概要	運動学実習では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、「運動学」において学修した知識を応用し、実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 身体運動に関する基本的知識を理解することができる。 基本的な運動を理解し、身体運動における関節運動や活動する筋を説明できる。 運動学の知識を日常生活動作と関連させて説明することができる。 										
学修者への期待等	動きやすい服装（短パンなど）を準備してください。解剖学・運動学の知識を応用し、症例への評価、運動療法につなげてください。今後、臨床評価を学ぶ上での基盤となる内容です。指定教科書とLMSへ掲載の資料を用いて自己学修し、授業に臨んで欲しい。										
回	授業計画				準備学修				担当		
1	運動学実習の概要 生体力学の実習①(力学、円運動、筋力と重力など)				指定教科書①p1-11までを予習してください(30分程度)。				原 和彦 森永 雄		
2	生体力学の実習②(身体とてこ、モーメントなど)				指定教科書①p11-17までを予習してください(30分程度)。				原 和彦 森永 雄		
3	肩複合体の関節運動学の実習(主に上肢帯) 骨模型、筋模型を用いた触診・観察などの実習				指定教科書①p51-88までを予習してください(60分程度)。				坂上 尚穂 森永 雄		
4	肩複合体の関節運動学(主に肩甲上腕関節) 骨模型、筋模型を用いた触診・観察などの実習				指定教科書①p51-88までを予習してください(60分程度)。				坂上 尚穂 森永 雄		
5	肘関節・前腕の関節運動学 骨模型、筋模型を用いた触診・観察などの実習				指定教科書①p89-115までを予習してください(60分程度)。				坂上 尚穂 森永 雄		
6	手関節・手指の関節運動学 骨模型、筋模型を用いた触診・観察などの実習				指定教科書①p117-168までを予習してください(60分程度)。				坂上 尚穂 森永 雄		
7	上肢関節運動(関節可動域)、握力の実習 肢位に違いによる二関節筋の影響				関連知識の復習(60分程度)				坂上 尚穂 森永 雄		
8	日常生活動作に関する上肢関節可動域の実習 (更衣動作、食事動作など)				関連知識の復習(60分程度)				坂上 尚穂 森永 雄		
9	上肢関節運動(関節可動域)、握力の実習の発表				発表準備(60分程度)				坂上 尚穂 森永 雄		
10	日常生活動作に関する上肢関節可動域の実習の発表				発表準備(60分程度)				坂上 尚穂 森永 雄		
11	股関節の関節運動学 骨模型、筋模型を用いた触診・観察などの実習				指定教科書①p217-258までを予習してください(60分程度)。				森永 雄 坂上 尚穂		
12	膝関節の関節運動学 骨模型、筋模型を用いた触診・観察などの実習				指定教科書①p259-289までを予習してください(60分程度)。				森永 雄 坂上 尚穂		
13	足関節・足部の関節運動学 骨模型、筋模型を用いた触診・観察などの実習				指定教科書①p293-328までを予習してください(60分程度)。				森永 雄 坂上 尚穂		
14	下肢関節運動(関節可動域)の実習 肢位に違いによる二関節筋の影響				関連知識の復習(60分程度)				森永 雄 坂上 尚穂		
15	下肢関節運動(関節可動域)実習の発表				発表準備(60分程度)				森永 雄 坂上 尚穂		

回	授業計画	準備学修	担当
16	日常生活動作に関する下肢関節可動域の実習 (階段昇降、更衣動作、しゃがみ動作)	関連知識の復習 (60分程度)	森永 雄 坂上 尚穂
17	日常生活動作に関する下肢関節可動域の実習の発表	発表準備 (60分程度)	森永 雄 坂上 尚穂
18	下肢運動連鎖の実習 荷重下での下肢関節運動運動連鎖を学修する	関連知識の復習 (60分程度)	森永 雄 坂上 尚穂
19	脊柱・体幹の関節運動学 骨模型、筋模型を用いた触診・観察などの実習	指定教科書①p169-216の該当箇所を予習してください (60分程度)。	原 和彦 坂上 尚穂
20	姿勢、歩行 (歩行周期、関節運動、重心移動) 観察・計測などの実習	指定教科書①p332-347までを予習してください (60分程度)。	原 和彦 坂上 尚穂
21	歩行 (床反力、筋活動、異常歩行) 触診・観察などの実習	指定教科書①p332-347までを予習してください (60分程度)。	原 和彦 坂上 尚穂
22	総復習	関連知識の復習 (60分程度)	原 和彦 坂上 尚穂
教科書	①「エッセンシャル・キネシオロジー～機能的運動学の基礎と臨床～」弓岡光徳、溝田勝彦、村田伸 監修 エルゼビア・ジャパン ②「基礎運動学 第6版補訂」中村隆一他著、医歯薬出版		
参考文献	「身体運動学 関節の制御機構と筋機能」市橋則明著、メディカルビュー社 「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」Donald A. Neumann著、医歯薬出版		
備考	A B別2クラス LMSを利用して課題を提出する。授業内課題 (発表) は授業内に解説し、フィードバックする。 ②の教科書も持参する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

坂上：理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-09				
	●	●		●						
科目名	人間発達学				単位認定者	大橋 孝子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	30 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	人間発達学では、生涯にわたる人間発達の様相を、胎児期・新生児期から乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期において、それぞれが持つ身体的、精神的、心理社会的特徴とその障害を理解し、発達に応じた社会との関わりを総合的に捉え、具体的支援の在り方について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間発達の原則を理解する事ができるようになる。 ・人間発達の概要を理解する事ができるようになる。 ・遊びの重要性を理解することができるようになる。 ・胎児期から老年期までの各発達段階の特徴を理解できるようになる。 									
学修者への期待等	理学療法を行う上で、基本となる科目の一つです。人に関心を持ち、発達に興味を持って欲しいと思います。									
回	授業計画				準備学修					
1	人間発達学の概要				教科書P2～P17を読んでくる。(概ね30分程度)					
2	胎生期・新生児期・乳児期の特徴				教科書P20～P36を読んでくる。(概ね30分程度)					
3	運動の発達(小テスト1回目)				教科書P38～P60を読んでくる。(概ね30分程度)					
4	姿勢反射(原始反射・正常姿勢反応)				教科書P50～P55の図を確認してくる。(概ね30分程度)					
5	上肢機能の発達(小テスト2回目)				教科書P48～49、P185～P188、P208～P211を読んでくる。(概ね30分程度)					
6	目と手の協調性の発達				目と手の協調性とは何か調べてまとめてくる。(概ね30分程度)					
7	認知能力の発達 身体認知の発達(小テスト3回目)				教科書P62～P86を読んでくる。(概ね30分程度)					
8	視覚・眼球運動の発達				教科書P66～P73を読んでくる。(概ね30分程度)					
9	社会性の発達と言語の発達(小テスト4回目)				教科書P90～P120、P140～168を読んでくる。(概ね30分程度)					
10	遊びの発達とその重要性				教科書P198～P204を読んでくる。(概ね30分程度)					
11	日常生活活動の発達(小テスト5回目)				教科書P204～P210を読んでくる。(概ね30分程度)					
12	幼児期・児童期の発達				幼児期と児童期の発達について調べまとめる。(概ね30分程度)					
13	青年期・成人期・老年期の発達				青年期・成人期・老年期の発達について調べまとめる。(概ね30分程度)					
14	発達に即したおもちゃ作り グループワーク				どんな発達を促すおもちゃを作成したいか、自分の考えをまとめてくる。(概ね30分程度)					
15	作成したおもちゃの発表 プレゼンテーション				聞き手が興味を持てるようなプレゼンテーションの方法をグループ内で検討しておく。(概ね30分程度)					
教科書	「リハビリテーションテキスト 人間発達学」浅野大喜編集 メジカルビュー									
参考文献	「手にとるように発達心理学がわかる本」小野寺敦子著、かんき出版 「発達を学ぶ 人間発達学レクチャー」森岡周著、協同医書出版社 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「人間発達学」岩崎清隆執筆、医学書院									
備考	AB合同授業 小テストの範囲はその都度連絡します。小テストは採点し返却します。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

実務経験の概要：健全な子どもの相談支援や、発達障害に対する理学療法、相談支援等について経験している。
実務経験と授業科目との関連性：人間の発達について、様々な観点から教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-01			
		●		●					
科目名	病理学				単位 認定者	三木 康宏		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		
	O T	必修	1年			授業時間数	16 時間		
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	病理学とは、「やまい(病)」の「ことわり(理)」を学ぶ学問である。種々の疾患(腫瘍、循環器系疾患、免疫疾患など)によって、組織・細胞はさまざまな適応(環境変化に対する適応)をとるが、「病理学」ではその意味と疾患のかかわりについて学修する。								
到達目標	1. 心身機能上の異常において、その原因と身体の組織学的変化について学び、説明できるようになる。 2. 人体の変化から疾病の原因を推定できるようになる。 3. 以上から、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようになる。								
学修者への期待等	「病理学」は「解剖学」や「生理学」などの基礎医学と密接に関係している。毎回の講義内容について、これまでに修得した基礎医学との関連を見いだすことが重要であり、そこから「心身機能の異常」について理解する必要がある。授業の最後に予習ポイントを提示するので、上記関連事項を踏まえながら次回の講義に備えてもらいたい。								
回	授業計画				準備学修				
1	病理学とはなにか/病気の発生要因(病因)について/細胞の増殖と生涯について				教科書第1章(病理学とは何か)、第2章(細胞障害と細胞増殖)を読む。(概ね1時間30分程度)				
2	環境に対する細胞組織の適応について				教科書第3章(組織、細胞の修復と再生)、第10章(代謝異常) p. 119-121を読む。(概ね2時間程度)				
3	生体防御反応としての炎症について				教科書第5章(炎症)を読む。(概ね1時間程度)				
4	免疫の基礎と疾患について				教科書第7章(免疫機構の異常)を読む。(概ね2時間程度)				
5	腫瘍: 良性と悪性との鑑別とその発生について				教科書第9章(腫瘍)を読む。(概ね2時間程度)				
6	遺伝子と疾患について				教科書第8章(遺伝と先天異常)を読む。(概ね1時間程度)				
7	循環障害: 体液の廻りと滞りについて				教科書第4章(循環障害)を読む。(概ね1時間程度)				
8	これまでの講義を振り返り、病理学を再考する				日本人の死因の年次推移に関する資料(7回までに配付)をから、その病因を考える(概ね1時間程度)				
教科書	「シンプル病理学」笹野公伸他編、株式会社南江堂								
参考文献	「標準理学療法学・作業療法学 専門分野 病理学」梶原博毅他編、医学書院								
備考	P T・O T 合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-02			
		●		●					
科目名	医学概論				単位 認定者	佐直 信彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価 の方法	
	O T	必修	1年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	医療は生物心理社会的な包括的アプローチが求められる。本講義では、医学と生命科学の進歩の過程で問われる倫理、健康を実現する保健医療体制、健康と疾病、予防医学について学修する。症候学では主要な症候の病態・診断・治療の概要について学修し、薬物治療では薬物と生体の相互作用(薬理)について学ぶ。								
到達目標	1. 医の倫理の原則について理解し説明できるだけでなく、行動で実践できる。 2. 我が国の医療の現状と課題について理解する。安全管理について説明でき、臨床の場で実践できる。 3. 重要な症候について医学的な理解(病態、診断、治療)と説明ができ、理学療法・作業療法に展開できる。 4. 理学療法、作業療法の主要な対象疾患に利用される薬物の薬師作用と副作用について理解し、理学療法・作業療法に展開できる。								
学修者への 期待等	・専門の科目は全て新しく学ぶ分野なので、授業中に理解できるように集中し、解らないことは質問すること。 ・LMS上の授業資料とコメントをもとに準備すること。授業後は、ノートやLMS資料への書き込み等を整理し、復習に重点を置くこと。 ・教わったことを覚えるだけではなく、「なぜ」かを常に考えること。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	医学の歴史と生命科学の展開				講義資料で予習復習し、生命科学と医学の関係について考える。(概ね45分)			飯沼 一字	
2	生命の尊厳と医の倫理				講義資料で予習復習し、医の倫理的課題についての身近な報道をチェックする。(概ね45分)			飯沼 一字	
3	我が国の医療供給体制(医療安全管理を含む)				講義資料で予習復習し、我が国の医療について国際的視点から考える。(概ね45分)			飯沼 一字	
4	医療保障の現状と課題(医療の質の評価を含む)				講義資料で予習復習し、我が国の国民皆保険の仕組みと課題を整理する。(概ね45分)			飯沼 一字	
5	健康と疾病				講義資料で予習復習し、健康の考え方、疾病の起こり方と生体の反応について考える。(概ね45分)			飯沼 一字	
6	診断と治療 医学モデル、治療学総論、新しい治療法の展開				講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)			佐直 信彦	
7	臨床検査(1)(臨床実習で直面する心電図、肺気量を中心に行う)							佐直 信彦	
8	臨床検査(2)(臨床実習で直面する画像診断、脳CTを中心に行う)							佐直 信彦	
9	臓器・器官横断的な主要症候と病態(1) 1. 発熱、2. ショック、3. 浮腫、4. 呼吸困難							佐直 信彦	
10	臓器・器官横断的な主要症候と病態(2) 5. 動悸、6. 食欲不振、7. 悪心・嘔吐、8. 咯血・吐血、9. 腹痛							佐直 信彦	
11	薬物療法総論 1. 薬物と医薬品 2. 薬物療法の目的 3. 薬理作用と作用機序 4. 薬物動態と薬効 5. 副作用と有害作用、影響因子							佐直 信彦	
12	薬物療法各論(1) 1. 末梢神経作用薬							佐直 信彦	
13	薬物療法各論(2) 2. 中枢神経作用薬							佐直 信彦	
14	薬物療法各論(3) 3. 心臓・血管系作用薬/呼吸器系作用薬							佐直 信彦	
15	薬物療法各論(4) 4. 抗炎症薬							佐直 信彦	
教科書	講義資料を配付又はLMS上に投稿する。								
参考文献	「コメディカルのための専門基礎分野テキスト 医学概論」北村論著、中外医学社(図書館蔵、以下同じ) 「目でわかる内科学」Patrick Davey著、日野原重明日本語版監修、メディカル・サイエンス・インターナショナル 「新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 現代医療論」小坂樹徳他編著、メヂカルフレンド社 「学生のための生命科学と倫理」藤村重文著、医学書院出版サービス 「わかりやすい薬理学」安原・小口著 NOUVELL HIROKAWA								
備考	P T・O T 合同授業 授業内課題の解答及び筆記試験の結果の講評はLMSに掲載 個別には教員研究室にて対応								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

飯沼は医学部卒業後東北大学病院小児科学の臨床・教育・研究に携わり、石巻赤十字病院院長を務めた。その経験をもとに講義1-5を担当する。佐直は医学部卒業後東北大学医学部附属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事した。この経験をもとに講義6-15を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-H&R-02			
		●		●	●				
科目名	社会福祉概論				単位認定者	佐々木 仁		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	1年			授業時間数	16 時間		
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	現代における社会福祉の意義・理念について理解し、福祉の法体系制度、介護保険制度などの概要を理解する。理学療法士、作業療法士として、関連分野である福祉の現状を学修する。								
到達目標	1. 社会福祉の意義・理念、社会福祉法制度・諸施策、福祉サービス制度、社会福祉支援のあり方などを学び理解する。 2. 理学療法士、作業療法士として関連分野である社会福祉への関心・理解を深め、専門職としてのチームアプローチにつなげていく。								
学修者への期待等	日常の身の回りの出来事やニュースなどからも、私たちと社会福祉とのつながりを理解し、これからの自らの実践に活かしていきましょう。								
回	授業計画				準備学修				
1	社会福祉について、国民の健康づくりにおける保健・医療・福祉の位置づけと相互連携、憲法25条と社会保障				【事前】テキスト1章、2章、3章を読む。「社会福祉」について調べ、自らの言葉で説明を試みる。(概ね60分程度)				
2	子どもに関する福祉制度、社会状況の変化・現代家族の動向と変化・専門職の必要性・子育て支援・児童虐待防止				【事前】テキスト4章を読む。子育ての施策に関して自治体のホームページなどから調べる。(概ね60分程度)				
3	障がい者福祉、ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン・障害者虐待防止・成年後見制度と関連制度				【事前】テキスト5章を読む。障がい者保健福祉サービスについて自治体のホームページなどから調べる。(概ね60分程度)				
4	高齢者福祉、地域包括ケアシステム、老人福祉法・介護保険法の概要・介護システムとケアマネジメント				【事前】テキスト6章、7章を読む。高齢者福祉サービス・介護保険サービスについて自治体のホームページなどから調べる。(概ね60分程度)				
5	公的扶助、生活保護の実施体制・生活保護の種類と内容・生活保護の原理原則				【事前】テキスト8章を読む。生活保護制度について調べ、なぜ生活保護制度が必要かについて、自分の意見をまとめる。(概ね60分程度)				
6	地域福祉とその推進、社会福祉施設の役割				【事前】テキスト9章、12章を読む。地域福祉の活動内容について調べる。社会福祉施設についてどのようなものがあるか調べる。(概ね60分程度)				
7	医療福祉、医療保険制度の概要ならびに医療法、医療従事者の各資格の概要について、傷病者支援、訪問診療・看護と在宅ケア				【事前】テキスト10章を読む。医療従事者の各資格と業務内容について調べる。(概ね60分程度)				
8	社会福祉従事者、社会福祉の実践事例 社会福祉の援助と方法～援助の展開過程の実践と理解				【事前】テキスト13章、14章、15章を読む。チームアプローチにおける理学療法士・作業療法士の役割と可能性について考察して講義に臨む(概ね60分程度)				
教科書	「コメディカルのための社会福祉概論」 鬼崎信好／本郷秀和・編 講談社 第五版								
参考文献	「社会保障入門2023」 (中央法規出版)								
備考	P T・O T合同授業。全て遠隔(オンデマンド)に変更する可能性あり。 毎回の講義終了後に課題(レポート・小テスト)を出す。提出をもって出席・評価の対象にする。また、次回以降の授業で総評をフィードバックする。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-H&R-01			
		●		●	●				
科目名	リハビリテーション概論				単位認定者	佐直 信彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		
	O T	必修	1年				授業時間数	30 時間	
				授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	リハビリテーションは障害を有する者を対象とする。医学や医療技術の進歩発展、超高齢化とともに、障害とかかわって生活することは誰にでも起こりうる社会となった。本講義では、自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの基本理念ならびに生活機能とその障害を正しく理解する。また、リハビリテーション医療の特性と、多職種連携を理解した上で、地域包括ケアシステムについても学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「リハビリテーション」の多義性－理念、科学、サービス提供－について説明できる。 健康、疾病、障害と「国際生活機能分類 ICF」について理解でき、リハビリテーションの諸領域において展開できる。 リハビリテーションの諸領域と専門職連携についてチームアプローチモデルに基づいて説明でき、療法士として実践できる。 リハビリテーション過程について説明でき、理学療法・作業療法のなかで展開できる。 								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 専門の科目は全て新しく学ぶ分野なので、授業中に理解できるように集中し、解らないことは質問すること。 LMS上の授業資料(事前に配付)とコメントをもとに準備すること。授業後は、ノートやLMS資料への書き込み等を整理し、復習に重点を置くこと。 								
回	授業計画				準備学修				
1	リハビリテーションとは (1) 障害者とリハビリテーションをめぐって				教科書1p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
2	リハビリテーションとは (2) 「障害者」諸外国の対応と我が国の変遷				教科書17p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
3	リハビリテーションとは (3) 我が国における「リハビリテーション」の語義の用例				復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
4	リハビリテーションとは (4) 健康と生活の質				教科書21p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
5	病気と障害 (1) 病気とは、傷害とは、そしてICF				教科書29p～、39p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
6	病気と障害 (2) 慢性疾患モデルと障害予防 リハビリテーションと心理：心理的適応の過程・障害受容				教科書54p～、109p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
7	リハビリテーションの諸領域 I 医学的リハビリテーション				教科書115p～、121p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
8	II 障害児教育、III職業リハビリテーション IV 社会・地域リハビリテーション				教科書127p～、137p～、150p～、215p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
9	V 障害福祉サービスと補装具/日常生活用具				教科書318p～、353p～、215p～、3962p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
10	VI 高齢者サービス (1) 高齢者対策の理念と推移、高齢者リハビリテーション				教科書154p～、359p～、 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
11	VI 高齢者サービス (2) 高齢者リハビリテーションの特殊問題と介護制度				教科書155p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
12	リハビリテーションの過程 I 評価とプログラム ～測定・評価～				教科書167p～、 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
13	II チームアプローチと専門職				教科書183p～、186p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
14	III 疾病治療とリハビリテーション医療 IV 廃用症候群 (1) 総論				参考文献「入門リハ医学」193p～、432p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
15	IV 廃用症候群 (2) 各論				参考文献「入門リハ医学」432p～ 復習中心にノートを整理する。(概ね45分程度)				
教科書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一・佐直信彦編、医歯薬出版株式会社								
参考文献	「入門リハビリテーション医学」中村隆一監修、岩谷力・佐直信彦他編、医歯薬出版株式会社(図書館蔵)								
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・P T・O T 合同授業 ・授業資料等はLMS上に投稿する。 ・教科書の頁数は版、刷の改訂で変わります。 ・授業内課題の解答及び筆記試験の結果の講評はLMSに掲載する。 個別には教員研究室にて対応する。 								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医学部卒業後東北大学医学部付属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医等を取得した。その傍ら宮城県リハビリテーション協議会会長として宮城県の地域リハビリテーションの構築にかかわった。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-BPT-01				
		●		●						
科目名	理学療法学概論				単位認定者	大橋 孝子		受講態度	20 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	30 %
							授業時間数		30 時間	試験 (筆記)
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	理学療法学概論とは、理学療法について理解を深める講義である。理学療法の本質と将来の方向性を理解するために、理学療法の定義、歴史、役割、将来展望を学ぶ。また、理学療法の業務や考え、対象疾患や治療手段、理学療法士の法的背景等を学び、基本的な理学療法の流れについて学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の定義について説明できる。 2. 理学療法士の専門性と役割について説明できる。 3. 理学療法士の対象疾患と、その治療手段について説明できる。 4. 理学療法士に関連する法規や保険制度について説明できる。 									
学修者への期待等	理学療法士を志向するうえで、理学療法とは何かを理解することが必要である。それを基礎として、理学療法の専門性について、「患者中心」で「医学的根拠に基づく」という理念を持ち、積極的に学修していくことを望む。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	理学療法概要 理学療法とは～理学療法と倫理・哲学				授業内容を復習としてまとめ、それについての自分の考えをまとめる。 (概ね30分)				網本 和	
2	理学療法の背景 (1) 歴史 法律 職業倫理 プロフェッショナリズム								大橋 孝子	
3	理学療法の背景 (2) 障害の概念・分類 保険制度								大橋 孝子	
4	理学療法学の基盤 理学療法モデル								網本 和	
5	理学療法組織と部門管理								網本 和	
6	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 1 運動器疾患								網本 和	
7	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 2 神経系疾患								網本 和	
8	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 3 循環器疾患								網本 和	
9	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 4 呼吸器疾患								網本 和	
10	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 5 小児疾患								大橋 孝子	
11	予防理学療法学								網本 和	
12	理学療法と地域包括ケア 地域理学療法								大橋 孝子	
13	理学療法士の組織とその活動								網本 和	
14	チームアプローチについて 作業療法士との連携				復習として、講義内容 (作業療法) についてまとめる。(概ね30分程度)	齋藤 佑樹				
15	世界の理学療法～先進国の理学療法 発展途上国への援助				授業内容を復習としてまとめ、それについての自分の考えをまとめる。(概ね30分)	網本 和				
教科書	適時配付する									
参考文献	「概説理学療法」第2版 有馬慶美 (編) 文光堂 「理学療法学事典」奈良勲 (監) 医学書院 「シンプル理学療法シリーズ理学療法概論テキスト改訂第2版」細田多穂 (監) 南江堂 「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト理学療法概論」石川朗 (総編集) 中山書店									
備考	A B 合同授業 LMSに資料をあげる場合があります。毎回LMSを確認してください。授業内課題については、その都度連絡します。授業課題については、後日フィードバックします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-BPT-02				
		●		●						
科目名	運動療法基礎理論				単位認定者	網本 和		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	運動療法基礎理論では、理学療法において重要な部分を占める運動療法の基礎知識を学ぶ。運動療法の歴史、理学療法における運動療法の位置づけ、運動(筋収縮)の様式、関節可動域運動や筋力増強運動などの基本的な運動療法の目的と手段、対象、適応について学修する。									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法の概念を説明できるようになる 2. 組織の病態生理を理解し関節可動域運動および筋力増強運動等の理解を深め実施できるようになる 3. 協調性運動などの他の運動療法についても理解を深め、説明できるようになる 4. これらの知識を臨床においても応用できるように理解を深める 									
学修者への期待等	解剖学・生理学・運動学の知識を応用し、常に理学療法の仕事を意識して、症例の運動療法につなげてください。今後、理学療法臨床学を学ぶ上での基盤となる科目です。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	運動療法の歴史・概念・定義・位置づけ				P1～9を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			網本 和		
2	運動療法の基礎①(結合組織・関節・骨・神経の構造と機能)				P11～32を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			網本 和		
3	運動療法の基礎②(病態生理・解剖など)				P33～49を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			網本 和		
4	運動療法機器				P57～62を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			網本 和		
5	基本的運動				P50～56を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			網本 和		
6	関節可動域運動(ROM-ex)① 総論				P63～87を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦		
7	関節可動域運動(ROM-ex)② 各論				P88～118を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦		
8	筋力維持増強運動①(概要)				P119～128を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦		
9	筋力維持増強運動②(評価・実際)				P128～142を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			原 和彦		
10	持久力増強運動①(概要)				P143～150を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			佐々木 広人		
11	持久力増強運動②(評価・実際)				P150～153を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			佐々木 広人		
12	全身調整運動・機能回復運動およびリラクゼーション運動				P155～170を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			佐々木 広人		
13	協調性の改善				P171～182を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			佐々木 広人		
14	神経筋再教育・神経生理学的アプローチ				P183～204を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			佐々木 広人		
15	筋・筋膜通に対するストレッチング・リリース法と運動療法、総復習				P205～213を予習し、講義内容への理解を深める(概ね30分)。			佐々木 広人		
教科書	選定中									
参考文献	プロメテウス解剖学アトラス、からだの機能と運動療法(メジカルビュー社)、解剖画像・動画									
備考	A B 合同授業、アクティブラーニングも取り入れる、ICT活用教育(LMS上で資料提示等を行う) <ul style="list-style-type: none"> ・試験(筆記): 講義・体験実技で扱った範囲とする。 ・受講態度には無断欠席も減点対象となる 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

網本: 理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-ASP-01				
		●	●	●						
科目名	基礎理学療法評価学概論				単位 認定者	佐々木 広人		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	理学療法評価とは、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程である。理学療法評価を行うことで、対象者の問題点の把握、治療計画の立案、介入、介入効果の判定などに用いられる重要な情報の一つである。基礎理学療法評価学概論では、理学療法における臨床場面で必要な理学療法評価に関する基本的な知識(画像所見も含む)を習得する。理学療法評価の目的、検査測定、問題点、治療プログラム立案という理学療法評価の流れを学修する。									
到達目標	理学療法評価の意義、目的について理解すること。 各評価項目についての基本的な方法や解釈について説明・実施できるようになること。									
学修者への期待等	基本的な検査・測定の知識・技法を修得するために、意欲的に学修してください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	理学療法評価の意義、目的について				指定教科書の該当ページを読んで授業に臨んでください(予習・復習概ね各30分程度)			佐々木 広人		
2	理学療法評価の進め方							佐々木 広人		
3	医療面接							佐々木 広人		
4	情報収集							佐々木 広人		
5	意識障害・全身状態の評価							伊藤 大亮 佐々木 広人		
6	バイタルサイン(血圧、脈拍)実技							伊藤 大亮 佐々木 広人		
7	バイタルサイン(呼吸)実技							伊藤 大亮 佐々木 広人		
8	姿勢評価の意義、異常姿勢 実技							坂上 尚穂 佐々木 広人		
9	姿勢評価の実際 実技							坂上 尚穂 佐々木 広人		
10	関節可動域テスト							坂上 尚穂 佐々木 広人		
11	筋力テスト							佐々木 広人		
12	全身機能の評価(栄養状態・フレイル)							佐々木 広人		
13	形態測定:四肢長(上肢)実技							坂上 尚穂 小松 佳路		
14	形態測定:四肢長(下肢)実技							坂上 尚穂 小松 佳路		
15	形態測定:四肢周径 実技							坂上 尚穂 小松 佳路		
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」第2版 下田信明他編、羊土社									
参考文献	「新・徒手筋力検査法 原著第10版」Helen J. Hislop、Dale Avers、Marybeth Brown著、津山直一・中村耕三訳、協同医書出版社 「図解理学療法検査・測定ガイド 第2版」内山靖編、文光堂									
備考	A B別2クラス 講義により、小テストや課題を課す場合がある。その場合は、次回講義時に返却・解説する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐々木: 理学療法士として十分な臨床経験をもつ教員により授業を実施する。実務経験豊富な教員により講義を行うことで基本的かつ実践的な理学療法評価の知識修得を目指す。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-ASP-02				
		●	●	●						
科目名	基礎理学療法評価学実習				単位認定者	伊藤 大亮		試験(実技)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	試験(筆記)	30 %
					授業形態		実習		授業時間数	44 時間
				授業回数		22 回				
授業の概要	理学療法評価では、検査・測定を正確に、迅速に、かつ安全に実施することを求められている。基礎理学療法評価学実習では、理学療法を実施するうえで不可欠な評価の基本技術について学修する。									
到達目標	<p>学生は、評価の一連の流れを理解し、信頼性のある技術（検査・測定）を実施できるようになる。</p> <p>1. 検査・測定の目的・意義を説明できるようになる。</p> <p>2. 検査・測定技術を実践できるようになる。</p> <p>3. 検査・測定の実践の中で必要な信頼関係構築に必要な言葉遣いができるようになる。</p> <p>4. 検査・測定に必要な解剖、運動、生理学について説明ができるようになる。</p>									
学修者への期待等	基本的な検査・測定の技法を修得するために、自主的に練習する必要がある。理学療法にとって必須の検査であり、1年次後期の臨床実習の際に、最低限のことが実施できるよう、予習・復習を学生同士で行うこと。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	関節可動域測定：下肢関節① 股関節1（屈曲、伸展） *LMSによる小テスト実施				「リハビリテーション基礎評価学」P239を読んで運動の方向、基本軸、移動軸、参考可動域を覚えて授業に臨んでください（予習・復習 概ね各1時間程度）			小松 佳路 坂上 尚穂		
2	関節可動域測定：下肢関節② 股関節2（外転、内転、外旋、内旋） *LMSによる小テスト実施							小松 佳路 坂上 尚穂		
3	関節可動域測定：下肢関節③ 膝関節 *LMSによる小テスト実施							小松 佳路 坂上 尚穂		
4	関節可動域測定：下肢関節④ 足関節 *LMSによる小テスト実施							小松 佳路 坂上 尚穂		
5	関節可動域測定：上肢関節① 肩関節1（屈曲、伸展） *LMSによる小テスト実施							小松 佳路 坂上 尚穂		
6	関節可動域測定：上肢関節② 肩関節2（外転、内転） *LMSによる小テスト実施				「リハビリテーション基礎評価学」P237を読んで運動の方向、基本軸、移動軸、参考可動域を覚えて授業に臨んでください（予習・復習 概ね各1時間程度）			小松 佳路 坂上 尚穂		
7	関節可動域測定：上肢関節③ 肩関節3（外旋、内旋、水平伸展、水平屈曲） *LMSによる小テスト実施							小松 佳路 坂上 尚穂		
8	関節可動域測定：上肢関節④ 肘関節、前腕 *LMSによる小テスト実施							小松 佳路 坂上 尚穂		
9	関節可動域測定：上肢関節⑤ 手関節 *LMSによる小テスト実施							小松 佳路 坂上 尚穂		
10	関節可動域測定：頸部・肩甲帯 *LMSによる小テスト実施							小松 佳路 坂上 尚穂		
11	関節可動域測定：体幹 *LMSによる小テスト実施				「新・徒手筋力検査法」の該当箇所を予習し、各検査の運動の方向、主動作筋とその起始停止、支配神経、神経レベルを覚えて授業に臨んでください（予習・復習 概ね各1時間程度）			小松 佳路 坂上 尚穂		
12	徒手筋力テスト： 股関節（屈曲、屈曲・外転・膝屈曲での外旋、伸展）							佐々木 広人 伊藤 大亮		
13	徒手筋力テスト： 股関節（外転、屈曲での外転、内転、外旋、内旋） *LMSによる小テスト実施							佐々木 広人 伊藤 大亮		
14	徒手筋力テスト： 膝関節（屈曲、伸展） 足関節（底屈、背屈ならびに内がえし）、足趾 *LMSによる小テスト実施							佐々木 広人 伊藤 大亮		
15	徒手筋力テスト： 肩甲骨（外転と上方回旋、挙上、内転、下制と内転、内転と下方回旋） *LMSによる小テスト実施							佐々木 広人 伊藤 大亮		

回	授業計画	準備学修	担当
16	徒手筋力テスト： 肩関節（屈曲、伸展、外転、水平外転） *LMSによる小テスト実施	「新・徒手筋力検査法」の該当箇所を予習し、各検査の運動の方向、主動作筋とその起始停止、支配神経、神経レベルを覚えて授業に臨んでください (予習・復習 概ね各1時間程度)	佐々木 広人 伊藤 大亮
17	徒手筋力テスト： 肩関節（水平内転、外旋、内旋） 肘関節（屈曲、伸展） *LMSによる小テスト実施		佐々木 広人 伊藤 大亮
18	徒手筋力テスト： 前腕（回内・回外） 手関節（屈曲・伸展） *LMSによる小テスト実施		佐々木 広人 伊藤 大亮
19	徒手筋力テスト：手指・母指（屈曲、伸展、外転、内転、対立運動） *LMSによる小テスト実施		佐々木 広人 伊藤 大亮
20	徒手筋力テスト：頭頸部（屈曲、伸展） *LMSによる小テスト実施		佐々木 広人 伊藤 大亮
21	徒手筋力テスト：体幹（屈曲・伸展・回旋） *LMSによる小テスト実施		佐々木 広人 伊藤 大亮
22	徒手筋力テスト：顔面 *LMSによる小テスト実施		佐々木 広人 伊藤 大亮
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学」第2版下田信明他編、羊土社 「新・徒手筋力検査法 原著第10版」Dale Avers, Marybeth Brown 著、エルゼビア・ジャパン		
参考文献	「図解理学療法検査・測定ガイド 第2版」内山靖編、文光堂 「標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学 第2版」内山靖編、医学書院		
備考	A B別2クラス 実技可能な服装で参加すること。 講義により、小テストや課題を課す場合がある。その場合は、次回講義時に返却・解説する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

伊藤：理学療法士として十分な臨床経験をもつ教員により授業を実施する。実務経験豊富な教員により実習を行うことで実践的な理学療法評価の知識および技術修得を目指す。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-02				
		●		●						
科目名	物理療法学				単位認定者	鈴木 裕治		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	物理療法学は、物理療法の分類と各機器の物理学的生理学的作用を理解することで、効果および禁忌を理解し、疾患・障害に適した治療を選択できることを目的とする。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各物理療法の生理的効果・作用および禁忌を物理的特性に基づいて説明できるようになる。 理学療法対象者に対し最も適切な物理療法を選択できるようになる(適応疾患と禁忌を考慮)。 物理療法分野の国家試験問題を解くことができるようになる。 									
学修者への期待等	各授業において、教科書を使用し到達目標に基づいて予習を必ず行うこと。物理療法の種類・名称、生理学的効果、禁忌、設定・使用方法に関しては必須の学修ポイントとなるため物理療法機器ごとによりしっかりと学修すること。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	物理療法総論、温熱療法				①シラバスを確認すること(5分程度) ②学修ポイントを確認すること(5分程度) ③具体的到達目標の「温熱療法」を予習すること(30分程度)			鈴木 裕治		
2	伝導熱：ホットパック、パラフィン浴				①具体的到達目標・学修ポイントを予習すること(15分程度) ②教科書を見て機器の名称や特徴・生理的効果・禁忌を予習すること(15分程度)			鈴木 裕治		
3	エネルギー変換熱：超短波・極超短波							鈴木 裕治		
4	エネルギー変換熱：超音波療法							鈴木 裕治		
5	水治療法：過流浴							鈴木 裕治		
6	寒冷療法：コールドパック・コールドバッグ・アイスクリッカー							鈴木 裕治		
7	牽引療法							鈴木 裕治		
8	輻射熱：赤外線療法・紫外線療法							鈴木 裕治		
9	輻射熱：レーザー療法							鈴木 裕治		
10	電気刺激療法：TES・EMS							鈴木 裕治		
11	電気刺激療法：TENS・干渉波・SSP・MCR・FES							鈴木 裕治		
12	症例検討・物理療法の選択(PBL)				LMSに事前提示する課題を読み、不明な点は調べておくこと(15分程度)			小関 友記		
13	物理療法の応用				事前に提示する物理療法分野の国家試験問題を授業までに解き、過去の授業内容から復習しておくこと(60分程度)			小関 友記		
14	物理療法の実践				全ての物理療法について、復習を行い、知識の確認を行う(60分程度)			小関 友記		
15	全体実技練習				各物理療法の実施ができるよう自主練習を行ってしておくこと(60分程度)			鈴木 裕治		
教科書	「Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学」吉田 英樹 編、メジカルビュー									
参考文献	「理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック」木村貞治編集、文光堂 「図解理学療法技術ガイド 第4版」石川齊・武富由雄・市橋則明編集、文光堂									
備考	A B別2クラス 教科書、資料を忘れずに準備し授業に臨むこと									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-03				
		●	●	●						
科目名	物理療法学演習				単位 認定者	鈴木 裕治		試験(実技)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	物理療法学演習では、実際の物理療法機器の使用方法や治療の実際について学修する。また、症例基盤型学修を実施し、実際の患者に対して実施することを想定した演習を行うことで、使用方法、注意事項を含め実践的な技術の向上を図る。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 各物理療法の生理的効果・作用、実施上の注意点を踏まえ適切に実施できる。 各物理療法の禁忌を踏まえリスク管理を行うことができる。 患者さんに対するインフォームドコンセント、配慮をしっかりと行うことができる。 									
学修者への期待等	各授業において、教科書を使用し到達目標に基づいて予習を必ず行うこと。物理療法の種類・名称、生理学的効果、禁忌、設定・使用方法に関しては必須の学修ポイントとなるため物理療法機器ごとにしっかりと学修するとともに実際に患者さんに対して実施できるよう繰り返し練習を行うこと。その際、患者さんに対して適切な言葉使い、配慮、態度も行えるようになること。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	物理療法総論、温熱療法の実施上の注意点				①シラバスを確認すること(5分程度) ②学修ポイントを確認すること(5分程度) ③具体的到達目標の「温熱療法」を予習すること(30分程度)			鈴木 裕治		
2	伝導熱：ホットパック・パラフィン浴の実技				①物理療法学の学修ポイントを復習すること(15分程度) ②教科書・資料にて実施方法・手順を予習すること(15分程度) ③実施ができるようになるまで実技練習を行うこと(15分程度)			鈴木 裕治		
3	エネルギー変換熱：超短波・極超短波の実技							鈴木 裕治		
4	エネルギー変換熱：超音波の実技							鈴木 裕治		
5	水治療法：過流浴の実技							鈴木 裕治		
6	寒冷療法：コールドパック・コールドバッグ・アイスクリッカーの実技							小関 友記		
7	牽引療法の実技							小関 友記		
8	光線療法：赤外線療法・紫外線療法の実技							小関 友記		
9	光線療法：レーザー療法の実技							小関 友記		
10	電気刺激療法：TES・EMSの実技							鈴木 裕治		
11	電気刺激療法：TENS・干渉波・MCRの実技							鈴木 裕治		
12	症例検討・物理療法の実施				LMSに事前提示する課題を読み、不明な点は調べておくこと(15分程度)			小関 友記		
13	物理療法と応用				事前に提示する物理療法分野の国家試験問題を授業までに解き、過去の授業内容から復習しておくこと(60分程度)			小関 友記		
14	物理療法の実践				全ての物理療法について、復習を行い、知識の確認を行う(60分程度)			小関 友記		
15	全体実技練習				各物理療法の実施ができるよう自主練習を行っておくこと(60分程度)			鈴木 裕治		
教科書	「Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学」吉田 英樹 編、メジカルビュー									
参考文献	「理学療法士のための物理療法臨床判断ガイドブック」木村貞治編集、文光堂 「図解理学療法技術ガイド 第4版」石川齊・武富由雄・市橋則明編集、文光堂									
備考	A B別2クラス 実技が可能な服装にて授業に臨むこと									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-01				
		●	●	●						
科目名	日常生活活動学				単位認定者	大橋 孝子		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	30 %
					授業形態		講義		授業時間数	30 時間
				授業回数		15 回				
授業の概要	日常生活活動(ADL)は、リハビリテーションおよび理学療法において重要な位置を占める。日常生活活動学では、ADLの概念やADL評価、国際生活機能分類(ICF)との関連性などの基本的なADLを理解する。また、ADLを支援する機器としての自助具や日常生活用具、歩行補助具や車いすなどの補装具の使用目的とその役割についても学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ADLの概念を理解できる。 ADLとQOLとの関係性について理解し、ADLの重要性について説明できる。 主なADL評価方法について、説明できる。 できるADL、しているADLを理解し、対象者のADLについて評価できる。 ADL支援機器について、説明できる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の日常生活を改善する事は、生活の質を高める一つの手段である事を理解してほしいです。 日常生活活動学は他科目と非常に関連性がある科目です。他科目との関連性を考慮した予習復習を期待します。 									
回	授業計画				準備学修					
1	日常生活活動(ADL)の概念について				教科書P1~P6を読んでまとめる。(概ね30分程度)					
2	障害の考え方について(ICIDHとICF)グループワーク				教科書P7~P12を読んでまとめる。(概ね30分程度)					
3	ADLと生活の質(QOL)について				教科書P12~P20を読んでまとめる。(概ね30分程度)					
4	基本的ADLについて①(起居・移乗動作・移動動作)グループワーク 実技【小テスト1回目】				教科書P85~P109を読んで動作を実際に行ってみる。(概ね30分程度)					
5	基本的ADLについて②(食事動作、更衣動作)グループワーク 実技				教科書P125~P135を読んで食事動作と更衣動作についてまとめる。(概ね30分程度)					
6	基本的ADLについて③(整容動作、トイレ動作、入浴動作)				教科書P125~P135を読んで整容動作、トイレ動作、入浴動作についてまとめる。(概ね30分程度)					
7	ADL評価1 ADL評価の目的、評価の範囲について				教科書P21~P36を読んでまとめる。(概ね30分程度)					
8	ADL評価2 ADL評価の方法について① バーセルインデックスについて				教科書P45~P69を読んでまとめる。(概ね30分程度)					
9	ADL評価3 ADL評価の方法について② 機能的自立度評価法(FIM) ADLの指導について				これまでの授業を振り返り、ADLの指導で重要な事は何かについて考える。(概ね30分程度)					
10	ADL支援機器1 福祉用具(自助具と日常生活用具)とユニバーサルデザインについて【小テスト2回目】				教科書P137~P147を読んでまとめる。(概ね30分程度)					
11	ADL支援機器2 車椅子、座位保持椅子について				教科書P78~P84読んでまとめる。(概ね30分程度)					
12	ADL支援機器3 歩行支援用具について【小テスト3回目】				教科書P71~P78を読んでまとめる。(概ね30分程度)					
13	住環境整備について1 住環境整備の意義と目的				教科書P149~P156を読んでまとめる。(概ね30分程度)					
14	住環境整備について2 住環境整備の事例【小テスト4回目】				前回の授業を振り返り、理学療法と住環境との関連性について考えてくる。(概ね30分程度)					
15	ADLと運動学 ADL基本動作の運動学的分析について				教科書P37~P44を読んでまとめる。(概ね30分程度)					
教科書	「シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト」監修 細田 多穂 改訂第3版 南江堂									
参考文献	「PT・OTビジュアルテキスト ADL第2版」柴 喜崇著、羊土社 「標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学」第5版 医領書院 「福祉機器選び方・使い方副読本 基本動作編、自立支援編、住宅改修編」一般財団法人保健福祉広報協会									
備考	A B別2クラス 小テストの範囲はその都度伝えます。小テストは採点して、次回の授業で返却します。LMSに授業資料を投稿します。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

障害者の通所施設や地域において、障害者等の生活支援について多くの経験がある。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-04				
		●	●	●						
科目名	日常生活活動学演習				単位認定者	森永 雄		試験(実技)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	試験(筆記)	50 %
							授業時間数		30 時間	授業内課題
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	日常生活活動学演習では、日常生活活動学で学んだ知識をもとに、ADLの評価およびその改善のための基本的な介入方法や、寝返り動作、起き上がり動作などの基本動作を中心とした各動作の介助、指導方法について実践する。また、移動補助具である杖・松葉杖・車いすにおける採寸とチェックアウト、使用方法についても実践する。									
到達目標	【基礎力】理学療法の一連の流れ（ADL評価、治療や介助・支援方法）を理解することができる。 【実践力】グループ・ペア学修を通して、基本的な介助方法を実践し、介助技術向上を図ることができる。 【人間関係力】自身の考えや意見をまとめ、表出（話す、書く）する能力を高めることができる。 【生涯学習力】自己の課題に気づき、課題克服に向けた取り組みを図ることができる。									
学修者への期待等	・受講だけでなく、自ら授業時間外での学修を行い、授業内容の理解に努めましょう。 ・実技がある授業回では、動きやすい格好を心がけてください。 ・介助技術の向上に向けて、複数の学生同士で定期的な学修機会を設けてください。 ・初学者のための介助方法の習得を重視するが、その枠を超えて介助技術の向上に努めて欲しい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	日常生活活動学演習の必要性と介助のコツ 【グループワーク】				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね60分程度)			森永 雄		
2	寝返り・起き上がり動作の基本的な介助・誘導 【グループワーク、実技、ディスカッション】				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね20分程度)			森永 雄 小関 友記		
3	起立・移乗動作の基本的な介助・誘導 【グループワーク、実技、ディスカッション】							森永 雄 小関 友記		
4	ベッド上移動・車椅子駆動の基本的な介助・誘導 【グループワーク、実技、ディスカッション】				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね60分程度)			森永 雄 小関 友記		
5	歩行・階段動作の介助（T-cane、Q-cane） 【グループワーク、実技、ディスカッション】							森永 雄 小関 友記		
6	歩行・階段動作の介助（松葉杖） 【グループワーク、実技、ディスカッション】				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね60分程度)			森永 雄 小関 友記		
7	脳血管疾患におけるADL指導の実際							小関 友記		
8	神経筋疾患・神経難病におけるADL指導の実際				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね60分程度)			小関 友記		
9	呼吸器・循環器疾患におけるADL指導の実際							小関 友記		
10	関節リウマチ・人工関節全置換術後におけるADL指導の実際				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね60分程度)			小関 友記		
11	脊髄損傷（四肢麻痺）におけるADL指導の実際							小関 友記 森永 雄		
12	脊髄損傷（対麻痺）におけるADL指導の実際				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね60分程度)			小関 友記 森永 雄		
13	病院（回復期）における初回ADL指導の一例 【グループワーク、ディスカッション】							小関 友記 森永 雄		
14	病院（回復期）における最終ADL指導の一例 【グループワーク、ディスカッション】				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね60分程度)			小関 友記 森永 雄		
15	在宅におけるADL指導の一例 【グループワーク、ディスカッション】							小関 友記		
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト ADL第2版」柴 喜崇著、羊土社（2021）									
参考文献	「介助にいかすバイオメカニクス」勝平 純司、医学書院（2011） 「PTスタートガイド 基礎理学療法概論」網本 和、メジカルビュー社（2018） 「日常生活活動学実習テキスト」佐々木 誠、中外医学社（2022） 「脊髄損傷リハビリテーションマニュアル」神奈川リハビリテーション病院・脊髄損傷マニュアル編集委員会編 医学書院									
備考	・A B別2クラス ・授業時間外学修資料と授業内課題は、「仙台青葉学院短期大学LMS」を用いる。また、課題フィードバックは後日LMSで行う。科目アナウンスや筆記試験、実技試験の概要は、「仙台青葉学院短期大学LMS」を用いて開示する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

森永：①すべての医療関連施設（急性期病院、回復期病院、介護老人保健施設など）で”ADL介助”を行った経験を有すること。
②大学院修士課程では、主に基本動作の仕組み、介助”をテーマに研究してきたこと。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-01			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習Ⅰ（体験実習）				単位認定者	大和田 宏美		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		
					授業形態	実習	授業時間数	45 時間	
							授業回数	- 回	
授業の概要	臨床実習Ⅰ（体験実習）では、実習施設において、実際の理学療法を体験することを目的とする。さらに、理学療法士の活動見学や理学療法体験を通し、対象者からの情報収集やコミュニケーションの取り方・接し方などの医療面接スキルを身につける。また、理学療法士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通してリハビリテーションチームとは何かを体験する。								
到達目標	1) 対象者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成する。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚をもった行動がとれる。 3) 基本的理学療法の見学・体験を通して、自己の理学療法観を育成できる。								
学修者への期待等	はじめての臨床実習ですので、利用者と積極的にコミュニケーションを図ってください。 ・実習施設における規則・心得を守り、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること								
授業計画					準備学修				
1. 臨床実習期間 学外実習：令和6年2月19日(月)～2月24日(土) 臨床実習施設での実習期間を4日間とする。 学内実習：令和6年2月上旬～中旬と2月下旬 2. 臨床実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 実習施設でのオリエンテーションや理学療法士の治療業務および理学療法に関連する他部門等を見学する。 3) 臨床実習記録を毎日、臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内での実習セミナーに参加し、発表の準備などを学内教員より指導を受ける。 3. 臨床実習Ⅰの総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目をルーブリック評価表に基づき、判断する。なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 実習課題：実習セミナー（報告発表会）及び臨床実習記録（自己学修内容も含む） 実習状況：臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。					臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身につけてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。				
教科書	「PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」 相澤純也編集 羊土社 「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版」有馬慶美編集 文光堂 「臨床実習の手引き」（配付資料）								
参考文献	症例に関連する領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、クリニカル・リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）								
備考	担当者 理学療法専攻教員：網本和、原和彦、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

リハビリテーション学科
理学療法学専攻
2年生

【2022(令和4)年度入学生】

- 年間予定表
- シラバス

2023(令和5)年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻2年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月	26	27	28	29	30	31	1
	2	3	4	5	6 入学式	7	8
	9	10 健康診断	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29 昭和の日
	30	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6
5月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
6月	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	1
7月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17 海の日	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31	1	2	3	4	5
8月	6	7 定期試験	8 定期試験	9 定期試験	10	11 山の日	12
	13	14	15	16	17 定期試験	18 定期試験	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28 再試験	29 再試験	30 再試験	31 再試験	1 再試験	2
9月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18 敬老の日	19	20	21	22	23 秋分の日
	24	25	26	27	28	29	30

・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
 ・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

2023(令和5)年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9 スポーツの日	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31	1	2	3 文化の日	4
11月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23 勤労感謝の日	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
12月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18 定期試験	19 定期試験	20 定期試験	21 定期試験	22 定期試験	23
	24	25 定期試験	26 定期試験	27 定期試験	28	29	30
	31	1 元旦	2	3	4	5	6
1月	7	8 成人の日	9	10 再試験	11 再試験	12 再試験	13
	14	15 再試験	16 再試験	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29 臨床実習Ⅱ	30 臨床実習Ⅱ	31 臨床実習Ⅱ	1 臨床実習Ⅱ	2 臨床実習Ⅱ	3
2月	4	5 臨床実習Ⅱ	6 臨床実習Ⅱ	7 臨床実習Ⅱ	8 臨床実習Ⅱ	9 臨床実習Ⅱ	10
	11 建国記念の日	12 振替休日	13 臨床実習Ⅱ	14 臨床実習Ⅱ	15 臨床実習Ⅱ	16 臨床実習Ⅱ	17
	18	19	20	21	22	23 天皇誕生日	24
	25	26	27	28	29	1	2
3月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19 卒業式	20 春分の日	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6

・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
 ・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-03		
	●			●				
科目名	歴史と文化				単位認定者	丸藤 准二 徳田 幸雄		※詳細は備考欄を参照すること
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数	
							授業回数	10 回
授業の概要	こんにちの世界を理解するためには、歴史、宗教、思想などの多様な側面の知識が必要となる。特に、近現代を中心とした歴史や世界の諸宗教の理解は重要である。これらの基礎的知識を身に付け、また、世界に大きな影響を与えた思想や書物などにも触れ、こんにちの世界に対する自己の見識を持てるようになることを目的とする。							
到達目標	(丸藤) 近現代世界を形成する上で重要な歴史事象について、様々な観点から各回主題を設ける。主題に関する諸問題を学び、近現代の世界に対する知識・理解を深め、歴史に対する関心を育むことを目標とする。 (徳田) 世界三大宗教を中心とした諸宗教を広く学ぶことによってグローバル時代に相応しい教養を身につけるとともに、人類の叡智に触れつつより豊かで深い人生観を育むことを目標とする。							
学修者への期待等	授業を理解するために、毎回必ず出席してください。歴史的事象を理解するのみならず、その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。							
回	授業計画				準備学修			担当
1	ユダヤ教について －律法の遵守－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)			徳田 幸雄
2	キリスト教について －罪からの救い－							徳田 幸雄
3	イスラームについて －神への服従－							徳田 幸雄
4	インドの宗教について －業と輪廻－							徳田 幸雄
5	仏教について －苦からの解脱－							徳田 幸雄
6	グローバルエノミーのはじまり －西欧の拡大により一体化する世界－				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)			丸藤 准二
7	科学革命と啓蒙 －近代科学の成立と「知」の大転換－							丸藤 准二
8	産業革命 －工業化による経済・社会の変革－							丸藤 准二
9	医療の歴史 －医療・医学の発展と近代社会－							丸藤 准二
10	現代世界とグローバルヒストリー －現代世界の成立と新しい歴史観－							今回の授業を復習するとともに、これまでの授業全体を理解すること。(約1時間)
教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配付します。							
参考文献	授業において指示します。							
備考	PT・OT合同授業 (評価方法) (丸藤) 試験(筆記)70% 授業態度30% 課題は授業内に解答してフィードバックします。 (徳田) 授業内課題(全5回)100% 授業終了時に実施するチェックテストで評価します。							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-02				
	●			●						
科目名	暮らしの中の法律				単位認定者	湯本 あゆみ		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	O T	必修	2年			授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	<p>法律問題の理解に必要な基本法である憲法、民法等の条文に触れ、法律の基礎知識を修得する。憲法では基本的人権や最近議論されている憲法改正等を、民法では日常生活で生じる契約や家族といった学生にとって身近な法律問題を、積極的に取り上げる。</p> <p>さらに、身近な法律問題について、具体的な事例を検討させ、事例から結論に至る論理を理解する。他者の意見を理解するとともに、自己の意見を持つ機会を与え、法的思考力を身につける。</p>									
到達目標	<p>法の基本原則や概念を理解して説明できるようになる。具体的な法律問題について、法的論理・根拠に基づいて自ら考えて結論を導くことができる。</p>									
学修者への期待等	<p>本講義では、法について広く学ぶため、さまざまな法律用語や考え方に触れることとなります。そのため、特に復習に重点を置いて、各講義で学んだことを逐一整理し理解するようにして下さい。「なぜ」という部分を重視し、学修に取り組むようにして下さい。また、各講義の最後に復習問題を出しますので、しっかり取り組むこと。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	ガイダンス、法学の基礎① 法とは何か				法がなぜ存在するのか、社会と法の関係性について復習すること。(概ね30分程度)					
2	法の基礎② 法の機能、法源				法がどのような機能を有しているのか、法源としてどのようなものが認められているのか、復習すること。(概ね30分程度)					
3	法の基礎③ 法体系の概要				さまざまな法の関係性をしっかり整理すること。(概ね30分程度)					
4	刑事裁判				刑事裁判における人権保障の重要性について、復習すること。(概ね30分程度)					
5	民事裁判				刑事裁判との違いを意識して、民事裁判について復習すること。(概ね30分程度)					
6	憲法① 人権				憲法の保障する人権の内容について、しっかり整理すること。(概ね20分程度)					
7	憲法② 表現の自由				表現の自由の保障がなぜ重要なのかについて、しっかり整理すること。(概ね20分程度)					
8	民法① 法主体				民法上における未成年と成年の違いについて、復習すること。(概ね20分程度)					
9	民法② 契約と不法行為				契約や不法行為がどのように成立するのかについて、復習すること。(概ね30分程度)					
10	民法③ 家族と相続				家族問題に対して法がどのような解決方法を採用しているのかを復習すること。(概ね20分程度)					
教科書	特に指定しない。									
参考文献	『法学部入門〔第3版〕』吉永一行編(法律文化社、2020年)									
備考	P T・O T合同授業。 授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-BSF-10				
		●		●						
科目名	運動学演習				単位認定者	森永 雄		試験 (口頭試問)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (発表)	10 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	運動学演習では、「運動学」及び「運動学実習」で身につけた頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動の知識を踏まえ、動作分析のための知識と思考・技術を学修する。臨床現場で観察される基本姿勢・動作を分析するために、分析し、言語・身体表現する能力を身につける。									
到達目標	【実践力】初歩的な基本動作の仕組みを理解し、言語的かつ身体的に表現することができる。 【生涯学習力】発表準備を通して、その他の著書や参考文献を調べる一歩を踏み出すことができる。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・科目目標の枠を越え、自身が志す理想の理学療法士像に対応した動作分析力の構築に努めましょう。 ・メンバーの考えや状況を把握し、課題解決に向けた協調的な支援行動を図りましょう。 ・チームで生じている対立に気づき、自ら調整するよう働きかけましょう。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	生体力学の基礎①と臨床における動作分析の進め方 (一部反転授業含む)				p2-28を事前に確認すること(概ね30分程度)			森永 雄 坂上 尚穂		
2	生体力学の基礎②と上肢のリーチ (一部反転授業含む)							森永 雄 坂上 尚穂		
3	寝返り・起き上がり動作の概要 (反転授業、グループワーク、一部実技含む)				p30-35、82-87を事前に確認すること (概ね30分程度)			森永 雄 坂上 尚穂		
4	寝返り・起き上がり動作の仕組み (反転授業、グループワーク、一部実技含む)				p36-49、88-97を事前に確認すること (概ね60分程度)			森永 雄 坂上 尚穂		
5	立ち上がり動作の概要 (グループワーク、ディスカッション)				p122-137を基に、事前に確認しておくこと (概ね30分程度)			坂上 尚穂 森永 雄		
6	立ち上がり動作の仕組み (グループワーク、ディスカッション)				p122-137を基に、事前に確認しておくこと (概ね60分程度)			坂上 尚穂 森永 雄		
7	着座動作の概要と仕組み、移乗動作の概要 (グループワーク、一部実技含む)				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね30分程度)			森永 雄 坂上 尚穂		
8	歩行動作の概要 歩行周期 (グループワーク、一部実技含む)							坂上 尚穂 森永 雄		
9	歩行動作の概要 床反力 (グループワーク、一部実技含む)							坂上 尚穂 森永 雄		
10	歩行動作の仕組み 関節運動・重心移動 (グループワーク、一部実技含む)							坂上 尚穂 森永 雄		
11	歩行動作の仕組み 筋活動 (グループワーク、一部実技含む)							坂上 尚穂 森永 雄		
12	応用歩行動作の概要 階段昇降動作、またぎ動作 (グループワーク、一部実技含む)							森永 雄 坂上 尚穂		
13	発表準備 (グループワーク、ディベート)							1-12回までの復習と発表準備を行うこと (概ね180分程度)		
14	学生による発表会 (ディスカッション、プレゼンテーション)				森永 雄 坂上 尚穂					
15	歩行計測(10m歩行とTUG)と結果の解釈 (実技)				10m歩行とTUGについて調べてくること (概ね30分程度)			坂上 尚穂 森永 雄		
教科書	「動作分析臨床活用講座バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」石井慎一郎・他、メジカルビュー社(2020)									
参考文献	「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」Donald A. Neumann著、医歯薬出版 「動作練習臨床活用講座動作メカニズムの再獲得と統合」石井慎一郎・他、メジカルビュー社(2022) 「日常生活活動の分析第2版 身体運動学的アプローチ」藤澤宏幸、医歯薬出版(2020)									
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・A B別2クラス 授業内課題FBは後日LMSで開示する。 ・授業時間外学修資料や科目アナウンスは「仙台青葉学院短期大学LMS」を用いて開示する。 ・14回目は、与えられた基本動作のテーマを基に、グループメンバー同士で話し合い、計画し、発表する。 ・試験(口頭試問)は、動画(mp4ファイル)再生し、時間内に定められた設問に回答する形式とする。 ※詳細の開示は、試験2週間前または授業時間内に行うこととする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

坂上・森永：理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-03			
		●		●					
科目名	内科学				単位認定者	宮城 重人		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	本講義では、内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、症候学、治療等について学ぶとともに、腹部内臓器の諸疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、アレルギー疾患、その他さまざまな疾患についての理解を深め、理学療法や作業療法を実施する上で知っておくべき知識を身につける。								
到達目標	多職種によるチーム医療の一員として活動するうえで、共通言語としての内科学の疾病概念、治療目標を共有できるようになること。そのために1) 医学用語を間違いなく読みかつ書け、意味を理解し正しく表出できること。2) 各臓器の構造・機能と、その機能障害としての疾病を理解する(疾患の全身に及ぼす機序を理解する)。3) 国家試験に備え知識を整理する。								
学修者への期待等	医療従事者になるために勉強するのだという責務と緊張感を持って授業に臨んでほしい。授業内容が広範であり、修得すべき知識も膨大であるから、授業中に要点を理解しておき細部については自己学修する姿勢が大切である。								
回	授業計画			準備学修			担当		
1	「医をまなぶ」医学への関心度(一般的な医学情報に対する質問)			医学一般に関する学修			田林 暁一		
2	循環器疾患1 総論(症状・診断)			教科書を読み概略をつかんでおく。(概ね30分程度)			赤松 大二朗		
3	循環器疾患2(動脈硬化性疾患)			教科書を読み概略をつかんでおく。(概ね30分程度)			赤松 大二朗		
4	循環器疾患3(不整脈)			教科書を読み概略をつかんでおく。(概ね30分程度) 特に心電図診断について			赤松 大二朗		
5	消化器疾患1 総論 消化管疾患			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に食道癌 胃癌 大腸癌について			宮城 重人		
6	消化器疾患2 肝胆膵・腹膜疾患			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			宮城 重人		
7	消化器疾患3 臓器移植			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に肝硬変、肝癌について			宮城 重人		
8	腎泌尿器疾患 総論・各論			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			宮城 重人		
9	呼吸器疾患1 総論(症状・診断)			教科書を読み概略をつかんでおく。 特に呼吸機能検査について(概ね30分程度)			渡辺 卓		
10	呼吸器疾患2 各論			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)特に閉塞性肺疾患 肺炎 肺癌 呼吸リハについて			渡辺 卓		
11	内分泌疾患			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓		
12	代謝性疾患(肥満、メタボリック症候群)			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓		
13	代謝性疾患(糖尿病、脂質代謝異常)			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓		
14	血液疾患			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度) 特に貧血の分類について			渡辺 卓		
15	免疫疾患			教科書の単元の重点個所について受講前に音読しておく。(概ね30分程度)			渡辺 卓		
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学」奈良 勲 著、医学書院								
参考文献									
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-05			
		●		●					
科目名	神経学				単位 認定者	佐直 信彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数	60 時間	
							授業回数	30 回	
授業の概要	本講義では、リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患(一部損傷含む)を中心にその病態とリハビリテーションの関連を知る。理学療法や作業療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士作業療法士に必要な神経学的診療ができるように、授業では動画供覧、実演する。 ・神経症候の基礎と神経・筋疾患の臨床を理解でき、臨床実習では実際の症例で確認できるようになる。 ・疾患の理解に必要な画像診断や検査について説明できるようになる。 								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・神経・筋疾患は理学療法・作業療法の対象となる疾患も多い。しっかり予習・復習をして授業に臨むこと。 ・LMS上の授業資料とコメントをもとに準備すること。授業後はノートやLMS資料への書き込み等を整理し復習に重点を置くこと。 								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	神経系の構造と機能(1) 神経系総論、神経組織				教科書p14~31「中枢神経系の解剖と機能」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
2	神経系の構造と機能(2) 中枢神経系				教科書p25-26、56-57「末梢神経の構造」と関連する分野を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
3	神経学的診断：神経学的診察の実際				教科書p35-50「神経学的診断と評価」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
4	神経学的検査法(1) 画像診断				教科書p51-56「神経学的検査法：画像診断」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
5	神経学的検査法(2) 神経生理学的検査				教科書p56-67「神経学的検査法：神経生理学的検査他」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
6	神経症候学(1) 運動麻痺				教科書p79-88「運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
7	神経症候学(2) 錐体路徴候：痙縮(痙性麻痺)				教科書p79-88「運動麻痺、錐体路徴候、筋萎縮」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
8	神経症候学(3) 錐体外路徴候：固縮、不随意運動				教科書p89-93「錐体外路徴候、不随意運動」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
9	神経症候学(4) 運動失調				教科書p94-98「運動失調」、p99-106「感覚障害」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
10	神経症候学(5) 高次脳機能障害① 総論、失語(症)				教科書p107-119「高次脳機能障害：総論/失語症」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			平山 和美	
11	高次脳機能障害② 失認(症)、失行(症)				教科書p120-136「高次脳機能障害：失認/失行」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			平山 和美	
12	高次脳機能障害③ 記憶、知能				教科書p137-142「高次脳機能障害：記憶障害」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			平山 和美	
13	神経症候学(6) 嚥下障害				教科書p152-156、157-163「嚥下障害」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
14	神経症候学(7) 排尿障害				教科書p351-355「排尿障害」を予習・復習する。(概ね1時間程度)			佐直 信彦	
15	総括 神経学的診察の実技と画像「神経診察法」供覧				1-14回の授業資料の整理(概ね1時間程度)			佐直 信彦	

回	授業計画	準備学修	担当
16	脳血管疾患(1) 定義、分類・診断、症候学、治療、予後	教科書p173-182「IV神経疾患各論 脳血管障害」前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
17	脳血管疾患(2) リハビリテーション、在宅支援	教科書p173-182「IV神経疾患各論 脳血管障害」前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
18	脳損傷 外傷性脳損傷の受傷機転、分類、症候学的特異性、治療・リハビリテーション	教科書p231-237「外傷性脳損傷(軸索障害を含む)」を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
19	認知症 定義、病型と診断、薬物療法とリハビリテーション	教科書p204-223「認知症」を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
20	脊髄損傷(1) 発症機序と神経症候、ASIA高位診断	教科書p238-239「脊髄疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
21	脊髄損傷(2) 機能予後、合併症、リハビリテーション	教科書p238-239「脊髄疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)	佐直 信彦
22	末梢神経障害(1) 末梢神経損傷	教科書p275-283「末梢神経障害」前半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
23	末梢神経障害(2) 末梢性ニューロパチー	教科書p275-283「末梢神経障害」後半を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
24	変性疾患・脱髄疾患 脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患、多発性硬化症	教科書p253-261「変性疾患・(錐体外路系除く)・脱髄疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
25	錐体外路の変性疾患 Parkinson病の病態、治療	教科書p262-274「錐体外路の変性疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
26	筋疾患 筋ジストロフィー、多発性筋炎・皮膚筋炎、筋無力症	教科書p288-301「筋疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
27	脳腫瘍 分類と好発部位、症状の特殊性、診断・治療	教科書p224-230「脳腫瘍」を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
28	感染性疾患、内科疾患に伴う神経・筋疾患、栄養欠乏による神経疾患、中毒性神経疾患 病因、症状、検査、診断・治療法、予後	教科書p302-310「感染性疾患」、p311-315「中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
29	小児神経疾患：脳性麻痺、二分脊椎、Down症候群	教科書p316-336「小児神経疾患」を予習・復習する。(概ね1時間程度)	平山 和美
30	神経学 後期 総括	16-29回の授業資料の整理・復習(概ね1時間程度)	平山 和美
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学」川平和美編、医学書院		
参考文献	「ベッドサイドの神経の診かた」田崎義昭・斎藤佳雄著、坂井文彦改訂 南山堂、図書館蔵 その他、授業中に紹介		
備考	PT・OT合同授業 授業資料等はLMSに掲載する。 授業内課題の解答及び筆記試験の結果の講評はLMSに掲載する。 個別には教員研究室にて対応する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐直：医学部卒業後東北大学医学部附属鳴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-12				
		●		●						
科目名	臨床医学特論				単位認定者	荒牧 隼浩		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	40 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	本講義は、「疼痛」、「がん」、「皮膚障害」に関する3分野のオムニバスで構成される。「疼痛分野」では、痛みを引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。「がん」分野では、がん関連障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。「皮膚障害分野」では、熱傷、褥瘡、創傷を中心とした病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。									
到達目標	①痛みの定義、病態と分類、痛みの評価、マネジメントを説明できる。 ②原発臓器別にがんの特徴と原因、分類、主な診断・治療について説明できる。 ③代表的な皮膚障害の病態や診断・治療を説明でき、理学療法・作業療法のなかに展開できる。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 各授業に臨むにあたり、当該疾患に関しての事前学修を必ず行うこと。 授業後は復習を必ず行い、わからないことがあれば積極的に質問を行うこと。 常に疑問をもち課題等に取り組む。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	痛みとは(定義・分類)				「痛みとは何か」参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤		
2	急性痛(病態・評価・マネジメント)				「急性痛とは何か」参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤		
3	慢性疼痛(分類・病態)				「慢性疼痛とは何か」参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね45分程度)			大友 篤		
4	慢性疼痛(評価)				「慢性疼痛の評価」参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤		
5	慢性疼痛(マネジメント)				「慢性疼痛のマネジメント」参考資料等で事前に調べ、講義後はまとめる。(概ね30分程度)			大友 篤		
6	がんの発生機序や病態について				がん発生の機序について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
7	各がん疾患の特徴について				胸部、消化器、泌尿器、女性生殖器等のがん疾患について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
8	皮膚障害(熱傷・褥瘡・創傷)				熱傷・褥瘡・創傷について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
教科書	特に指定しない。講義資料を配付又はLMS上に投稿する。									
参考文献	「ペインリハビリテーション 第1版」松原貴子・沖田実・森岡周編、三輪書店 「慢性疼痛診療ハンドブック 第1版」池本竜則・愛知医科大学運動療育センター講師編、中外医学社 「痛みの集学的診療 第1版」日本疼痛学会痛みの教育コアカリキュラム編集委員会編、真興交易 「内部障害理学療法テキスト 改定第3版」細田多穂 編、南江堂 「がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス 第2版」日本がんリハビリテーション研究会、金原出版									
備考	P T・O T合同授業 授業内課題はレポートとなる。レポートの内容は第1回～5回講義担当教員から出題され、講義終了後1週間以内の提出となる。その後担当教員が評価し、採点后希望者にはフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-06				
		●		●						
科目名	小児科学				単位認定者	飯沼 一字		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	小児科学では、小児疾患の原因・病態の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患について学習する。									
到達目標	理学療法士・作業療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯に亘って、小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる。									
学修者への期待等	他人を敬うことと、自分の『売り』をもつこと。教わったことを単に覚えるだけではなく、「なぜ」かを常に考え、論理的思考をとること、それを文章として表現（他人に知らせる）することが出来るように努力すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	小児科学とは、先天異常・遺伝病				【事前】小児が大人（成人）とどのように異なるかを十分に理解しておく。胎児の発達、遺伝の仕組みを理解しておく。（概ね1時間程度）					
2	免疫・アレルギー疾患				【事前】基礎医学で学んだ免疫の仕組みを十分に理解しておく。（概ね1時間程度）					
3	感染症				【事前】感染症とはなにか。人類と感染症の相互関係について理解しておく。（概ね1時間程度）					
4	呼吸器・循環器疾患、新生児疾患				【事前】小児の呼吸機能、循環動態について理解しておく。新生児特有の生態を理解しておく。（概ね1時間程度）					
5	消化器・内分泌疾患				【事前】消化器の構造、機能および内分泌の仕組み（特にフィードバック）について理解しておく。（概ね1時間程度）					
6	血液・腫瘍疾患				【事前】血液の役割、成分、腫瘍とは何か（悪性と良性の相違）を理解しておく。（概ね1時間程度）					
7	腎・泌尿器疾患				【事前】腎臓の構造と機能を理解しておく。（概ね1時間程度）					
8	神経・筋・運動器疾患、重症心身障害				【事前】脳の発達、中枢・末梢神経および関節の構造と機能を理解しておく。障害を持つ人やこころの問題について自分と他人との関係など思いめぐらせておく。（概ね1時間程度）					
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学」前垣 義弘、小倉 加恵子 編、医学書院									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-07			
		●		●					
科目名	整形外科学総論				単位認定者	入江 紀一		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		
	O T	必修	2年			授業形態	講義	授業時間数	30 時間
				授業回数	15 回				
授業の概要	整形外科学は運動器の疾患を取り扱う。運動器には脊柱、骨盤、関節、手、足などの器官があり、骨、軟骨、靭帯、筋、腱、血管、皮下組織、脊髄及び末梢神経などの組織が含まれる。運動器の病態は、これらの組織の炎症、腫瘍、変性、循環障害など他の診療科と共通の病態と、先天性障害や変形、外傷など運動器に特徴的な病態がある。本講義では、これらの運動器疾患の診断、治療・後療法、予防法について学修する。								
到達目標	1. 整形外科で扱う運動器の疾病や外傷並びに先天性障害の病態、治療が理解できるようになる。 2. 運動器の機能障害が日常生活活動や生活の質に及ぼす影響を理解し、理学療法・作業療法を展開できるようになる。								
学修者への期待等	2年次は、実際の臨床症例を呈示しながら、疾患や外傷について学び、整形外科に関心を持ってもらう。教科書通りの講義ではないが、国家試験に出題されている項目は他科(解剖学、生理学等)の領域も含めて一応網羅しているので、総合的に学ぶように努めること。								
回	授業計画				準備学修				
1	歴史 整形外科の歴史				教科書の序章(整形外科とは)を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
2	整形外科の基本 ①骨の構造 成長と維持 病態生理				教科書の第I編(整形外科の基礎科学)第1~4章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
3	整形外科の基本 ②関節の構造 骨・軟骨の再生 病態生理				教科書の第I編(整形外科の基礎科学)第5~7章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
4	整形外科の基本 ③筋・神経の構造と機能				教科書の第I編(整形外科の基礎科学)第8~9章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
5	診断 診察と検査				教科書の第II編(整形外科診断総論)を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
6	治療 保存療法と手術療法				教科書の第III編(整形外科治療総論)を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
7	疾患総論 ①感染症				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第16章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
8	疾患総論 ②関節リウマチ				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第17章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
9	疾患総論 ③変形性関節症				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第18章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
10	疾患総論 ④先天性骨系統疾患 先天異常症候群 ⑤骨腫瘍				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第20~21、23章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
11	疾患総論 ⑥循環障害 代謝障害による骨疾患				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第19章、第22章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
12	疾患総論 ⑦神経・筋疾患				教科書の第IV編(整形外科疾患総論)第25章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
13	外傷総論 ①骨折、捻挫、脱臼				教科書の第VI編(整形外科外傷学)第36章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
14	②骨折の治療と合併症				教科書の第VI編(整形外科外傷学)第36章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
15	③神経損傷(脊髄・末梢神経)				教科書の第VI編(整形外科外傷学)第39・40章を予習・復習すること(概ね1時間程度)				
教科書	「標準整形外科学」田中栄、高木理彰、松田秀一編 井樋栄二、津村弘監修、医学書院								
参考文献	特に指定しない								
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-08				
		●		●						
科目名	整形外科学各論				単位認定者	佐々木 広人		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本講義では「整形外科学総論」で学修した内容をもとに、理学療法士の対象疾患について疾患別、部位別の病因、病態、診断、治療について系統的に学修する。さらに、運動器の障害は運動・動作・行為を制限し、生活の質(QOL)の低下をもたらすことから、疾病の診断・治療のみならず、生活支援を含む内容を学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 整形外科疾患の特徴と病態を説明することができる。 整形外科疾患に対する治療、リハビリテーションの位置づけについて説明することができる。 運動器の機能障害が日常生活活動や生活の質に及ぼす影響を理解し、理学療法を展開できるようになる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 各授業に臨むにあたり、当該範囲に関する事前学修を必ず行うこと。 各授業内容を理解したうえで、骨関節障害理学療法学の学修に活かすこと。 									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	理学療法の対象となる整形外科疾患				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分程度)				佐々木 広人	
2	軟部組織損傷								佐々木 広人	
3	成人の骨折・脱臼								佐々木 広人	
4	小児の骨折・脱臼								佐々木 広人	
5	頸椎の疾患								小松 佳路	
6	胸椎・腰椎の疾患								小松 佳路	
7	脊椎・脊髄損傷								小松 佳路	
8	末梢神経損傷(病態・原因・評価)								佐々木 広人	
9	末梢神経損傷(治療と代表的な末梢神経障害)								佐々木 広人	
10	上肢のスポーツ外傷								佐々木 広人	
11	下肢のスポーツ外傷								佐々木 広人	
12	上肢のスポーツ障害								佐々木 広人	
13	下肢のスポーツ障害								佐々木 広人	
14	障害者スポーツとは								小松 佳路	
15	障害者スポーツにおける医療専門職の役割								小松 佳路	
教科書	「標準整形外科学 第14版」井樋栄二他編、医学書院* *整形外科学総論と同じ教科書を使用する									
参考文献	「初めて携わるメディカルスタッフのための障がい者スポーツ-レクリエーションレベルから競技レベルまでのケアとサポートの実践術」青木隆明、メジカルビュー社									
備考	A B 合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐々木：整形外科疾患に対して理学療法士としての経験が豊富で科目を教授に十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-09			
		●		●					
科目名	精神医学総論				単位認定者	三輪 真也		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	2年		授業形態	講義	授業時間数		30 時間
							授業回数		15 回
授業の概要	精神医学の対象は「こころ」あるいは「精神」であり、その領域は広い。精神医学について、その概念や精神症候学、精神障害の分類、治療等について広く学び、その障害を持つ患者の理解に必要な基本的事項や臨床で必要とされる精神医学の知識を身につける。								
到達目標	心の構造と精神疾患の概要を理解し、精神疾患患者の気持ちに共感できる。								
学修者への期待等	臨床現場に出ても戸惑うことのないように、集中して受講してください。								
回	授業計画				準備学修				
1	こころ(精神)とは何かを学修する(心の構造について理解する)				教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む(概ね1時間程度)				
2	こころ(精神)とは何かを学修する(心と環境のかかわりについて理解する)				教科書1章(精神医学とは)・2章(精神障害の成因と分類)を読む(概ね1時間程度)				
3	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病の各病態による心の機能水準の違いを学修する				教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む(概ね1時間程度)				
4	神経症性障害、パーソナリティ障害、精神病、各々について病態の理解を深める				教科書3章(精神機能の障害と精神症状)・4章(精神障害の診断と評価)を読む(概ね1時間程度)				
5	神経症性障害について学修する				教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む(概ね1時間程度)				
6	心身症について学修する				教科書11章(神経症性障害)・17章(心身医学)を読む(概ね1時間程度)				
7	パーソナリティ障害とは何かを学修する				教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む(概ね1時間程度)				
8	パーソナリティ障害の治療を中心に学修する				教科書12章(生理的障害および身体的要因に関連した障害)・13章(成人のパーソナリティ・行動・性の障害)を読む(概ね1時間程度)				
9	統合失調症の病態について学修する				教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む(概ね1時間程度)				
10	統合失調症の経過と治療について学修する				教科書9章(統合失調症およびその関連障害)を読む(概ね1時間程度)				
11	気分障害について学修する				教科書10章(気分(感情)障害)を読む(概ね1時間程度)				
12	発達障害、自閉スペクトラム症について学修する				教科書14章(精神遅滞[知的障害])・15章(心理的発達の障害)を読む(概ね1時間程度)				
13	器質性精神障害全般について学修する				教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む(概ね1時間程度)				
14	認知症を呈する脳疾患について学修する				教科書5章(脳器質性精神障害)・6章(症状性精神障害)を読む(概ね1時間程度)				
15	補足、まとめ				第14回に指定のあった教科書範囲を読む(概ね1時間程度)				
教科書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学」 奈良 勲 著、医学書院								
参考文献	講義の中で適宜紹介する。								
備考	P T・O T合同授業								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-13			
		●		●					
科目名	老年学				単位認定者	佐直 信彦		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間		
				授業形態	講義	授業回数	8 回		
授業の概要	高齢化の加速に伴って、リハビリテーションの対象としての高齢者が増えると考えられる。老化に伴って生じる内臓諸器官、運動器、神経系、感覚器、精神活動の変化、その他の加齢変化について学ぶとともに、高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療やリハビリテーション実施上の問題点、また障害高齢者を受け入れる療養上の問題点について理解を図る。								
到達目標	1. 老化の生物学的意義と老化理論を理解し、説明できるようになる。 2. 加齢に伴う人体並びに諸機関の構造・機能の変化を理解し、説明できるようになる。 3. 老化現象と疾病並びに生活機能の関係を理解し、理学療法、作業療法に展開できるようになる。 4. 高齢者をめぐる現状と課題について理解し、将来の変遷に対処できるようになる。								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間中に授業内容を理解する。解らないことは積極的に質問する。 ・ 授業の資料やノートを整理し、復習する。 								
回	授業計画				準備学修				担当
1	老年学と老化学 I 老化とは II 老化の測定				LMSの当該講義資料で予習復習し、ノートを整理する。(概ね45分程度)				佐直 信彦
2	III 老化の理解：細胞老化、 老化の機序と制御								佐直 信彦
3	加齢による変化 総論 ①全般的身体的・機能的変化 ②組織レベルの変化 加齢による変化 各論 A神経・筋系、B感覚系								佐直 信彦
4	C骨・運動器、D循環器系、E呼吸器系、F消化器系、G排尿機能、H体温調節、I免疫機能、J内分泌機能、K生体リズム、L高次脳機能、M心理社会面								佐直 信彦
5	老年症候群：概念、分類、虚弱・衰弱・老衰、フレイル、低栄養、サルコペニア、不眠、転倒・骨折								戸田 祐子
6	ロコモティブシンドローム：定義、症候・徴候、判定・診断								佐々木 広人
7	高齢者とリハビリテーション： 高齢者の特徴、機能障害に影響する要因、高齢者のリハビリテーションと特異性								戸田 祐子
8	高齢者をめぐる現状と課題： 2025年問題、地域包括ケアシステム、地域連携の重要性								戸田 祐子
教科書	教科書指定せず。								
参考文献	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学」大内尉義編、医学書院(図書館蔵) 「新老年学」大内尉義・他編、東京大学出版会(図書館蔵)								
備考	P T・O T合同授業 当該授業資料・狙いと課題をLMS上に掲載します。それに従って予習復習をしてください。授業内課題の解答及び筆記試験の結果の講評はLMSに掲載する。 個別には教員研究室にて対応する。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐直は、医学部卒業後東北大学医学部附属鳴子分院にて内科学全般、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医・脳卒中専門医等を取得した。その後、前任地の4年制大学のリハビリテーション学科教授を13年間務めた。この経験をもとに講義を担当する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-10				
		●		●						
科目名	臨床心理学				単位認定者	村椿 智彦		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	15 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間		受講態度	5 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	臨床心理学は、心理学の知識と技術を用いて心の不適応な状態あるいは病的状態についての支援を行う学問である。本講義では、臨床心理学の役割、心理的問題の分類、心理療法、カウンセリングなどについて学ぶ。理学療法士・作業療法士として患者と関わる中で、患者の心理を理解し、心理的適応援助につながる知識を身につける。									
到達目標	臨床心理学の知識を習得して支援を必要とする対象の心理行動的側面を理解できるようになること、そしてそれに基づいて適切な支援をできるようになること。									
学修者への期待等	1. 1年次に修得した心理学の知識を踏まえた上で、準備学修を行うこと。 2. 毎回、小テストを実施するため予習を行うとともに、真摯な態度で受講すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	リハビリテーションと臨床心理学				【予習】教科書p.8～15を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
2	臨床心理学とは				【予習】教科書p.64～71を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
3	治療者-患者関係(共感・傾聴・ラポール・カタルシス、転移と逆転移)				【予習】教科書p.74～77を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
4	障がい受容の過程				【予習】教科書p.78～79を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
5	心理アセスメント				【予習】教科書p.80～87を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
6	心理検査(1) 人格検査、知能検査				【予習】教科書p.88～91を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
7	心理検査(2) 発達検査、認知機能検査				【予習】教科書p.92～95を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
8	支持的精神療法と集団精神療法				【予習】教科書p.114～117を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
9	心理療法の理論と技法(1) 精神分析、防衛機制				【予習】教科書p.72～73、p.104～105を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
10	心理療法の理論と技法(2) 行動療法、学習(レスポナント条件付け、オペラント条件付け)				【予習】教科書p.44～47、p.96～99を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
11	心理療法の理論と技法(3) 認知行動療法、情動理論				【予習】教科書p.32～33、p.100～101を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
12	心理療法の理論と技法(4) 自律訓練法、バイオフィードバック、社会生活技能訓練				【予習】教科書p.102～103を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
13	心理療法の理論と技法(5) 来談者中心療法、交流分析				【予習】教科書p.110～113を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
14	心理療法の理論と技法(6) 芸術療法(絵画療法、箱庭療法)				【予習】教科書p.108～109を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
15	心理療法の理論と技法(7) 内観療法、森田療法				【予習】教科書p.106～107、p.118～119を通読する。 【復習】教科書とノートを用いて振り返る。 (概ね1時間～2時間)					
教科書	「リハベーシック 心理学・臨床心理学」内山靖 他 編 医歯薬出版株式会社									
参考文献	授業時に随時紹介する。									
備考	P T・O T合同授業。小テストは答え合わせ、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-04				
		●		●						
科目名	リハビリテーション栄養学				単位認定者	五十嵐 祐子		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	栄養は生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。本講義では、栄養に関する基礎事項について学修し、理学療法・作業療法を実施する上で必要な栄養管理とその指導について学ぶ。									
到達目標	リハビリテーション栄養とは何かを理解し説明することができる。また、理学療法・作業療法の効果を高めるために必要な栄養管理について理解し、基礎的事項を修得する。									
学修者への期待等	本科目を履修することにより、将来医療や福祉の現場でセラピストとして活躍するために必要な栄養管理の知識を身につけてほしい。また、リハビリテーション栄養の知識を身につけるために、事前に参考文献を読んで授業に臨んで下さい。									
回	授業計画				準備学修					
1	リハビリテーション栄養とは何か-リハビリテーション栄養の必要性 その意義と目的				自分自身や家族が毎日食べている食事について振り返ってみる。					
2	栄養アセスメント、栄養スクリーニング方法、栄養ケアプロセスについて				前回講義の復習を30分程度行うこと。					
3	飢餓・蛋白質・エネルギー栄養障害の病態の理解と栄養管理									
4	フレイル・サルコペニア予防のための栄養の有用性									
5	栄養サポートチーム (NST) とは何か NSTとリハビリテーションの関連									
6	悪性疾患 (がん) のリハビリテーション栄養について									
7	脳血管疾患のリハビリテーション栄養について									
8	大腿骨近位部骨折のリハビリテーション栄養について									
教科書	なし									
参考文献	「PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養第3版 基礎から栄養ケアプロセスまで」若林秀隆 著、医歯薬出版									
備考	講義は全て遠隔 (オンデマンド) で実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-D&R-11				
		●		●						
科目名	救急救命医学				単位認定者	伊藤 大亮		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
	O T	必修	2年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	救急医療とは、一般市民による心肺蘇生法を含めた応急手当、119番通報と救急車の出動、救急隊員や救急救命士による現場での応急処置や救急搬送などの病院前救護から、救急室での救命治療、ICUでの重症患者管理等をいう。本講義では、理学療法士及び作業療法士の関わりも含め、緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方、心肺蘇生・応急処置について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命医学について対象となりうる疾患、外傷について理解し説明できる。 救急救命医学における理学療法士、作業療法士の関わりを理解し説明できる。 災害医療について理解できるようになる。 									
学修者への期待等	医療従事者の一員である理学療法士、作業療法士として、救急救命の知識・技術を修得でき、実践できるように努めてください。									
回	授業計画				準備学修		担当			
1	応急手当の基礎知識① (応急手当と救命処置)				教科書の該当ページを予習すること。(概ね30分)		横山 亜矢			
2	応急手当の基礎知識② (倫理と法律、救急医療体制について)				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分)		横山 亜矢			
3	傷病者の管理、止血法 ・反転授業(実習)				テキスト §3 その他の応急処置 I・IIにて予習すること(概ね30分)		横山 亜矢			
4	搬送法 ・反転授業(実習)				テキスト §3 その他の応急処置IVにて予習すること(概ね30分)		横山 亜矢			
5	各症候群についてとその対応				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分)		横山 亜矢			
6	病気に対する応急手当				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分)		横山 亜矢			
7	けがに対する応急手当				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分)		横山 亜矢			
8	現場での応急手当の実際				教科書の該当ページを予習・復習すること。(概ね30分)		横山 亜矢			
9	災害医療の基礎知識				災害医療に関する知識について調べておくこと。		伊藤 大亮 江川 新一			
10	わが国の災害医療体制とリハビリ				災害医療に関する知識について調べておくこと。		伊藤 大亮 江川 新一			
11	避難所運営ゲーム(HUG)①グループワーク				避難所運営ゲーム(HUG)について調べておくこと。		江川 新一 坂上 尚穂 佐々木 広人			
12	避難所運営ゲーム(HUG)②グループワーク				グループワークの課題作成をしておくこと。		荒牧 隼浩 伊藤 大亮 齋藤 佑樹 高橋 慧			
13	手当・一次救命処置(BLS)の実際(1)グループワーク				BLSについて、予習しておくこと。		坂上 尚穂 佐々木 広人			
14	手当・一次救命処置(BLS)の実際(2)グループワーク				BLSについて、予習・復習しておくこと。		荒牧 隼浩 伊藤 大亮 須藤 あゆみ			
15	手当・一次救命処置(BLS)の実際(3)グループワーク				BLSについて、予習・復習しておくこと。		戸田 祐子			
教科書	「改訂6版 応急手当講習テキスト 救急車がくるまでに」 制作 一般財団法人 救急振興財団 東京法令出版									
参考文献	災害リハビリテーション標準テキスト/医歯薬出版株式会社									
備考	クラス編成 1回目～12回目：P T・O T合同、13回目～15回目：3クラス編成									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-H&R-03				
		●		●	●					
科目名	公衆衛生学				単位認定者	鈴木 寿則		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	個人水準で健康を扱う臨床医学に対して、公衆衛生は集団レベルの健康を取り扱う。その領域は、対人保健(老人・母子・学校・職域)、対物保健(生活環境・食品衛生等)および環境保健(環境保全・公害)など多岐にわたっている。本講義では、我が国における各種疾病統計を踏まえ、実際に地域社会で展開されている公衆衛生活動(対人保健・対物保健、環境保健など)およびその基盤となる保健・医療・福祉制度(関係法規、衛生行政等)の概要について学修する。									
到達目標	1. 現代における健康が社会とどのように関わっているのか説明できる。 2. 理学療法士および作業療法士に関係する保健活動について説明できる。									
学修者への期待等	教科書を中心に板書を行いますので、各自ノートなどを用意してください。また、講義の復習として、自分のノートをもとに、調べた内容を書き込むなどしてください。予習としては、日ごろから健康問題や医療問題に関心を持ち、ニュースや新聞に注意を向けてください。									
回	授業計画				準備学修					
1	公衆衛生学の概念、公衆衛生学の歴史について				教科書p.1~8 (第1章公衆衛生学序論1.健康の概念~2.公衆衛生の概念)を読む(概ね1時間程度)					
2	保健統計の種類と概要について				教科書p.33~39 (第4章保健統計1.保健統計の概要)を読む(概ね1時間程度)					
3	死亡統計と傷病統計について				教科書p.39~54 (第4章保健統計2.人口動態統計~5.傷病統計)を読む(概ね1時間程度)					
4	疾病予防と疫学の関係、疫学の考え方について				教科書p.54~62 (第4章保健統計5.傷病統計~第5章疫学1.疫学の概念)を読む(概ね1時間程度)					
5	疫学の研究デザイン(コホート研究、症例対照研究)				教科書p.62~79 (第5章疫学2.疫学で用いられる指標とバイアスの制御~4.スクリーニング)を読む(概ね1時間程度)					
6	がんと循環器疾患の疫学統計および予防について				教科書p.80~85 (第6章疫学研究の評価と倫理)を読む(概ね1時間程度)					
7	糖尿病と感染症の疫学統計および予防について				教科書p.86~95 (第7章疾病予防と健康管理1.健康に関連する行動と社会)を読む(概ね1時間程度)					
8	精神保健の概要について				教科書p.96~106 (第7章疾病予防と健康管理2.生活習慣病のリスク行動~3.健康増進行動)を読む(概ね1時間程度)					
教科書	「衛生・公衆衛生学 社会や環境システムと健康の関わり(2023年発行・最新版)」山本玲子編、アイ・ケイ コーポレーション									
参考文献	特になし									
備考	P T・O T合同授業									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-1-H&R-04				
		●		●						
科目名	医療関連法規				単位 認定者	鈴木 寿則		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	40 %
	O T	必修	2年			授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	医療従事者である理学療法士・作業療法士が、理学療法士及び作業療法士法だけでなく、医療の内容を規定する医療法、医師をはじめとする医療関係職の資格法、保健医療制度、社会保障制度ならびに介護保険法など関連する法規を理解しておくことは専門職として必須である。理学療法士・作業療法士として知っておくべき基本的な法規、社会保障制度とヘルスケア及びリハビリテーション・サービスの体制を学修する。									
到達目標	1. 保健医療、社会保障制度（年金、医療保険、介護保険）地域保健法について概要を理解できるようになる。 2. 現代社会において社会保障施策がどのような役割を果たしているのか、また今後の課題について、どのような対応が望まれるのかを学ぶ。									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げた内容は授業中に理解できるように集中し、解らない箇所は質問してください。 授業後はノート等を整理し、復習に重点を置いてください。 									
回	授業計画				準備学修					
1	社会保障の概念と歴史				教科書 p. 1～13 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
2	日本における社会保障の形成と展開				教科書 p. 13～27 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
3	わが国の年金保険制度の仕組み				教科書 p. 47～57 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
4	国民年金、厚生年金保険、共済年金の概要				教科書 p. 47～57 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
5	医療保険制度の仕組み				教科書 p. 81～93 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
6	医療保険制度の概要（健康保険、国民健康保険）				教科書 p. 86～93 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
7	医療法と地域保健法				教科書 p. 101～106 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
8	介護保険制度の概要				教科書 p. 111～120 復習中心にノートを整理する（概ね45分程度）					
教科書	「新・社会福祉士シリーズ第12巻 社会保障」（責任編集＝阿部裕二・熊沢由美）弘文堂									
参考文献	特になし									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する。 評価方法の一つである授業内課題は各授業内で課題レポートの提出を求める。またそのフィードバックは、担当教員が読み、次回以降の授業内で講評する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-ASP-03				
		●	●	●						
科目名	骨関節障害理学療法評価学実習				単位認定者	佐々木 広人		試験(実技)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	試験(筆記)	40 %
					授業形態		実習		授業時間数	44 時間
						授業回数	22 回			
授業の概要	骨関節障害理学療法評価学実習では、主として整形外科疾患の病態を把握するための検査手技や骨関節障害に必要な理学療法の評価・測定をするための基本的な技術を習得する。また、骨関節障害の病態、病態を捉えるための画像所見および評価、リスク管理の把握、骨関節障害における理学療法評価について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 骨関節障害に対する各種評価が実践できるようになる。 骨関節障害症例の諸症候について理学療法士の視点で分析できるようになる。 骨関節障害症例に対する臨床推論能力と問題解決能力が向上し、基本的アセスメントができるようになる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 本講義に参加する際、各回の学修箇所をしっかりと予習して臨むこと。 講義内でのグループ学修を主体的に行い、評価の知識、技術の修得のために能動的な学修を期待する。 講義の理解度(到達度)を確認するため、講義中に小テストおよび実技確認テストを実施することがある。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	運動器障害における理学療法評価総論				配付資料の「総論」の予習復習(概ね30分程度)			佐々木 広人 小松 佳路		
2	アライメント評価 静的アライメント				配付資料の「アライメント評価」の予習復習(概ね30分程度)			佐々木 広人 小松 佳路		
3	アライメント評価 動的アライメント				配付資料の「アライメント評価」の予習復習(概ね30分程度)			佐々木 広人 小松 佳路		
4	健常者を対象としたアライメント評価と臨床推論の実際～グループワークに症例検討～				グループワーク・発表準備(概ね1時間)			佐々木 広人 小松 佳路		
5	健常者を対象としたアライメント評価と臨床推論の実際～グループワーク 発表～				グループワーク・発表準備(概ね1時間)			佐々木 広人 小松 佳路		
6	上肢運動器系の検査 肩関節				配付資料の「上肢運動器系の検査 肘関節」の予習復習(概ね30分程度)			小松 佳路 伊藤 大亮		
7	上肢運動器系の検査 肘関節				配付資料の「上肢運動器系の検査 手関節」の予習復習(概ね30分程度)			小松 佳路 伊藤 大亮		
8	上肢運動器系の検査 手関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 股関節」の予習復習(概ね30分程度)			小松 佳路 伊藤 大亮		
9	下肢運動器系の検査 股関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 股・膝関節」の予習復習(概ね30分程度)			小松 佳路 伊藤 大亮		
10	下肢運動器系の検査 股関節・膝関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 膝関節」の予習復習(概ね30分程度)			小松 佳路 伊藤 大亮		
11	下肢運動器系の検査 膝関節				配付資料の「下肢運動器系の検査 足関節」の予習復習(概ね30分程度)			小松 佳路 伊藤 大亮		
12	下肢運動器系の検査 足関節				配付資料の「脊柱・骨盤の検査 腰部」の予習復習(概ね30分程度)			小松 佳路 伊藤 大亮		
13	脊柱・骨盤の検査 頸部				配付資料の「脊柱・骨盤の検査 腰部」の予習復習(概ね30分程度)			小松 佳路 伊藤 大亮		
14	脊柱・骨盤の検査 腰部				配付資料の「脊柱・骨盤の検査 仙腸関節」の予習復習(概ね30分程度)			小松 佳路 伊藤 大亮		
15	脊柱・骨盤の検査 骨盤				配付資料「筋力測定」の予習復習(概ね30分程度)			小松 佳路 伊藤 大亮		

回	授業計画	準備学修	担当
16	計測機器を用いた筋力測定 (ハンドヘルドダイナモメーター)	配付資料「筋力測定」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人 小松 佳路
17	計測機器を用いた筋力測定 (BIODEX)	配付資料「持久力評価」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人 小松 佳路
18	持久力の評価 (体力、運動耐容能)	配付資料「持久力評価」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人
19	持久力の評価 (筋持久力、全身持久力)	配付資料「疼痛評価」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人
20	疼痛の評価 (運動器に関連した疼痛評価)	配付資料「疼痛評価」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人
21	まとめ・症例検討の進め方 (臨床思考過程 評価)	配付資料の「まとめ」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人
22	まとめ・症例検討の進め方 (臨床思考過程 まとめ)	配付資料の「まとめ」の予習復習 (概ね30分程度)	佐々木 広人
教科書	「PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学第2版」下田信明他編、羊土社* *1年次購入済み		
参考文献	「PT・OTのための測定評価6 整形外科的検査」伊藤俊一監修、三輪書店 「運動器リハビリテーションの機能評価Ⅰ・Ⅱ」David J. Magee、エルゼビア・ジャパン 「図解理学療法検査・測定ガイド」第2版 奈良勲、内山靖、文光堂 「理学療法評価学 障害別・関節別評価のポイントと実際」市橋則明、文光堂 「理学療法評価学」改訂第6版 松澤正、江口勝彦、金原出版株式会社		
備考	A B別2クラス 実技可能な服装で参加すること。 グループワーク課題においては発表内容をレポートにまとめ、提出を課すことがある。 その場合は、次回講義時に返却・解説する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐々木：骨関節障害に関する評価および治療の臨床経験をもつ教員により授業を実施する。実務経験豊富な教員により講義を行うことで基本的かつ実践的な理学療法評価の知識修得を目指す。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-ASP-04				
		●	●	●						
科目名	神経障害理学療法評価学実習				単位 認定者	小関 友記		試験(筆記)	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の 方法	授業内課題(小テ スト・レポート)	10 %
					授業形態		実習		授業時間数	44 時間
				授業回数		22 回				
授業の概要	神経障害理学療法評価学実習では、主として神経疾患の病態を把握するための検査手技や神経障害に必要な理学療法の検査・測定をするための基本的な技術を習得する。また、神経障害の病態、病態を捉えるための画像所見および評価、リスク管理の把握、神経障害における理学療法評価について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・神経障害に対する各種評価が実践できるようになる。 ・神経障害の諸症候について理学療法士の視点で分析できるようになる。 ・神経障害の症例に対する臨床推論能力と問題解決能力が向上し、基本的アセスメントができるようになる。 									
学修者への 期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義に参加する際、各回の学修箇所をしっかりと予習して臨むこと。 ・講義内でのグループワークを主体的に行い、評価の知識、技術の修得のために能動的な学修を期待する。 ・講義の理解度(到達度)を確認するため、講義中に小テストおよび実技確認テストを実施することがある。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	中枢神経疾患における検査の目的と意義				講義内容を確認するため、シラバスを持参すること。生理学等で学んだ神経系の知識を復習しておくこと(60分)			小関 友記		
2	意識障害の検査、認知機能検査				教科書①p210～222(特にJCS)、教科書②p102～107のHDS-R・MMSEについて予習すること(30分) 意識障害検査・認知機能検査について小テストを実施するため準備すること			小関 友記 森永 雄		
3	筋緊張検査				教科書①p62～69について予習すること(60分)			小関 友記		
4	筋緊張検査(実技)				筋緊張について小テストを実施するため準備すること			小関 友記 森永 雄		
5	反射検査				教科書①p126～p141について予習すること(60分)			小関 友記		
6	反射検査(実技)				反射について小テストを実施するため準備すること(60分)			小関 友記 森永 雄		
7	感覚検査(感覚概論、表在覚、深部覚)				教科書①p142～173について予習すること(60分)			森永 雄		
8	感覚検査(実技)				感覚について小テストを実施するため準備すること(60分)			小関 友記 森永 雄		
9	中枢神経運動麻痺概論・ブルンストロームステージ				教科書①p70～73、教科書②p351について予習すること(60分)			小関 友記 森永 雄		
10	運動麻痺に関わる諸検査(上田式12段階など)				ブルンストロームステージについて小テストを実施するため準備すること。(60分)			小関 友記 森永 雄		
11	協調運動障害(失調)検査(講義・グループワーク)				教科書①p174～189、教科書②p308～p318について予習すること(60分)			小関 友記		
12	協調運動障害(失調)検査(実技)				協調運動障害について小テストを実施するため準備すること。(60分)			小関 友記 森永 雄		
13	姿勢・歩行の評価(講義・グループワーク)				教科書①p110～125について予習すること(60分)			森永 雄		
14	姿勢・歩行の評価(実技)				姿勢・歩行についてレポートを課す。(60分)			小関 友記 森永 雄		
15	姿勢反射(講義・グループワーク)				教科書②p279～293について予習すること(60分)			小関 友記		

回	授業計画	準備学修	担当
16	姿勢反射（実技）	姿勢反射について小テストを実施するため準備すること。（60分）	小関 友記 森永 雄
17	バランスパフォーマンステスト（講義・グループワーク）	教科書②p293～307について予習すること（30分）	小関 友記
18	バランスパフォーマンステスト（実技）	バランスパフォーマンステストについて小テストを実施するため準備すること。（60分）	小関 友記 森永 雄
19	脳卒中機能評価（SIAS・Fugl-Meyer・NIHSS・Motor Assessment Scale）	教科書②p451～455について予習すること（30分）。脳卒中機能評価について小テストを実施するため準備すること。	小関 友記 森永 雄
20	脳神経検査（講義・グループワーク）	教科書①p8～61、教科書②p96～101について予習すること（60分）	小関 友記
21	脳神経検査（実技）	脳神経検査について小テストを実施するため準備すること。（60分）	小関 友記 森永 雄
22	実際の症例に対する検査測定の意味	これまで講義で学んだ検査測定全般について復習しておくこと（60分）	小関 友記
教科書	①神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 鈴木則宏編集、MEDICAL VIEW ②PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 下田信明他編、羊土社* *1年次購入済み		
参考文献	「ベッドサイドの神経の診かた」第18版 田崎義昭、斎藤佳雄、南山堂 「理学療法評価学 障害別・関節別評価のポイントと実際」市橋則明、文光堂 「図解理学療法検査・測定ガイド」第2版 奈良勲、内山靖、文光堂		
備考	A B別2クラス 実技可能な服装で参加すること。 グループワーク課題においては発表内容をレポートにまとめ、提出を課す。 授業内課題は授業内にてフィードバックを実施する。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

小関：科目担当者は、理学療法学全般に関する評価および治療の実務経験を有する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RP-2-ASP-05

科目名	臨床理学療法評価学演習				単位 認定者	佐々木 広人		評価の 方法	試験(実技)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		試験(実技)	100 %
					授業形態	演習	授業時間数			
						授業回数	30 回			

授業の概要
理学療法評価は治療と表裏一体の関係をもち、得られた評価結果から論理的な分析・解釈・判断に不可欠な根拠や判断基準となる。臨床理学療法評価学演習では、理学療法における臨床場面で必要な全般的な理学療法評価に関する知識、技術を修得する。また、各疾患に必要な評価項目を列挙し、的確な検査・測定から理学療法評価、治療プログラム立案という理学療法評価の流れについて学修する。

到達目標
1. 評価とは何か、臨床思考過程の基本的な評価の流れが理解できるようになる。
2. 各検査測定項目の意義を理解し、基本的な評価が実施できるようになる。
3. 各疾患のリスクについて理解し、症例を想定した評価が部分的に実施できる。
4. 基本的な記録と報告ができるようになる。

学修者への期待等
各検査測定の方法について十分に復習したうえで授業に臨んでください。動きやすい服装で参加してください。各自実技を動画で撮影する場合がありますので、携帯・タブレット等の動画撮影可能な機器を持参して下さい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	評価の意義、臨床思考過程	評価の意義について、考えてみよう。(概ね30分程度)	佐々木 広人
2	運動器疾患に対するリスク管理① 骨折に伴う合併症	指定教科書の該当箇所をよく読み、実技がスムーズにできるように各自練習しておくこと。(概ね60分程度)	佐々木 広人 小松 佳路
3	運動器疾患に対するリスク管理② そのほかの合併		佐々木 広人 小松 佳路
4	療法士面接 実技		佐々木 広人 小松 佳路
5	関節可動域測定 一上肢一 実技		佐々木 広人 小松 佳路
6	関節可動域測定 一下肢一 実技		佐々木 広人 小松 佳路
7	形態測定 実技		佐々木 広人 小松 佳路
8	筋力測定 一上肢一 実技		佐々木 広人 小松 佳路
9	筋力測定 一下肢一 実技		佐々木 広人 小松 佳路
10	整形外科疾患別検査 実技		佐々木 広人 小松 佳路
11	整形外科疾患に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討(一連の評価)		総まとめができるように、疾患別に評価項目をリストアップし、その検査測定や評価がスムーズにできるようにしておくこと。(概ね60分程度)
12	整形外科疾患に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討(まとめ)	佐々木 広人 小松 佳路	
13	神経障害に対するリスク管理① 急変のリスク	指定教科書の該当箇所をよく読み、実技がスムーズにできるように各自練習しておくこと。(概ね60分程度)	小関 友記 坂上 尚穂
14	神経障害に対するリスク管理② リハ開始・中止基準		小関 友記 坂上 尚穂
15	感覚検査 実技		小関 友記 坂上 尚穂

回	授業計画	準備学修	担当
16	反射検査（腱反射・病的反射） 実技	指定教科書の該当箇所をよく読み、実技がスムーズにできるように各自練習しておくこと。（概ね60分程度）	小関 友記 坂上 尚穂
17	脳卒中の麻痺側運動機能の評価 実技		小関 友記 坂上 尚穂
18	運動失調検査 実技		小関 友記 坂上 尚穂
19	バランス（座位）検査 実技		小関 友記 坂上 尚穂
20	バランス（立位）検査 実技		小関 友記 坂上 尚穂
21	脳血管疾患に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討（一連の評価）	総まとめができるように、疾患別に評価項目をリストアップし、その検査測定や評価がスムーズにできるようにしておくこと。（概ね60分程度）	小関 友記 坂上 尚穂
22	脳血管疾患に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討（まとめ）		小関 友記 坂上 尚穂
23	内部障害に対するリスク管理① 循環器を中心に	指定教科書の該当箇所をよく読み、実技がスムーズにできるように各自練習しておくこと。（概ね60分程度）	伊藤 大亮 荒牧 隼浩
24	内部障害に対するリスク管理② 呼吸器を中心に		伊藤 大亮 荒牧 隼浩
25	脈拍と血圧の測定① 基本的な計測方法 実技		荒牧 隼浩 伊藤 大亮
26	脈拍と血圧の測定② 計測実践 実技		荒牧 隼浩 伊藤 大亮
27	標準予防策（スタンダードプレコーション） 実技		荒牧 隼浩 伊藤 大亮
28	呼吸パターンと動脈血酸素飽和度の評価 実技	荒牧 隼浩 伊藤 大亮	
29	内部障害に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討（一連の評価）	総まとめができるように、疾患別に評価項目をリストアップし、その検査測定や評価がスムーズにできるようにしておくこと。（概ね60分程度）	伊藤 大亮 荒牧 隼浩
30	内部障害に対する一連の検査・測定 グループワークによる症例検討（まとめ）		伊藤 大亮 荒牧 隼浩
教科書	「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編」第2版 才藤栄一監修、金原出版		
参考文献	「リハビリテーションリスク管理ハンドブック」改訂第2版 亀田メディカルセンター監修、MEDICAL VIEW		
備考	A B別2クラス 検査器具（打腱器、ストップウォッチ、メジャー）は各自準備しておくこと。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐々木：講義内容に関する評価および治療の十分な実務経験を有する教員により授業を実施する。経験豊富な教員により講義を行うことで臨床的な技術・方法の学習が期待できる。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RP-2-FLP-05

科目名	骨関節障害理学療法学				単位 認定者	佐々木 広人		評価の方法	試験(筆記)	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	10 %
						授業形態	講義		授業時間数	60 時間
							授業回数		30 回	
授業の概要	骨関節障害理学療法学では、運動器疾患における運動療法の目的や運動の種類とともに、関節可動域練習、筋力増強運動等の基本的な運動療法について学修する。さらに、さまざまな運動器疾患の病態、画像所見の把握、リスク管理の把握、理学療法評価、理学療法プログラムについて学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 骨関節障害の概念、治療について説明することができる。 骨関節障害の特徴と病態を説明することができる。 骨関節障害の一般的理学療法評価項目を説明することができる。 骨関節障害の一般的理学療法プログラムを説明することができる。 骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。 各疾患の病態的特徴と理学療法評価および理学療法プログラムの関係性を説明することができる。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 解剖学、運動学の復習を行い授業に臨む。 臨床場面を想定した、症例を基盤とした課題演習を行うため、実際の患者さんに対する心構えで臨む。 臨床実習に向けての確認と実践的臨床対応を実技を通して深めていくもので、積極的参加を求める。 各授業に臨むにあたり、当該疾患に関しての事前学修を必ず行うこと。 各授業内容を理解したうえで、骨関節障害理学療法学演習の学修に活かすこと。 授業だけでなく、常日頃から実技の練習を行うことで、実践的な能力の向上を図る努力を怠らない。 									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	骨関節障害に対する基本的理学療法評価				授業計画に該当する疾患について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)				原 和彦	
2	関節リウマチの評価								佐々木 広人	
3	関節リウマチの治療								佐々木 広人	
4	膝靭帯損傷の評価								小松 佳路	
5	膝靭帯損傷の治療								小松 佳路	
6	半月板損傷の評価と治療								小松 佳路	
7	足関節内反捻挫の評価								小松 佳路	
8	足関節内反捻挫の治療								小松 佳路	
9	頸部疾患の評価								佐々木 広人	
10	頸部疾患の治療								佐々木 広人	
11	肩関節疾患の評価								佐々木 広人	
12	肩関節疾患の治療								佐々木 広人	
13	肘疾患の評価								小松 佳路	
14	肘疾患の治療								小松 佳路	
15	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症の評価								佐々木 広人	

回	授業計画	準備学修	担当	
16	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症の治療	授業計画に該当する疾患について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)	佐々木 広人	
17	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症のADL		佐々木 広人	
18	大腿骨頸部骨折の評価		原 和彦	
19	大腿骨頸部骨折の治療		原 和彦	
20	下腿骨骨折の評価		原 和彦	
21	下腿骨骨折の治療		原 和彦	
22	上腕骨骨折に対する評価と治療		原 和彦	
23	前腕骨・手部の骨折の評価と治療		原 和彦	
24	変形性股関節症の評価 (保存・手術)		原 和彦	
25	変形性股関節症の治療 (保存・手術)		原 和彦	
26	変形性膝関節症の評価 (保存・手術)		原 和彦	
27	変形性膝関節症の治療 (保存・手術)		原 和彦	
28	症例検討 (上肢疾患)		該当疾患の講義資料を復習しておく (復習時間概ね各30分程度)	佐々木 広人
29	症例検討 (下肢疾患)			佐々木 広人
30	症例検討 (脊柱疾患)	佐々木 広人		
教科書	「最新理学療法学講座 運動器理学療法学」木藤伸宏編、医歯薬出版			
参考文献	「整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹 改訂第2版」整形外科リハビリテーション学会編集、メジカルビュー社 「整形外科運動療法ナビゲーション下肢 改訂第2版」整形外科リハビリテーション学会編集、メジカルビュー社 「標準整形外科学 第13版」中村利孝他編、医学書院 「運動器疾患の病態と理学療法」奈良 勲 監、森山 英樹、木藤 伸宏 編、医歯薬出版			
備考	A B別2クラス			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐々木：骨関節障害に対して理学療法士としての経験が豊富で科目を教授に十分な実務経験を有する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
RP-2-FLP-06

科目名	骨関節障害理学療法学演習				単位 認定者	佐々木 広人		評価の方法	試験(実技)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題 (レポート)	50 %
						授業形態	演習		授業時間数	60 時間
							授業回数		30 回	

授業の概要
骨関節障害理学療法学演習では、さまざまな運動器疾患における病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから骨関節障害の理学療法評価過程を理解したうえで、治療プログラムを立案し、治療技術を習得する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療の実施を行い、各疾患における理学療法の過程について理解できることを目的とする。

到達目標

- 骨関節障害の特徴と病態を理解したうえで理学療法を実施することができる。
- 骨関節障害の特徴と病態を理解したうえで理学療法評価を実施することができる。
- 骨関節障害の特徴と病態を理解したうえで理学療法プログラムを立案し、実施することができる。
- 骨関節障害の特徴と病態を理解したうえで対するリスク管理ができる。
- 実践的に用いられる理学療法技術、臨床推論をもとに理解を深めることができる。

学修者への期待等

- 臨床場面を想定した、症例を基盤とした課題演習を行うため、実際の患者さんに対する心構えで臨む。
- 臨床実習に向けての確認と実践的臨床対応を演習・実技を通して深めていくもので、積極的参加を求める。
- 各授業に臨むにあたり、事前学修を必ず行うこと。
- 授業だけでなく、平日頃から症例検討を行い、実践的な能力の向上を図る努力を怠らない。

回	授業計画	準備学修	担当
1	骨関節障害に対する基本的理学療法評価	授業計画に該当する疾患について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)	原 和彦
2	関節リウマチの評価		佐々木 広人
3	関節リウマチの治療		佐々木 広人
4	膝靭帯損傷の評価		小松 佳路
5	膝靭帯損傷の治療		小松 佳路
6	半月板損傷の評価と治療		小松 佳路
7	足関節内反捻挫の評価		小松 佳路
8	足関節内反捻挫の治療		小松 佳路
9	頸部疾患の評価		佐々木 広人
10	頸部疾患の治療		佐々木 広人
11	肩関節疾患の評価		佐々木 広人
12	肩関節疾患の治療		佐々木 広人
13	肘疾患の評価		小松 佳路
14	肘疾患の治療		小松 佳路
15	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症の評価		佐々木 広人

回	授業計画	準備学修	担当	
16	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症の治療	授業計画に該当する疾患について教科書を確認する。また、LMSに掲載した資料を確認する。(予習・復習時間概ね各1時間程度)	佐々木 広人	
17	腰部椎間板ヘルニア・脊柱管狭窄症のADL		佐々木 広人	
18	大腿骨頸部骨折の評価		原 和彦 佐々木 広人 小松 佳路	
19	大腿骨頸部骨折の治療		原 和彦 佐々木 広人 小松 佳路	
20	下腿骨骨折の評価		原 和彦 佐々木 広人 小松 佳路	
21	下腿骨骨折の治療		原 和彦 佐々木 広人 小松 佳路	
22	上腕骨骨折に対する評価と治療		原 和彦 佐々木 広人 小松 佳路	
23	前腕骨・手部の骨折の評価と治療		原 和彦 佐々木 広人 小松 佳路	
24	変形性股関節症の評価 (保存・手術)		原 和彦 佐々木 広人 小松 佳路	
25	変形性股関節症の治療 (保存・手術)		原 和彦 佐々木 広人 小松 佳路	
26	変形性膝関節症の評価 (保存・手術)		原 和彦 佐々木 広人 小松 佳路	
27	変形性膝関節症の治療 (保存・手術)		原 和彦 佐々木 広人 小松 佳路	
28	症例検討 (上肢疾患)		該当疾患の講義資料を復習しておく (復習時間概ね各30分程度)	佐々木 広人
29	症例検討 (下肢疾患)			佐々木 広人
30	症例検討 (脊柱疾患)			佐々木 広人
教科書	「最新理学療法学講座 運動器理学療法学」木藤伸宏編、医歯薬出版* *骨関節障害理学療法学と同じ教科書を使用する			
参考文献	「整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹 改訂第2版」整形外科リハビリテーション学会編集、メジカルビュー社 「整形外科運動療法ナビゲーション下肢 改訂第2版」整形外科リハビリテーション学会編集、メジカルビュー社 「標準整形外科学 第13版」中村利孝他編、医学書院 「運動器疾患の病態と理学療法」奈良 勲 監、森山 英樹、木藤 伸宏 編、医歯薬出版			
備考	A B別2クラス 実技演習がしっかりと行える身だしなみ、服装で参加すること。また角度計、メジャー等、必要な物品の準備をして下さい。 授業内課題はレポートとなる。レポートの内容は各疾患講義担当教員から講義内で出題され、講義終了後1週間以内の提出となる。その後担当教員が評価し、採点后希望者にはフィードバックを行う。			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

佐々木：骨関節疾患に対して理学療法士としての経験が豊富で科目を教授に十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-07				
		●	●	●						
科目名	神経障害理学療法学				単位 認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	40 %
					授業形態		講義		授業時間数	60 時間
						授業回数	30 回			
授業の概要	中枢神経障害は多くの機能形態障害が重複した障害像を呈し、全体的な障害像をイメージすることが難しい。神経障害理学療法学では、主として脳卒中の障害像を学び、脳卒中に対する理学療法の考え方と、具体的なアプローチについて学修する。はじめに、脳卒中の病態とリスク管理、脳画像所見、理学療法評価、理学療法プログラム、動作分析やADL評価について理解し、学修する。次に、脳卒中の急性期・回復期・維持期(生活期)の理学療法について学修する。また、頭部外傷や高次脳機能障害に対する理学療法についても学修する。									
到達目標	神経障害の理学療法に関する基礎医学、理学療法評価および基本的治療について学修する。 1. 神経系の構造について理解できるようになる。 2. 脳卒中の病態や障害を理解できるようになる。 3. 急性期・回復期・生活期などそれぞれの時期に応じた理学療法が理解できるようになる。 4. 高次脳機能障害および頭部外傷についても障害像および症状に合わせた理学療法を理解できるようになる。									
学修者への期待等	神経障害のある患者さんを理学療法治療するために必要な講義です。講義内容を理解することで、神経障害に関する基礎知識、理学療法評価、治療プログラムの立案や治療プログラムの実施ができるよう学修してください。教科書をよく読み、予習復習を心掛けてください。毎回、語彙に関する小テストを行います。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	神経障害理学療法学総論				LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください(30分)。				網本 和	
2	中枢神経系の構造と機能の理解のための基礎知識								網本 和	
3	脳血管障害の定義と病態								網本 和	
4	脳血管障害の病態と障害像：脳画像評価								網本 和	
5	脳損傷とその回復メカニズム、予後予測								網本 和	
6	脳血管障害の病態								大和田 宏美	
7	脳血管障害におけるリスク管理と合併症								大和田 宏美	
8	脳血管障害におけるリハビリテーション(急性期・回復期・生活期)の流れ								大和田 宏美	
9	脳血管障害に対する理学療法総論：脳血管障害の障害像と運動麻痺の捉え方								大和田 宏美	
10	脳血管障害の理学療法評価(1) 障害構造								森永 雄	
11	脳血管障害の理学療法評価(2) 頻用される評価								森永 雄	
12	脳血管障害に対する急性期理学療法								森永 雄	
13	脳血管障害に対する急性期理学療法の実際								森永 雄	
14	脳血管障害に対する回復期理学療法(1)：歩行に向けて座位・立位を中心に								大和田 宏美	
15	脳血管障害に対する回復期理学療法(2)：歩行障害のアプローチ								大和田 宏美	

回	授業計画	準備学修	担当	
16	脳血管障害に対する回復期理学療法（3）：ADL障害および装具療法のアプローチ	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。	大和田 宏美	
17	脳血管障害に対する生活期理学療法		大和田 宏美	
18	課題指向型アプローチについて（講義）		小関 友記	
19	課題指向型アプローチについて（実践）		小関 友記	
20	頭部外傷に対する理学療法：病態と評価		大和田 宏美	
21	頭部外傷に対する理学療法の実践		大和田 宏美	
22	高次脳神経障害学総論		網本 和	
23	神経解剖学との関連、診断学の進歩		網本 和	
24	左半球症状の理解（失語症）		網本 和	
25	失行症のメカニズムとアプローチ 運動の高次神経機能障害		網本 和	
26	半側空間無視のメカニズム		網本 和	
27	半側空間無視への治療アプローチ		網本 和	
28	Pusher現象のメカニズム		網本 和	
29	Pusher現象のアプローチ		網本 和	
30	その他の高次脳機能障害		網本 和	
教科書	①「標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版」森岡 周, 阿部 浩明 編、奈良 勲 監修、医学書院 ②「病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経」改訂第2版 医療情報科学研究所、メディックメディア			
参考文献	「脳卒中理学療法の理論と技術」改訂第3版 原寛美・吉尾雅春編集、メジカルビュー社 「神経システムがわかれば脳卒中リハ戦略がきまる」手塚純一・増田司著、医学書院 「PT・OTのための高次脳機能障害ABC」網本 和編集、文光堂 「高次脳機能障害学」第2版 石合 純夫 著 医歯薬出版 「脳卒中機能評価・予後予測マニュアル」道免 和久 編集、医学書院 「脳卒中に対する標準的理学療法介入 何を考え、どう進めるか？」潮見泰蔵編集、文光堂 「理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ」鈴木俊明編集 MEDICALVIEW			
備考	AB別2クラス 前期中に1-17回までの内容に関し、小テストを実施する。希望者には担当教員より後日フィードバックを行う。			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

網本、大和田、小関、森永：神経障害理学療法全般に関する評価および治療の実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-08				
		●	●	●						
科目名	神経障害理学療法学演習				単位認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	30 %
					授業形態		演習		授業時間数	60 時間
						授業回数	30 回			
授業の概要	神経障害理学療法学演習では、脳卒中の障害像を理解し、脳卒中の病態、画像所見、理学的所見、ADL評価、動作分析などから脳卒中の理学療法評価過程を理解したうえで、治療プログラムを立案し、治療技術を習得する。また、具体的な症例を提示し、それに対する理学療法評価、治療プログラムの立案と治療の実施を行い、脳卒中の理学療法について理解できることを目的とする。									
到達目標	本講義においては、中枢神経に関する解剖学、生理学、運動学と神経系理学療法学で学んだ知識を基礎に、どのように臨床でその知識が用いられ、神経系理学療法治療技術が成立しているのかを学修する。そのためには、以下の具体的目標が到達されることが求められる。 1. 神経系理学療法を実施するために必要な脳画像所見を理解できる。 2. 神経障害患者の姿勢・動作の分析ができるようになる。 3. 神経障害患者に対する理学療法評価および理学療法を立案することができる。 4. 神経障害患者の症例検討を通じて、統合と解釈ができるようになる。									
学修者への期待等	実技を行う講義があるため、動きやすい格好を心がけてください。 指定教科書をよく読み、専門用語について理解を深めてください。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	神経系理学療法の概念：アクティブラーニング① 神経系理学療法の基礎				LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（60分）。				大和田 宏美	
2	神経系理学療法の概念：アクティブラーニング② 神経系障害と理学療法評価								大和田 宏美	
3	神経系理学療法の概念：アクティブラーニング③ 神経系理学療法アプローチ								大和田 宏美	
4	神経系理学療法の概念：アクティブラーニング④ グループワークの発表								大和田 宏美	
5	基礎①：脳画像所見の実際（CT画像）				LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。				網本 和	
6	基礎②：脳画像所見の実際（MRI・MRA画像）								網本 和	
7	動作分析①：脳卒中患者の起立・起居動作障害								森永 雄	
8	動作分析②：脳卒中患者の起立・起居動作評価								森永 雄	
9	動作分析③：脳卒中患者の歩行障害								森永 雄	
10	動作分析④：脳卒中患者の歩行評価								森永 雄	
11	理学療法①：ポジショニング、愛護的関節可動域練習								森永 雄	
12	理学療法②：早期離床								森永 雄	
13	理学療法③：装具療法								森永 雄	
14	理学療法④：装具療法の実際								森永 雄	
15	理学療法⑤：基本動作練習（課題指向型トレーニング含む）								森永 雄	

回	授業計画	準備学修	担当	
16	理学療法⑥：チームアプローチ・脳卒中ユニット	LMSより指定資料を事前に読んで理解を深めてください（30分）。	森永 雄	
17	症例①（急性期）理学療法評価の計画		森永 雄 網本 和	
18	症例①（急性期）リサーチ、ディスカッション		森永 雄 網本 和	
19	症例①（急性期）理学療法治療の立案		森永 雄 網本 和	
20	症例①（急性期）発表会		森永 雄 網本 和	
21	症例②（回復期）理学療法評価の計画		小関 友記 網本 和	
22	症例②（回復期）リサーチ、ディスカッション		小関 友記 網本 和	
23	症例②（回復期）理学療法治療の立案		小関 友記 網本 和	
24	症例②（回復期）発表会		小関 友記 網本 和	
25	症例② 理学療法治療の実際		小関 友記 網本 和	
26	症例③（回復期・生活期）理学療法評価の計画		大和田 宏美 網本 和	
27	症例③（回復期・生活期）リサーチ、ディスカッション		大和田 宏美 網本 和	
28	症例③（回復期・生活期）理学療法治療の立案		大和田 宏美 網本 和	
29	症例③（回復期・生活期）発表会		大和田 宏美 網本 和	
30	症例③ 理学療法治療の実際		大和田 宏美 網本 和	
教科書	「標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第3版」吉尾雅春編集、医学書院 「理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 神経障害理学療法学」諸橋勇、有馬慶美編集、文光堂			
参考文献	「脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション」阿部浩明、大畑光司、MEDICAL VIEW 「脳卒中理学療法の理論と技術」改訂第3版 原寛美・吉尾雅春編集、メジカルビュー社 「神経システムがわかれば脳卒中リハ戦略がきまる」手塚純一・増田司著、医学書院 「脳卒中に対する標準的理学療法介入 何を考え、どう進めるか？」潮見泰蔵編集、文光堂 「理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ」鈴木俊明編集 MEDICALVIEW			
備考	A B別2クラス ICT利活用教育（LMSを介して資料提示、課題回収を行う） 授業内課題は、各症例検討における成果物を成績対象とする。後日成果物に対するフィードバックを行う。			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

網本、大和田、小関、森永：神経障害理学療法全般に関する評価および治療の実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-09				
		●	●	●						
科目名	内部障害理学療法学				単位認定者	荒牧 隼浩		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		60 時間	
				授業回数		30 回				
授業の概要	内部障害理学療法学では、内部障害疾患における病態把握とリスク管理、合併症、理学療法評価、理学療法プログラム、各疾患特有のADL評価について理解する。内部障害学総論、呼吸器障害・循環器障害・代謝障害の理学療法やがんのリハビリテーションなどについて学修する。									
到達目標	内部障害領域の呼吸器系、循環器系、腎臓系、がんのリハビリテーションに対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。 1. 呼吸器系・循環器系・腎臓系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを理解できるようになる。 2. 各疾患におけるリスク管理について理解できるようになる。 3. 各疾患の症状と障害および理学療法の理論と実際を関連付けて理解できるようになる。									
学修者への期待等	臨床実習で内部障害領域の対象者に対して評価や治療プログラムの立案、理学療法治療の実施ができるように学修してください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	内部障害学総論				予習：内部障害領域のリハビリテーションについて調べておくこと。(概ね30分程度)			大和田 宏美		
2	循環器系の解剖学(構造)				教科書にて循環器の解剖・生理学について復習しておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
3	循環器系の生理学(機能)				教科書にて循環器疾患について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
4	運動強度と運動処方(基礎知識)、リスク管理				教科書の心電図の基本的な構造を調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
5	循環器リハビリテーション対象疾患				教科書にて不整脈について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
6	循環器疾患に対する理学療法各論①：心不全に対する病態と理学療法評価				教科書にて心不全の評価について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
7	循環器疾患に対する理学療法各論②：心不全に対する運動療法				教科書にて心不全の運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
8	循環器疾患に対する理学療法各論③：虚血性心疾患に対する病態と理学療法評価				教科書にて虚血性心疾患の評価について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
9	循環器疾患に対する理学療法各論④：虚血性心疾患に対する運動療法				教科書にて虚血性心疾患の運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
10	循環器疾患に対する理学療法各論⑤：弁疾患および大血管疾患に対する理学療法評価と運動療法				教科書にて大動脈疾患の評価と運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
11	循環器疾患に対する理学療法各論⑥：末梢循環障害に対する理学療法評価と運動療法				教科書にて末梢動脈・静脈疾患の評価と運動療法について調べておくこと。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
12	循環器疾患のまとめ				循環器疾患の理学療法について理解を深めておくこと。(復習：概ね60分程度)			伊藤 大亮		
13	腎臓疾患に対する理学療法① 腎臓の機能と症状				予習：腎臓の生理学について予習すること。(概ね60分程度)			伊藤 大亮		
14	腎臓疾患に対する理学療法② 理学療法の実際				教科書の該当箇所を精読すること。(予習・復習：概ね30分程度)			伊藤 大亮		
15	呼吸器系の解剖学(構造)				呼吸器系の解剖学を復習しておくこと。(概ね60分程度)			荒牧 隼浩		

回	授業計画	準備学修	担当
16	呼吸器系の生理学（機能）	呼吸器系の生理学を復習しておくこと。（概ね60分程度）	荒牧 隼浩
17	呼吸不全と呼吸器疾患	呼吸器疾患について復習をしておくこと。（概ね30分程度）	荒牧 隼浩
18	酸素化能・換気障害について（スパイロメトリー）	教科書にて血液ガスおよびスパイロメトリーについて調べておくこと。（予習：概ね30分程度）	荒牧 隼浩
19	呼吸理学療法のための評価：運動機能評価	教科書にて呼吸器疾患の理学療法評価について調べておくこと。（概ね30分程度）	荒牧 隼浩
20	呼吸理学療法のための評価：ADL・QOL評価	教科書にて呼吸器疾患に対するADL・QOL評価について調べておくこと。（概ね30分程度）	荒牧 隼浩
21	呼吸器疾患と理学療法：COPD	教科書にてCOPDの理学療法について調べておくこと。（概ね60分程度）	荒牧 隼浩
22	呼吸器疾患と理学療法：拘束性障害	教科書にて拘束性障害の理学療法について調べておくこと。（概ね60分程度）	荒牧 隼浩
23	胸部外科術後の呼吸理学療法	教科書にて開胸術後の理学療法について調べておくこと。（概ね30分程度）	荒牧 隼浩
24	急性増悪例の理学療法：ICU、人工呼吸療法	教科書にて人工呼吸器について調べておくこと。（概ね30分程度）	荒牧 隼浩
25	呼吸器疾患のまとめ	呼吸器系の理学療法について理解を深めておくこと。（復習：概ね60分程度）	荒牧 隼浩
26	糖尿病に対する理学療法① 糖代謝の機能	予習：代謝（エネルギー・糖）について予習すること。（概ね60分程度）	坂上 尚穂
27	糖尿病に対する理学療法② 病態と合併症	教科書の該当箇所を精読すること。（予習・復習：概ね30分程度）	坂上 尚穂
28	糖尿病に対する理学療法③ 運動療法の効果		坂上 尚穂
29	糖尿病に対する理学療法④ 足病変に対する理学療法	課題（実施時間概ね60分程度）	坂上 尚穂
30	がんの理学療法について	がんの理学療法について教科書を読み予習すること。（概ね60分程度）	荒牧 隼浩
教科書	循環器・糖尿病等： 「シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト第4版」細田多穂 編、南江堂 呼吸器： 「呼吸リハビリテーションマニュアル—運動療法—第2版」日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本呼吸器学会、日本リハビリテーション医学会、日本理学療法士協会、照林社		
参考文献	「循環器理学療法の理論と技術」増田卓・松永篤彦編、メジカルビュー社 「がんのリハビリテーションガイドライン」日本リハビリテーション医学会、金原出版		
備考	1回目のみAB合同授業、2回目以降AB別2クラス。 前期期間中に2-14回、後期期間中に15-25回までの内容に関して小テストを実施する。 小テスト採点后、希望者には担当教員よりフィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

伊藤・荒牧：内部障害系疾患患者の治療経験が豊富であり、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-10				
		●	●	●						
科目名	内部障害理学療法学演習				単位 認定者	荒牧 隼浩		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	試験(実技)	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		60 時間	授業内課題 (レポート)
				授業形態		演習	授業回数		30 回	
授業の概要	内部障害理学療法学演習では、内部障害に起因する機能・運動障害の病態、その回復過程と予後に関する知識をもとに、内部障害の理学療法を実施するためのリスク管理、画像所見、理学療法評価、呼吸器障害・循環器障害・代謝障害の運動療法、ADL指導、生活環境支援のための理論と技術を習得する。本講義では、主に、呼吸器理学療法と循環器理学療法における理学療法技術を修得する。									
到達目標	内部障害領域の呼吸器系、循環器系、腎臓系、がんのリハビリテーションに対する理解を深め、各領域分野の役割と実際について学ぶことを目標とする。 1.呼吸器系・循環器系・腎臓系の特徴を理解し、内部障害のリハビリテーションを実施できるようになる。 2.他疾患に合併する場合でも、疾患のリスクを把握し運動療法を実施できるようになる。 3.呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメントが実施できるようになる。									
学修者への期待等	臨床実習で内部障害領域の対象者に対して評価や治療プログラムの立案、理学療法治療の実施ができるように学修してください。講義の理解度(到達度)を確認するため、講義中に実技確認テストを実施することがあります。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	心電図①：基本(成立ち、活動電位、他)				教科書にて循環器の解剖生理について復習しておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
2	心電図②：基本(刺激伝導系、誘導、他)				教科書にて刺激伝導系について復習しておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
3	心電図③：基本(電極、記録形式、他)				教科書にて心電図について調べておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
4	心電図④：基本(基本波形、他)				教科書にて心電図について調べておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
5	心電図⑤：主な異常心電図波形(緊急)				教科書にて心電図について調べておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
6	心電図⑥：主な異常心電図波形(経過観察)				教科書にて心電図について調べておくこと。(概ね30分程度)			伊藤 大亮		
7	心肺運動負荷試験①：基本(運動生理他)				教科書にて嫌気性代謝閾値について、事前にしらべておくこと(概ね30分程度)			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
8	心肺運動負荷試験②：基本(呼気ガス分析他)				教科書にて運動負荷試験と運動処方について調べておくこと(概ね30分程度)			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
9	心肺運動負荷試験③：演習				教科書にて運動負荷試験と運動処方について調べておくこと(概ね30分程度)			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
10	簡易運動耐容能検査①：6分間歩行テストの実習				教科書にて6分間歩行試験について調べておくこと(概ね30分程度)			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
11	簡易運動耐容能検査②：シャトルウォーキングテストの実習				教科書にてシャトルウォーキングテストについて調べておくこと(概ね30分程度)			伊藤 大亮 荒牧 隼浩		
12	呼吸器系のフィジカルアセスメント：視診(講義)				呼吸器系のフィジカルアセスメントについて調べておく(概ね30分程度)			大和田 宏美 荒牧 隼浩		
13	呼吸器系のフィジカルアセスメント：視診(実習)				配付資料の「フィジカルアセスメント：視診」の予習復習(概ね30分程度)			大和田 宏美 荒牧 隼浩		
14	呼吸器系のフィジカルアセスメント：触診(講義)				配付資料の「フィジカルアセスメント：触診」の予習復習(概ね30分程度)			大和田 宏美 荒牧 隼浩		
15	呼吸器系のフィジカルアセスメント：触診(実習)				配付資料の「フィジカルアセスメント：触診」の予習復習(概ね30分程度)			大和田 宏美 荒牧 隼浩		

回	授業計画	準備学修	担当
16	呼吸器系のフィジカルアセスメント：打診（講義）	配付資料の「フィジカルアセスメント：打診」の予習復習（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
17	呼吸器系のフィジカルアセスメント：打診（実習）	配付資料の「フィジカルアセスメント：打診」の予習復習（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
18	呼吸器系のフィジカルアセスメント：聴診（講義）	配付資料の「フィジカルアセスメント：聴診」の予習復習（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
19	呼吸器系のフィジカルアセスメント：聴診（実習）	配付資料の「フィジカルアセスメント：聴診」の予習復習（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
20	呼吸器系のフィジカルアセスメント：まとめ	呼吸器系のフィジカルアセスメントについて理解を深めておく（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
21	呼吸介助手技（上部胸郭）	配付資料の「用手的介助手技」の予習復習（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
22	呼吸介助手技（下部胸郭・側臥位介助手技）	配付資料の「用手的介助手技」の予習復習（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
23	排痰法	教科書にて排痰法について読んでおくこと（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
24	画像所見の見方（胸部レントゲン）	胸部レントゲンについて調べておくこと（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
25	吸引と口腔ケア①講義	教科書にて気管吸引について読んでおくこと（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
26	吸引と口腔ケア②実習	教科書にて気管吸引について読んでおくこと（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
27	症例検討：症例を通じたグループワーク：循環器疾患①問題点抽出	教科書にて循環器疾患について復習しておくこと。（概ね30分程度）	大和田 宏美 伊藤 大亮
28	症例検討：症例を通じたグループワーク：循環器疾患②治療プログラム立案	教科書にて循環器疾患について復習しておくこと。（概ね30分程度）	大和田 宏美 伊藤 大亮
29	症例検討：症例を通じたグループワーク：呼吸器疾患①問題点抽出	教科書にて呼吸器疾患について復習しておくこと。（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
30	症例検討：症例を通じたグループワーク：呼吸器疾患②治療プログラム立案	教科書にて呼吸器疾患について復習しておくこと。（概ね30分程度）	大和田 宏美 荒牧 隼浩
教科書	「シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト 改定第4版」細田多穂 編、南江堂		
参考文献	「循環器理学療法の理論と技術」増田卓・松永篤彦編、メジカルビュー社 「フィジカルアセスメント徹底ガイド 循環」三浦 稚郁子 編、中山書店 「フィジカルアセスメント徹底ガイド 呼吸」高橋 仁美 編、中山書店		
備考	A B別2クラス 実技中心のためTシャツ、聴診器、バスタオルの用意をしてください。 レポート課題（提出期限含む）は授業内で担当教員から出題し、採点后希望者にはフィードバックを行う。		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

大和田・伊藤・荒牧：内部障害系疾患患者の治療経験が豊富である。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-13				
		●	●	●						
科目名	神経筋疾患理学療法学				単位認定者	坂上 尚穂		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (小テスト)	10 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	神経筋疾患理学療法学では、多岐にわたる障害像を有する神経筋疾患の理学療法について学ぶ。各神経難病の特性をふまえたうえで、それぞれの病態、主要症状などを理解し、予後と経過、各疾患の進行にあわせた理学療法について学修する。また、脊髄損傷の理学療法についても学修する。									
到達目標	神経筋疾患および脊髄損傷の症状の理解を深め、解剖学・生理学・運動学に基づき、症状から起こるADL障害を説明でき、理学療法プログラムに応用できるようになる。									
学修者への期待等	骨関節疾患患者でもパーキンソン病など神経内科領域の疾患を合併している症例が少なくない。進行性の疾患が多いので、理学療法における特徴を踏まえ、あらゆる方法でADLの改善を図れるようになることを望みます。また、脊髄損傷の分野でも同様の学修が必要になります。質問や発言を積極的に期待しています。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	神経筋疾患総論				神経筋疾患について神経内科学をよく読んで理解しておくこと。(概ね30分程度)				網本 和	
2	パーキンソン病の病態と症状				教科書①P309～313 (予習概ね30分程度)				坂上 尚穂	
3	パーキンソン病の理学療法評価				教科書①P313～319 (予習概ね30分程度)				坂上 尚穂	
4	パーキンソン病の理学療法の実践 ー すくみ足のメカニズムとその対策 (グループワーク)				教科書①P319～324 (予習概ね30分程度)				坂上 尚穂	
5	脊髄小脳変性症の病態				脊髄小脳変性症について予習しておく(概ね30分程度)				大和田 宏美	
6	脊髄小脳変性症に対する理学療法評価・理学療法の実践				脊髄小脳変性症：リハビリプログラム 教科書①P327～341 (概ね60分程度)				大和田 宏美	
7	筋萎縮性側索硬化症の病態と理学療法				筋萎縮性側索硬化症：リハビリプログラム 教科書①P342～356 (概ね60分程度)				大和田 宏美	
8	多発性硬化症の病態と理学療法				多発性硬化症について予習しておく(概ね30分程度)				網本 和	
9	重症筋無力症の病態と理学療法				重症筋無力症について予習しておく(概ね30分程度)				網本 和	
10	ギランバレー症候群の病態と理学療法				ギランバレー症候群について予習しておく(概ね30分程度)				網本 和	
11	多発性筋炎、皮膚筋炎、ニューロパチー、SLE、Charcot-Marie-Tooth病、その他の難病の病態と理学療法				多発性筋炎、皮膚筋炎、ニューロパチーについて予習しておく(概ね30分程度)				網本 和	
12	脊髄損傷の病態とリスク管理				脊髄の解剖生理を確認するとともに、教科書②p1～7, 17～104について確認する(60分)。				小関 友記	
13	脊髄損傷の評価				教科書②p9～16を参考に脊髄損傷の評価について予習する。また前回の内容について小テストを行うため復習すること(60分)				小関 友記	
14	脊髄損傷の理学療法とADL(完全損傷)				教科書②p105～151を参考に脊髄完全損傷のADLについて予習する。また前回の内容について小テストを行うため復習すること(60分)				小関 友記	
15	脊髄損傷の理学療法とADL(不全損傷)				教科書②p151～158を参考に脊髄不全損傷のADLについて予習する。また前回の内容について小テストを行うため復習すること(60分)				小関 友記	
教科書	①「標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学」第3版 森岡 周編、医学書院 ②「脊髄損傷リハビリテーションマニュアル」神奈川リハビリテーション病院・脊髄損傷マニュアル編集委員会編 医学書院									
参考文献	「神経障害理学療法学Ⅱ」中山恭秀、他編、メディカルビュー社									
備考	A B 合同授業(1回～12回)、A B 別授業(13回～15回) 授業後、LMSにて小テスト(確認テスト)を行います。 授業内課題(小テスト)は課題終了後に授業内で解答および解説を行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

網本：理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-14			
		●	●	●					
科目名	発達障害理学療法学				単位認定者	大橋 孝子		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
							授業時間数		30 時間
				授業形態	講義	授業回数			15 回
授業の概要	発達障害理学療法学では、発達障害の特徴を理解し、評価の考え方、評価の進め方、原始反射や正常姿勢反応と正常発達との関係について理解を深める。運動発達における感覚系の発達や摂食嚥下機能の発達の重要性、情緒や母子関係について理解し、ADL指導を含めた治療の考え方を学修する。また、脳性麻痺、知的障害、小児の神経・筋疾患、小児の整形外科疾患、重症心身障害児・者の特徴を理解しその治療方法や指導方法について学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害の特徴を理解できるようになる。 発達障害の評価の方法と問題点のとりえ方を理解できるようになる。 正常運動発達を理解できるようになる。 脳性麻痺、知的障害などの代表的な疾患に対する理学療法について理解できるようになる。 								
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達に関して興味を持ち、子どもの発達には、子ども自身のFUNが欠かせない事を理解して欲しい。 子どもの発達は、様々な要素が絡みあって発達している事を理解してほしい。そのため、多方面から評価する事の必要性について理解してほしい。 								
回	授業計画				準備学修				
1	発達障害総論				人間発達学の教科書や資料を参考にして、乳幼児の発達について復習をしてくる。(概ね30分程度)				
2	発達障害の評価の考え方と評価表 実技				教科書P15～P34を読んで、具体的な評価の概要をまとめてくる。(概ね30分程度)				
3	姿勢反射について① 原始反射と運動発達の関連 実技				教科書P46～P69、教科書P22図2-3、P23表2-2を読んで原始反射の概要を予習してくる。(概ね30分程度)				
4	姿勢反射について② 正常姿勢反応と運動発達の関連 実技				教科書P46～P69、教科書P22図2-3、P23図2-3を読んで正常姿勢反応の概要を予習してくる。(概ね30分程度)				
5	正常運動発達①0か月～6か月 実技				教科書P3～P14、P35～P45を読んで予習してくる。(概ね30分程度)				
6	正常運動発達②7か月～12か月 実技				教科書P3～P14、P35～P45を読んで予習してくる。				
7	脳性麻痺総論 実技				教科書P73～P88を読んで脳性麻痺についてまとめる。(概ね30分程度)				
8	脳性麻痺の類型別特徴と治療 実技				参考文献「脳性麻痺の類型別運動発達」を参考にし、教科書P91～P161を読んで予習してくる。(概ね30分程度)				
9	重症心身障害児(者)の評価と治療 実技				教科書P209～P223を読んで重症心身障害児(者)について予習してくる。(概ね30分程度)				
10	知的障害児(者)の評価と治療				教科書P175～P189を読んで知的障害について予習してくる。(概ね30分程度)				
11	小児の整形外科疾患の評価と治療				教科書P162～P174を読んで小児の整形外科疾患について予習してくる。(概ね30分程度)				
12	筋ジストロフィー症の評価と治療				教科書P190～P208を読んで筋ジストロフィー症について予習してくる。(概ね30分程度)				
13	車椅子と座位保持椅子、その他の治療用具についての考え方 実技				運動学の教科書等を参考にして座位姿勢・立位について復習をしてくる。(概ね30分程度)				
14	日常生活活動指導の考え方とその指導方法 実技				参考文献「脳性まひ児の家庭療育」を参考にして、これまでの授業を振り返り、日常生活活動の指導に大切な視点をまとめてくる。(概ね30分程度)				
15	摂食機能の発達とその障害 実技				参考文献の「食べる機能の障害その考え方とリハビリテーション」を参考にして摂食機能の発達について調べてくる。(概ね30分程度)				
教科書	「シンプル理学療法学シリーズ小児理学療法学テキスト」最新版 細田多穂監修、南江堂								
参考文献	「脳性まひ児の家庭療育」原著第4版 N.R.Finnie編著、医歯薬出版株式会社 「正常発達 脳性まひの治療アイデア」第2版 紀伊克昌監訳、三輪書店 「脳性麻痺の類型別運動発達」B.Bobath他著、医歯薬出版株式会社 「小児から高齢者までの姿勢保持」第2版 日本リハビリテーション工学協会編集、医学書院 「食べる機能の障害その考え方とリハビリテーション」金子芳洋編、医歯薬出版								
備考	A B別2クラス								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

発達障害を有する子どもから成人までの理学療法について、一般病院、母子通園施設、通園施設、成人の通所施設等において経験がある。International Certification of Bobath concept Therapist の資格がある。人間発達を基礎にして、発達障害の特徴を捉えた評価から治療までの考え方や実技について教授する。年齢における問題点の捉え方の違いや疾患ごとの理学療法の違いを教授する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング						
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-11						
		●		●								
科目名	義肢装具学				単位認定者	鈴木 裕治		試験(筆記)	90 %			
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	10 %		
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間			
				授業回数		15 回						
授業の概要	義肢装具学では、身体各部位ごとの代表的義肢・装具の名称及び機能（目的）を理解し、各疾患と機能・構造障害との関連性を理解することにより、疾患や障害に適した義肢・装具を選択し、また義肢・装具のチェックアウトが行えることを目的とする。また、義肢・装具の変遷、近年の適応、義肢・装具の構造や機能、評価法を学び、義肢を利用する切断患者のリハビリテーションや装具を使ったリハビリテーションについても学修する。											
到達目標	①装具の種類、パーツの名称を言うことができる。 ②装具の機能（目的）を理解し、各疾患と機能構造障害との関連性が説明できるようになる。 ③義足の種類、ソケット・足部・各種パーツの名称が言えるようになる。 ④義足の機能（目的）を理解し、異常歩行の種類が説明できるようになる。											
学修者への期待等	解剖学、運動学、疾患の知識について予習・復習を十分に行うこと。											
回	授業計画				準備学修			担当				
1	車椅子と歩行補助用具				教科書の該当箇所（義肢装具の概念と分類、義肢学総論）を予習復習（概ね30分程度）			鈴木 裕治 原 和彦				
2	装具総論							鈴木 裕治 原 和彦				
3	装具の種類と名称（アクティブラーニング）							鈴木 裕治 原 和彦				
4	下肢装具① 長下肢装具のパーツとチェックアウト							鈴木 裕治 原 和彦				
5	下肢装具② 短下肢装具のパーツとチェックアウト							鈴木 裕治 原 和彦				
6	靴型装具							鈴木 裕治 原 和彦				
7	上肢装具							鈴木 裕治 原 和彦				
8	体幹装具							教科書の該当箇所を予習（15分）LMSに事前提示した資料を読み、わからない言葉調べておく（20分）			鈴木 裕治 原 和彦	
9	切断の病態と後療法（PBL）										鈴木 裕治 原 和彦	
10	義足総論										鈴木 裕治 原 和彦	
11	大腿義足の種類とチェックアウト										鈴木 裕治 原 和彦	
12	下腿義足の種類とチェックアウト										鈴木 裕治 原 和彦	
13	足部の種類とチェックアウト										鈴木 裕治 原 和彦	
14	義足のパーツと機能										鈴木 裕治 原 和彦	
15	義足の異常歩行										今までの授業内容の復習を行っておくこと（60分）	
教科書	「イラストでわかる装具療法」上杉 雅之 監、長倉・岩瀬 編、医歯薬出版株式会社、2021 「イラストでわかる義肢療法」上杉 雅之 監、長倉・岩瀬 編、医歯薬出版株式会社、2021											
参考文献	「Q&Aフローチャートによる 下肢切断の理学療法 第4版」細田 多徳 監修、原 和彦 編集、医歯薬出版、2018 「標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学」佐伯 覚 編集、医学書院、2018											
備考	A B別2クラス											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-12				
		●	●	●						
科目名	義肢装具学演習				単位認定者	鈴木 裕治		試験 (口頭試問)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	50 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	義肢装具学演習では、義肢装具の適合判定及び装具療法、切断端管理法について実践的な知識を習得する。また、切断患者の断端管理や評価方法および理学療法の実践について理解する。									
到達目標	①装具の機能（目的）を理解し、チェックアウトができるようになる。 ②各疾患と機能構造障害との関連性をふまえて装具の選択と調整による変化が説明できる。 ③義足の機能（目的）を理解し、チェックアウトができるようになる。 ④義足・身体の問題と異常歩行との関連性が説明できる。 ⑤義足・装具学における国家試験問題を解くことができる。									
学修者への期待等	解剖学、運動学、疾患の知識について予習・復習を十分に行うこと。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	車椅子と歩行補助用具の演習				教科書の該当箇所（義肢装具の概念と分類、義肢学総論）を予習復習（概ね30分程度）			鈴木 裕治 原 和彦		
2	義足・装具の総論				教科書の該当箇所を予習（15分）LMSに事前提示した資料を読み、わからない部分を調べておく（20分）			鈴木 裕治 原 和彦		
3	下肢装具の体験				教科書の該当箇所を予習（15分）LMSに事前提示した資料を読み、わからない部分を調べておく（20分）			鈴木 裕治 原 和彦		
4	下肢装具の演習① SHBと歩行分析				歩行分析をレポートとしてまとめる（40分）			鈴木 裕治 原 和彦		
5	下肢装具の演習② 下肢装具のチェックアウト				装具のチェックアウトについてレポートとしてまとめる（40分）			鈴木 裕治 原 和彦		
6	下肢装具の演習③ 下肢装具の調整				下肢装具の調整についてレポートとしてまとめる（40分）			鈴木 裕治 原 和彦		
7	上肢装具の体験とチェックアウト				上肢装具のチェックアウトについてレポートとしてまとめる（40分）			鈴木 裕治 原 和彦		
8	体幹装具の体験とチェックアウト				体幹装具のチェックアウトについてレポートとしてまとめる（40分）			鈴木 裕治 原 和彦		
9	断端ケア演習				断端ケアの実技の練習を行う（40分）			鈴木 裕治 原 和彦		
10	義足の体験				教科書の該当箇所を予習（15分）LMSに事前提示した資料を読み、わからない部分を調べておく（20分）			鈴木 裕治 原 和彦		
11	義足の演習① 義足の歩行				義足を装着した歩行についてレポートにまとめる（40分）			鈴木 裕治 原 和彦		
12	義足の演習② 義足のチェックアウト				義足のチェックアウトについてレポートとしてまとめる（40分）			鈴木 裕治 原 和彦		
13	義足の演習③ 義足の調整				義足の調整についてレポートとしてまとめる（40分）			鈴木 裕治 原 和彦		
14	義足の演習④ パーツの選択と調整				教科書の該当箇所を予習（15分）LMSに事前提示した症例課題を読み、わからない部分を調べておく（20分）			鈴木 裕治 原 和彦		
15	口頭試問				全体を通し復習しておくこと（60分）			鈴木 裕治 原 和彦		
教科書	「イラストでわかる装具療法」上杉 雅之 監、長倉・岩瀬 編、医歯薬出版株式会社、2021 「イラストでわかる義肢療法」上杉 雅之 監、長倉・岩瀬 編、医歯薬出版株式会社、2021									
参考文献	「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 第2版—基本編・実践編—」有馬 慶美、松本 直人 編、文光堂、2019 「理学療法ALT 骨関節障害理学療法学」対馬 栄輝、有馬 慶美 編、文光堂、2020									
備考	A B別2クラス 授業内課題：2～3症例の症例レポートを作成し、期限までに提出すること。症例はその都度、提示する。フィードバックは授業内にてクラス全体に行い、必要に応じ個別にて対応する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-FLP-15				
		●	●	●						
科目名	理学療法学特論				単位 認定者	坂上 尚穂		試験（筆記）	40 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題	60 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	理学療法学特論では、卒後の理学療法活動の基礎となる専門的な治療・管理技術の概念や方法および実践について学修する。また、臨床場面で必要とされる新たな知見を提示し、理学療法の可能性について探求する。									
到達目標	それぞれの治療技術に関する理論や実践の概要を修得し、その目的や適応を説明することができる。それぞれの治療技術の初歩的な段階について治療に導入し、実践できる。									
学修者への期待等	リハビリテーションには先人の知恵・経験により発展してきた多くの技術体系が存在します。本講義においては、その中でも「認知神経リハビリテーション」「バランス障害の評価」「義肢装具・杖・移乗の臨床」「スポーツ理学療法」などについて学び、臨床場面における評価や治療への応用や、生涯学習力を養うことを目的とします。未知の領域に対する好奇心と克己心を持って、学修に臨んでください。また、実技を含む授業のため、動きやすい服装で参加してください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	固有受容性神経筋促通法（PNF）の背景				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記		
2	固有受容性神経筋促通法（PNF） 上肢パターン（実技）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記		
3	固有受容性神経筋促通法（PNF） 下肢パターン（実技）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記		
4	認知神経リハビリテーションについて（総論）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記		
5	認知神経リハビリテーションについて（治療応用）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			小関 友記		
6	バランス障害への評価と治療アプローチ（講義）				バランス障害の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			網本 和		
7	バランス障害への評価と治療アプローチ（実践）座位を中心に				バランス障害の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			網本 和		
8	バランス障害への評価と治療アプローチ（実践）立位・歩行を中心に				義肢装具の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			網本 和		
9	義肢装具の臨床（講義）				義肢装具の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			原 和彦		
10	義肢装具の臨床と体験				杖・移乗動作の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			原 和彦		
11	杖・移乗の臨床と体験				杖・移乗動作の基本的知識を復習しておく（概ね1時間）			原 和彦		
12	スポーツ理学療法（総論）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			佐々木 広人		
13	スポーツ理学療法（スポーツ外傷・障害の発生、再発予防）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			佐々木 広人		
14	頸肩腕症候群・腰痛に対する生活指導（講義）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			坂上 尚穂		
15	頸肩腕症候群・腰痛に対する生活指導（実践）				LMS資料を確認し、理解を深めておく（概ね1時間）			坂上 尚穂		
教科書	LMSオリジナル資料									
参考文献										
備考	A B別2クラス 授業内課題は提出後、フィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

網本：理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	4 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	180 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	臨床実習Ⅱ（評価実習）では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、理学療法検査・測定を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案および治療目標の設定ができるようになることを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」および「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における基本的な理学療法評価技術の習得を図る。									
到達目標	1) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚をもった行動がとれる。 3) 理学療法の利用者に対して、基本的な理学療法評価（検査・測定）を体験し実践できる。 4) その検査・測定結果を解釈することができる。 5) 検査・測定結果をもとに、問題点の抽出、治療プログラムの立案および目標の設定ができるようになる。									
学修者への期待等	臨床実習では、これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組んでください。 ・実習施設におけるルールに従い、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること									
授業計画					準備学修					
1. 臨床実習期間 学外実習：令和6年1月29日（月）～ 2月16日（金） 学内実習：令和6年1月下旬と2月下旬 2. 臨床実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習施設で実施の診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 臨床実習記録を毎日、臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 5) 学内での実習セミナーに参加し発表の準備や実習報告書の作成などを学内教員より指導を受ける。 6) 以下の試験を実施する。 ①実習前OSCE ②実習前の臨床実習のための学力テスト ③実習後OSCE ④実習後の臨床実習のための学力テスト 3. 臨床実習Ⅱの総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目をルーブリック評価表に基づき、判断する。 なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 実習課題： デイリーノート、ケースノート、症例報告会、 実習報告書、実習後OSCE、臨床実習のための学力テスト 実習状況： 臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。					臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身につけてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身につけてください。担当する症例に関する医学的知識や理学療法についてしっかりと学修したうえで、臨床実習に臨んでください。					
教科書	「PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」 相澤純也編集 羊土社 * 「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版」 有馬慶美編集 文光堂 * 「症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト」 豊田輝 編 羊土社 「臨床実習の手引き」（配付資料） *1年次購入済み									
参考文献	症例に関連する領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、クリニカル・リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）									
備考	担当者 理学療法学専攻教員：網本和、原和彦、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、 荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CBP-01				
		●	●	●	●					
科目名	地域理学療法学				単位認定者	大橋 孝子		試験(筆記)	90 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (レポート)	10 %
					授業形態		講義		授業時間数	30 時間
							授業回数			15 回
授業の概要	地域理学療法は、地域リハビリテーション活動体系の中の、地域を基盤として行われる理学療法士による専門的援助である。地域理学療法学では、地域連携やそのシステムを踏まえ、地域で生活する高齢者や障害者の生活機能の維持・向上に向けて、理学療法士の立場から支援していくための知識や方法について学修する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ICFの個人因子・環境因子・参加が個人の地域生活に影響していることを理解する。 介護保険法や障害者総合支援法における理学療法士の役割を理解する。 他職種との連携・協働の重要性を理解する。 地域理学療法の概要を理解する。 									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> 支援の対象者を生活者として捉え、障害の有無にかかわらず地域で豊かに生活する事の意義を考えてください。 地域で暮らすすべての人が社会資源の一つです。将来、一人の住民として理学療法士として、地域にどのように貢献できるか考えてください。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	地域理学療法の概念 地域理学療法における地域とは グループワーク【授業内課題1】				教科書のP2～P13を読んで、地域理学療法における地域について自分の考えをまとめてくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
2	地域リハビリテーションと地域理学療法 生活者としての地域理学療法の対象者				教科書P2～P13、P20～P23を読んでまとめてくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
3	地域理学療法の関連法規Ⅰ(介護保険法)				教科書P20～P27、P48～P62を読んでまとめてくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
4	地域理学療法の関連法規Ⅱ(障害者総合支援法)				教科書P28～P35を読んで予習してくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
5	障害者総合支援法における理学療法士の役割				第4回の授業を復習し、理学療法士の役割についてまとめてくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
6	地域における社会資源 他職種連携・協働				教科書P36を参考にして、具体的な社会資源を調べ、他職種連携についてまとめてくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
7	地域包括ケアシステムについて1 症例検討 グ グループワーク				地域ケアシステムについて調べてくる。 ICFについて復習してくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
8	地域包括ケアシステムについて2 症例検討 グ グループワーク【授業内課題2】				地域ケアシステムについて調べてくる。 ICFについて復習してくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
9	地域理学療法の実践：地域における障害児者支援				第4回5回の授業の復習をしてくる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
10	地域において求められる理学療法像 グループ ワーク【授業内課題3】				地域で求められている理学療法士像について自分の考えをまとめる。(概ね30分程度)			大橋 孝子		
11	地域理学療法の実践：訪問系理学療法① 訪問系理学療法の役割や制度について				訪問系の理学療法士が求められる役割について調べる(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
12	地域理学療法の実践：訪問系理学療法② 訪問系理学療法での評価・治療について				訪問系理学療法における評価について調べる(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
13	予防分野における地域理学療法： サルコペニア・フレイル				サイコペニア・フレイルについて調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
14	予防分野における地域理学療法： 転倒予防				高齢者の転倒について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
15	予防分野における地域理学療法： 認知症予防				認知症について調べてまとめる。(概ね30分程度)			荒牧 隼浩		
教科書	「ビジュアルレクチャー地域理学療法学第3版」浅川育世編、医歯薬出版株式会社									
参考文献	「標準理学療法学専門分野地域理学療法学第4版」牧田光代他編集、医学書院 「PTOTビジュアルテキスト地域リハビリテーション学第2版」重森健太編集、羊土社 「ライフステージから学ぶ地域包括リハビリテーション実践マニュアル」河野真編、羊土社									
備考	A B 合同授業 授業内課題(レポート)は、採点后返却します									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

(大橋) 実務経験の概要：地域理学療法について、調査・研究および実践の経験が豊富である。
実務経験と授業科目との関連性：地域理学療法の総論と地域理学療法実践について、教授する。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻
3年生

【2021(令和3)年度入学生】

- 年間予定表
- シラバス

2023(令和5)年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻3年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月	26	27	28	29	30	31	1
	2	3	4	5	6 入学式	7	8
	9	10 健康診断	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29 昭和の日
	30	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6
5月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22 臨床実習Ⅲ	23 臨床実習Ⅲ	24 臨床実習Ⅲ	25 臨床実習Ⅲ	26 臨床実習Ⅲ	27
	28	29 臨床実習Ⅲ	30 臨床実習Ⅲ	31 臨床実習Ⅲ	1 臨床実習Ⅲ	2 臨床実習Ⅲ	3
6月	4	5 臨床実習Ⅲ	6 臨床実習Ⅲ	7 臨床実習Ⅲ	8 臨床実習Ⅲ	9 臨床実習Ⅲ	10
	11	12 臨床実習Ⅲ	13 臨床実習Ⅲ	14 臨床実習Ⅲ	15 臨床実習Ⅲ	16 臨床実習Ⅲ	17
	18	19 臨床実習Ⅲ	20 臨床実習Ⅲ	21 臨床実習Ⅲ	22 臨床実習Ⅲ	23 臨床実習Ⅲ	24
	25	26 臨床実習Ⅲ	27 臨床実習Ⅲ	28 臨床実習Ⅲ	29 臨床実習Ⅲ	30 臨床実習Ⅲ	1
7月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17 海の日	18 地域理学療法実習	19 地域理学療法実習	20 地域理学療法実習	21 地域理学療法実習	22
	23	24 地域理学療法実習	25 地域理学療法実習	26 地域理学療法実習	27 地域理学療法実習	28 地域理学療法実習	29
	30	31	1	2	3	4	5
8月	6	7	8	9	10	11 山の日	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21 臨床実習Ⅳ	22 臨床実習Ⅳ	23 臨床実習Ⅳ	24 臨床実習Ⅳ	25 臨床実習Ⅳ	26
	27	28 臨床実習Ⅳ	29 臨床実習Ⅳ	30 臨床実習Ⅳ	31 臨床実習Ⅳ	1 臨床実習Ⅳ	2
9月	3	4 臨床実習Ⅳ	5 臨床実習Ⅳ	6 臨床実習Ⅳ	7 臨床実習Ⅳ	8 臨床実習Ⅳ	9
	10	11 臨床実習Ⅳ	12 臨床実習Ⅳ	13 臨床実習Ⅳ	14 臨床実習Ⅳ	15 臨床実習Ⅳ	16
	17	18 敬老の日	19 臨床実習Ⅳ	20 臨床実習Ⅳ	21 臨床実習Ⅳ	22 臨床実習Ⅳ	23 秋分の日
	24	25 臨床実習Ⅳ	26 臨床実習Ⅳ	27 臨床実習Ⅳ	28 臨床実習Ⅳ	29 臨床実習Ⅳ	30

・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
 ・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

2023(令和5)年度 リハビリテーション学科 理学療法学専攻3年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9 スポーツの日	10	11	12	13	14
	15	16 地域理学療法実習	17 地域理学療法実習	18 地域理学療法実習	19 地域理学療法実習	20 地域理学療法実習	21
	22	23 地域理学療法実習	24 地域理学療法実習	25 地域理学療法実習	26 地域理学療法実習	27 地域理学療法実習	28
	29	30	31	1	2	3 文化の日	4
11月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23 勤労感謝の日	24	25
	26	27	28	29	30	1	2
12月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1 元旦	2	3	4	5	6
1月	7	8 成人の日	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3
2月	4	5	6	7	8	9	10
	11 建国記念の日	12 振替休日	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23 天皇誕生日	24
	25	26	27	28	29	1	2
3月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19 卒業式	20 春分の日	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6

- ・休講の振替授業日、随時試験・追試験の日程については、LMS又は掲示にて確認してください。
- ・再試験の日程については、状況に応じて変更になる場合があります。LMS又は掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-BPT-03				
		●		●						
科目名	理学療法研究法				単位認定者	網本 和		授業内課題(発表会)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	試験(筆記)
				授業回数		15 回				
授業の概要	理学療法が科学として体系化され、より成熟したものになるためには、科学的根拠に基づいた理学療法の展開・実践が必要である。 理学療法研究法では、理学療法における科学の重要性について理解し、研究を実践するうえで必要な基本的知識と研究方法について学修する。									
到達目標	1. 理学療法研究の必要性を理解し、研究の意義や目的を説明できる。 2. 研究デザインや、基本的な研究の手順を説明できる。 3. 基本的な統計学を理解し、研究法に合わせた統計手法を選択できる。 4. 文献抄読を通して論理的思考力を身につけることができる。									
学修者への期待等	日進月歩する医療において、対象者に最適な理学療法を提供するためには、自らの知識技術が最新かつ安全なものであるかについて不断の検証が求められます。 そのためには浩瀚な先行研究の理解と、実践する理学療法効果の検証が必要です。 このような課題を解決するため「研究法」の基礎を修得して臨床に役立てていただきたいと考えています。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	理学療法と研究、研究の意義・目的				自分の研究テーマについて考えてくること(概ね30分程度)			網本 和 小松 佳路		
2	根拠に基づく理学療法(EBPT)及び研究テーマの設定 診療ガイドラインの活用、ナラティブに基づく実践				グループごとに文献を選択する(概ね60分程度)			網本 和 小松 佳路		
3	研究デザインの基礎知識				「研究法」に関するテキストまたは文献を事前に学修する(概ね60分程度)			網本 和 小松 佳路		
4	研究論文(文献)検索と論文の読み方							網本 和 小松 佳路		
5	研究計画の立て方と研究倫理							網本 和 小松 佳路		
6	医療統計(妥当性・信頼性、感度・特異度、尤度比)							網本 和 小松 佳路		
7	対象の決め方・データのとり方 統計解析 1) 記述統計学							網本 和 小松 佳路		
8	研究データの解析 統計解析 2) 推計統計学①							網本 和 小松 佳路		
9	研究データの解析 統計解析 2) 推計統計学②							網本 和 小松 佳路		
10	基礎研究の実践例提示と討論				グループごとに文献を解釈すること(概ね60分程度)			P T 専攻教員		
11	臨床研究の実践例提示と討論							P T 専攻教員		
12	基礎研究の実践例提示と討論							P T 専攻教員		
13	臨床研究の実践例提示と討論				スライド発表の準備をしておくこと(概ね60分程度)			P T 専攻教員		
14	文献発表会と討論							P T 専攻教員		
15	文献発表会と討論							P T 専攻教員		
教科書	指定しない									
参考文献	「理学療法NAVI 臨床の疑問を研究に変える 臨床研究First Stage」網本和・他著、医学書院 「標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法」内山靖編、医学書院									
備考	A B 合同授業 10回～15回の担当者 理学療法学専攻教員：網本和、原和彦、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路 各グループ担当教員より、グループワークのまとめについてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-2MNP-01				
			●	●	●					
科目名	理学療法管理学				単位認定者	金谷 さとみ		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	理学療法管理学では、理学療法士として仕事をするにあたり、対象者のリスクを把握することや危機管理能力が不可欠である。医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、組織運営や理学療法業務のマネジメントに必要な能力が培われるとともに、職業倫理を高めることができるよう学修する。また、臨床だけでなく、理学療法教育・研究・地域の領域における管理・マネジメント全般についても学修する。									
到達目標	1) 臨床倫理原則(生命医療倫理等)について学び、医療に従事する者の基本姿勢を理解する。 2) 医療機関等における組織体制、業務管理体制、チーム医療などについて説明できる。 3) 医療の質向上に貢献できるよう、リスクマネジメント、クオリティアシュアランスの知識を身につけ、さらには自身のキャリア形成等の方法論について習得する。									
学修者への期待等	理学療法士が社会の中でどのような場所において何を期待されているかが理解でき、大学での日々の学びがいかに重要かを実感できる。事前にテキストの目次だけでも目を通すこと。									
回					準備学修					
1	臨床倫理原則(理学療法士の倫理やモラルとは)				何らかの資料で医療事故などについて調べる。予習として読む:テキストP46~P50(概ね15分)					
2	ホスピタルガバナンスとは				予習:テキスト第1章 リハビリテーション科における管理とは(概ね15分)					
3	医療機関、福祉施設における組織体制				予習として読む:テキスト第2章 組織化 P8~21(概ね15分)					
4	業務管理(急性期、回復期、在宅など)				予習として読む:テキスト第3章 業務管理前半P22~P37(概ね15分)					
5	部署内、院内活動への貢献				予習として読む:テキスト第3章 業務管理後半P38~P45(概ね15分)					
6	人事労務管理(人事計画と職員管理)				予習として読む:テキスト第4章 人事労務管理前半P50~P66(概ね30分)					
7	人事労務管理(人事考課と面談、個人目標管理)				予習として読む:テキスト第4章 人事労務管理後半P67~P71(概ね15分)					
8	人事労務管理(ストレスチェック、健康管理)				何らかの資料でコミュニケーション手法、アンガーマネジメントについて調べる(概ね30分)					
9	教育システム(様々な人材育成手法)				予習:テキスト第5章 教育システム前半P72~P101(概ね30分)					
10	教育システム(医療専門職の継続教育について)				予習:テキスト第5章 教育システム後半P102~P127(概ね30分)					
11	社会保障制度の中の理学療法				何らかの資料で日本の社会保障制度の概要について予習する。(概ね30分)					
12	リスクマネジメントとクオリティアシュアランス				予習として読む:テキスト第7章 リスクマネジメント P142~163(概ね30分)					
13	チームにおけるコミュニケーション:グループワーク				事前に提示されたグループワーク課題を調べておく。(概ね30分)					
14	チーム強化のために:グループワーク				事前に提示されたグループワーク課題を調べておく。(概ね30分)					
15	経営マネジメントと管理者の資質				何らかの資料で管理者の資質について調べる。(概ね15分)					
教科書	「リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック」金谷さとみ、高橋仁美編集 メディカルビュー社									
参考文献	「リハビリテーション管理学」齊藤秀之、能登真一編集、医学書院									
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド又はオンライン(Zoom))で実施する。授業内課題は13回目と14回目のグループワークの成果物とする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-03				
	●	●	●	●	●					
科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習）				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T		必修	3年	開講時期	通年	単位数		7 単位	
					授業形態	実習	授業時間数	315 時間		
							授業回数	- 回		
授業の概要	臨床実習Ⅲ（総合実習）では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、対象者の他部門からの情報収集、検査・測定、検査・測定結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定、治療プログラム立案、理学療法の実施、再評価までの一連の理学療法を実践することを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」および「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における実践を通して、一連の評価および治療も含めた基本的な理学療法技術の習得を図る。									
到達目標	1) 臨床実習指導者の助言・指導のもと、一連の基本的な理学療法が実施できる。 2) 利用者を尊重し、共感的態度をもって、良い人間関係を形成できる。 3) 文献や指導によって知識・技術を増やすことができる。									
学修者への期待等	これまで学修した理学療法の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組んでください。 ・実習施設では、実習生として責任ある行動をとること ・実習記録の作成・提出は期限を厳守すること ・実習施設における規則・心得を守ること									
授業計画					準備学修					
1. 臨床実習期間 学外実習：令和5年5月22日(月)～ 6月30日(金) 学内実習：令和5年5月中旬と6月下旬～7月上旬 2. 臨床実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習は臨床実習施設での診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 治療プログラムを実施し、再評価を実践する。 5) 臨床実習記録を毎日、臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 6) 学内での実習セミナーに参加し発表の準備や実習報告書の作成などを学内教員より指導を受ける。 7) 以下の試験を実施する。 ①実習前OSCE ②実習前の臨床実習のための学カテスト ③実習後OSCE ④実習後の臨床実習のための学カテスト 3. 臨床実習Ⅲの総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目をルーブリック評価表に基づき、判断する。なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 実習課題： デイリーノート、ケース(症例)ノート、症例報告会、レジュメおよびレポートの作成、実習後OSCE、臨床実習のための学カテスト 実習状況： 臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。					臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身に付けてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。担当する症例に関する医学的知識や理学療法についてしっかりと学修したうえで、臨床実習に臨んでください。					
教科書	「PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」 相澤純也編集 羊土社 * 「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版」 有馬慶美編集 文光堂 * 「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 実践編 第2版」 有馬慶美編集 文光堂 * 「症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト」 豊田輝 編 羊土社 「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」 才藤栄一監修 金原出版 「臨床実習の手引き」 (配付資料) *1・2年次購入済み									
参考文献	症例に関連する領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、臨床リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）									
備考	担当者 理学療法専攻教員：網本和、原和彦、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-04			
	●	●	●	●	●				
科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習）				単位認定者	大和田 宏美		実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	7 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	315 時間		
						授業回数	- 回		
授業の概要	臨床実習Ⅳ（総合実習）では、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の対象者に対して、他部門からの情報収集、検査・測定、検査・測定結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定、治療プログラム立案、理学療法の実施、再評価、治療プログラムの修正までの一連の理学療法を実践することを目的とする。また、臨床実習の質的向上を図るために、「臨床実習前の評価」および「臨床実習後の評価」も実施し、臨床現場における実践を通して、評価および治療も含めた基本的な理学療法技術の習得を図る。臨床実習を通して、臨床現場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持って行動することができるようになる。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 臨床実習指導者の指導のもと、一連の基本的理学療法が実施できる。 2) 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚を持った行動ができる。 3) 自己管理能力、生涯学習の態度を身につけることができる。 								
学修者への期待等	臨床実習では、これまで学修した理学療法学の知識および技術を利用者をとおして実施できるように、主体的に取り組んでください。 ・実習施設におけるルールに従い、実習生として責任ある行動をとること ・臨床実習指導者からの指導を積極的に受けること								
授業計画					準備学修				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習期間 学外実習：令和5年8月21日（月）～9月29日（金） 学内実習：令和5年8月中旬と10月上旬 2. 臨床実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習は臨床実習施設で実施し、診療参加型臨床実習を基本とし、臨床実習指導者の指導のもと、理学療法の利用者に対して理学療法評価を実施する。 3) 担当する症例に対して、検査・測定結果を解釈し、利用者の問題点の抽出、治療プログラムの立案、治療目標を設定する。 4) 治療プログラムを実施し、再評価を実践し治療プログラム修正を行う。 5) 院内の多職種連携を学修し、理学療法士の役割を理解する。 6) 臨床実習記録を毎日、臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 7) 学内での実習セミナーに参加し発表の準備や実習報告書の作成などを学内教員より指導を受ける。 8) 以下の試験を実施する。 ①実習前OSCE ②実習前の臨床実習のための学力テスト ③実習後OSCE ④実習後の臨床実習のための学力テスト 3. 臨床実習Ⅳの総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目をルーブリック評価表に基づき、判断する。なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 実習課題： デイリーノート、ケース(症例)ノート、症例報告会、レジュメおよびレポートの作成、実習後OSCE、臨床実習のための学力テスト 実習状況： 臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。 					臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身に付けてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。担当する症例に関する医学的知識や理学療法についてしっかりと学修したうえで、臨床実習に臨んでください。				
教科書	「PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」 相澤純也編集 羊土社 * 「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版」 有馬慶美編集 文光堂 * 「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 実践編 第2版」 有馬慶美編集 文光堂 * 「症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト」 豊田輝 編 羊土社 「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」 才藤栄一監修 金原出版 「臨床実習の手引き」 (配付資料) *1・2年次購入済み								
参考文献	症例に関連する領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、クリニカル・リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）								
備考	担当者 理学療法学専攻教員：網本和、原和彦、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CLP-05				
	●	●	●	●	●					
科目名	地域理学療法実習				単位認定者	大和田 宏美		評価の方法	実習内容	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	地域理学療法実習では、医療保険制度や介護保険制度を理解し、理学療法士の役割と関連専門職の役割について理解する。また、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションなどを利用している対象者の生活環境やその支援方法などについて学修する。									
到達目標	1) 臨床実習指導者の指導のもと、地域理学療法について理解する。 2) 地域での理学療法士の役割と責任および関連専門職の役割について理解し、その一員としての自覚を持った行動ができる。 3) 自己管理能力、生涯学習の態度を身につけることができる。									
学修者への期待等	急性期・回復期と一連のリハビリテーションを実施していったその先に、在宅医療や地域でのリハビリテーションがあります。理学療法士が地域に果たす役割や利用者の生活に密着した場面で利用者の状態に合わせた指導や適切な支援ができるようしっかりと学んでください。									
授業計画					準備学修					
1. 実習期間 学外実習期間：① 令和5年 7月18日（火）～ 7月28日（金） ② 令和5年10月16日（月）～10月27日（金） ①・②のどちらか期間において4日間実施する。 学内実習（実習オリエンテーション、発表会等）は別日程で実施する。 2. 実習計画 1) 学内での臨床実習オリエンテーションを実施する。 2) 臨床実習は臨床実習施設で実施し、臨床実習指導者の指導のもと、地域リハビリテーションの流れを学び、利用者のおかれている状況を理解し、適切な理学療法を提供できるようになる。 3) 毎日のデイリーノート（臨床実習記録）とケースノート（利用者に関する記録）を臨床実習指導者に提出して指導を受ける。 4) 学内での実習セミナーに参加し、実習で学んできたことの成果発表やレポート課題などを学内教員より指導を受けること。 3. 地域理学療法実習の総合判定（成績評価） 以下の成績評価項目について、臨床実習指導者による実習生指導報告書の内容も踏まえて、総合的に判断する。なお、臨床実習において欠席が所定日数の5分の1を超えた場合は成績評価の対象から除外する。 ・臨床実習評価 実習態度、デイリーノート、ケースノート、成果発表					臨床実習前に、感染対策について正しい知識と予防方法を身に付けてください。また、医療人として、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーションスキルを身に付けてください。地域理学療法に関する文献等しっかりと読んでおいてください。					
教科書	「PT症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター」 相澤純也編集 羊土社 * 「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 基礎編 第2版」 有馬慶美編集 文光堂 * 「ケースで学ぶ理学療法臨床思考 実践編 第2版」 有馬慶美編集 文光堂 * 「症例動画でわかる理学療法臨床推論」 羊土社 「臨床実習の手引き」（配付資料） *1・2年次購入済み									
参考文献	地域リハビリテーション領域の雑誌（理学療法ジャーナル、理学療法、臨床リハビリテーション、総合リハビリテーションなど）									
備考	担当者 理学療法専攻教員：網本和、原和彦、大和田宏美、大橋孝子、坂上尚穂、小関友記、伊藤大亮、荒牧隼浩、森永雄、鈴木裕治、佐々木広人、小松佳路									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CBP-02				
		●	●	●	●					
科目名	地域理学療法学演習				単位認定者	森永 雄		授業内課題 (小テスト)	30 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題 (発表・レポート)	50 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	地域理学療法学で学修した知識を基に、在宅高齢者や障害者に対する具体的な理学療法士の支援について学修する。本講義では、事例を通して、相談支援、訪問理学療法・通所サービス、住宅改修、車椅子や日常生活用具等の福祉用具などについての知識を深め、地域における理学療法士としての実践力を養う。また、介護予防、認知症予防や転倒予防などの運動および各評価についての理論を学び実践する。									
到達目標	<p>【実践力】 シミュレーションを通して、地域理学療法の企画力と集団に対する実践力を高める。</p> <p>【人間関係力】 他者の考えや対象者の立場を理解し、課題解決に向けた協調的な支援行動を図れる。チームで生じている対立に気づき、自ら調整するよう働きかけることができる。</p> <p>【生涯学習力】 考えを「引き出す」から「創り出す」学習の一步を踏み出すことができる。自助・互助の果たす役割を自覚し、課題解決に向けて能動的な学習行動を図れる。</p> <p>【地域理解力】 現場体験談を傾聴し、実社会の問題を推し量る能力を高めることができる。</p>									
学修者への期待等	<ul style="list-style-type: none"> ・実技実演では動きやすい格好を心がけ、チーム活動では活発な討論ができるよう整えてください。 ・現場体験談を傾聴する際は、授業計画テーマの事前学修（予習）に努めてください。 ・本選発表では、聴講者の興味関心が高まるような創意工夫を期待します。 									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	地域高齢者の理解と評価・リスクマネジメント (反転授業)				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね60分程度)			森永 雄		
2	地域理学療法学ガイドラインと住環境、まちづくり (反転授業)							森永 雄		
3	学生による介護予防教室の計画 (ディスカッション、グループワーク)							森永 雄		
4	学生による介護予防教室の実践 (ロールプレイ、グループワーク)							森永 雄		
5	現場体験談 1 国際支援 (青年海外協力隊) (ICTを活用した双方向型授業)				LMSに掲載された資料を確認すること (概ね30分程度)			市村 駿介 森永 雄		
6	現場体験談 2 地域・小児・理学療法士 (ICTを活用した双方向型授業)							小島 賢司 森永 雄		
7	現場体験談 3 訪問リハと理学療法士							荒牧 隼浩		
8	現場体験談 4 地域性に基づく理学療法と取り組み (ICTを活用した双方向型授業)							館石 安由 森永 雄		
9	現場体験談 5 地域就労者の労働災害と健康増進							坂上 尚穂		
10	現場体験談 6 地域スポーツ活動の支援							佐々木 広人		
11	現場体験談 7 地域高齢者介護予防・健康増進・災害							大和田 宏美		
12	発表準備【リサーチ (AL)】 (ディスカッション、ディベート、グループワーク)				発表の準備を行うこと (予習復習あわせて240分程度)			森永 雄		
13	発表準備【プレゼンテーション (AL)】 (ディスカッション、グループワーク)							森永 雄		
14	予選発表【校内発表 (AL)】 (学生によるプレゼンテーション)							森永 雄		
15	本選発表【外部聴衆あり】 (学生によるプレゼンテーション、クラス合同)							森永 雄		
教科書	LMSに掲載された資料確認									
参考文献										
備考	<p>【備考】 AB合同授業(1-3、5-12回、15回)、AB別2クラス(4回、13-14回)、体験談における非常勤講師は遠隔講義(Zoom利用)予定</p> <p>【特性】 ICT利活用教育(LMS、Google formなど)、AL(グループワーク、発表、ディスカッション、ディベートなど)</p> <p>【評価】 「筆記試験」は2回目授業以降に随時試験として実施する。「授業内課題(発表・レポート)」は、14-15回授業内容を対象とする。学生がLMSの科目コース内に指定した提出先Boxに提出する。後日、提出先Boxにあるフィードバック機能を用いて、ワンポイントアドバイスの機会を設ける。「受講態度」は、出席数と現場体験談受講後のリフレクション数と質を指標とする。</p>									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

森永：理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-2-CBP-03			
		●	●	●	●				
科目名	保健医療福祉連携論				単位 認定者	大橋 孝子		授業内課題	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
	O T	必修	3年			授業時間数	30 時間		
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	包括的なりハビリテーションを行うためには、多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要である。本講義では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解する。								
到達目標	1. 他の関連専門職の専門性を理解できるようになる。 2. 他の専門職と協働し、同じ目標を共有することで自らが目指している職種の専門性を再確認する。								
学修者への期待等	本講義はグループ学修中心の講義である。グループ学修においては積極的な意見交換を期待しています。また、療法士免許取得後も、実際の現場にて、率先して多職種連携を行えるようになることを期待しています。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	多職種連携とは				配付資料の復習をすること（概ね30分）			佐直 信彦	
2	他職種の専門性を知る [1] 看護師				授業の内容をまとめる。（概ね30分）			他学科教員 大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子 原 和彦 小関 友記	
3	他職種の専門性を知る [2] 言語聴覚士				授業の内容をまとめる。（概ね30分）				
4	他職種の専門性を知る [3] 栄養士				授業の内容をまとめる。（概ね30分）				
5	他職種の専門性を知る [4] 歯科衛生士				授業の内容をまとめる。（概ね30分）				
6	連携する際の工夫を考える [1] グループワーク				発表資料の作成準備をする。（毎回概ね30分）				
7	連携する際の工夫を考える [2] 発表								
8	他職種の専門性を聴く [1] 障害者総合支援法における連携 ゲストスピーカー				授業内容をまとめる（概ね30分程度）			及川 かよ 大橋 孝子	
9	他職種の専門性を聴く [2] ケアマネージメント ゲストスピーカー				授業内容をまとめる（概ね30分程度）			福地 慎治 大橋 孝子	
10	他職種の専門性を聴く [3] 地域包括支援センター ゲストスピーカー				授業内容をまとめる（概ね30分程度）			東海林 大介 大橋 孝子	
11	事例検討 [1] 事例提示 グループワーク				発表資料の作成準備をする。（毎回概ね30分）			大橋 孝子 須藤 あゆみ 戸田 祐子 原 和彦 小関 友記	
12	事例検討 [2] グループワーク								
13	事例検討 [3] 発表準備 グループワーク								
14	事例検討 [4] 発表1 グループ1～グループ5								
15	事例検討 [5] 発表2 グループ6～グループ10								
教科書	配付資料								
参考文献	「信念対立解明アプローチ入門—チーム医療・多職種連携の可能性をひらく」京極真、中央法規								
備考	P T・O T合同授業 課題のフィードバックは授業内に適宜行います。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-3-SPS-01			
	●	●	●	●	●				
科目名	専門支持科目特別演習				単位 認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間		
						授業回数	30 回		
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士・作業療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、基礎医学・臨床医学分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるよう学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖・生理・運動学に関して知識を整理し、理解を深める。 2. 臨床医学分野に関して3年間で学んだ知識と技術を整理し、臨床応用ができるようになる。 3. 臨床医学の知識と技術を修得し、理学療法・作業療法を実践的に展開できるようになる。 4. 専門基礎分野における国家試験の問題を解くことができる。 								
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で使用する資料に従って予習すること。 2. 授業後、当該分野の復習を必ず行い、授業の終わったその日のうちに学修を行うこと。 3. 授業後、当該分野の国家試験問題を解き、学修を進めること。 4. 授業で理解できなかったところは、自分で調べ、解決しなければ質問するなど、絶対そのままにしない。 								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	基礎医学総論:細胞・組織学				事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)			大和田 宏美	
2	解剖学1:骨標本による位置関係							大和田 宏美	
3	解剖学2:筋模型による位置関係							大和田 宏美	
4	運動機能学1:上肢							小松 佳路	
5	運動機能学2:下肢							小松 佳路	
6	運動機能学3:顔面・体幹							小松 佳路	
7	運動機能学4:歩行・姿勢・総まとめ							小松 佳路	
8	解剖生理学1:呼吸器系							荒牧 隼浩	
9	解剖生理学2:循環器系							伊藤 大亮	
10	解剖生理学3:腎臓・泌尿器系							伊藤 大亮	
11	解剖生理学4:消化器系							伊藤 大亮	
12	解剖生理学5:神経系							大和田 宏美	
13	生理学1:筋系							鈴木 裕治	
14	生理学2:神経系							鈴木 裕治	
15	生理学3:内臓系							鈴木 裕治	

回	授業計画	準備学修	担当	
16	人間発達学	事前に、国試の達人 運動解剖生理学編と臨床医学編、ヒント式トレーニングの各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)	大橋 孝子	
17	精神医学1：器質性精神障害		須藤 あゆみ	
18	精神医学2：統合失調症		須藤 あゆみ	
19	精神医学3：気分障害		須藤 あゆみ	
20	病理学1：変性・炎症		鈴木 裕治	
21	病理学2：免疫・感染		鈴木 裕治	
22	整形外科学1：整形外科一般		小松 佳路	
23	整形外科学2：整形外科骨折		小松 佳路	
24	整形外科学3：変形性関節症		小松 佳路	
25	内科学1：呼吸器疾患		荒牧 隼浩	
26	内科学2：循環器系疾患		伊藤 大亮	
27	臨床心理学1：心理療法		小関 友記	
28	臨床心理学2：防衛機制・発達段階		小関 友記	
29	神経内科学1：神経筋疾患：PD、ALS、SCD		大和田 宏美	
30	神経内科学2：神経筋疾患：筋ジス・MG・GBS・MS		大和田 宏美	
教科書	「PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編改訂第2版」ヒントレ研究所 編 南江堂 「PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 臨床医学編改訂第2版」ヒントレ研究所 編 南江堂			
参考文献	「国試の達人PTシリーズ2023年 運藤解剖生理学編 第27版」アイベック 「国試の達人PTシリーズ2023年 臨床医学編 第23版」アイベック 後日指定する			
備考	A B 合同授業			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	RP-3-SPS-02			
	●	●	●	●	●				
科目名	専門展開科目特別演習				単位認定者	大和田 宏美		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間		
						授業回数	30 回		
授業の概要	本講義では、卒業後の活動における理学療法士として必要な総合的能力を統合することを目的とする。とくに、理学療法学の専門分野に関して3年間で学んだ基礎的な知識および技術を整理し、専門職として活躍できるように学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法専門領域の知識と技術を用いて、理学療法を実践的に展開できるようになる。 2. 専門基礎、臨床医学分野に関して知識と技術を整理し、専門分野における臨床応用ができるようになる。 3. 専門分野の知識と技術を修得し、理学療法・作業療法を実践的に展開できるようになる。 4. 専門分野における国家試験の問題を解くことができる。 								
学修者への期待等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で使用する資料に従って予習すること 2. 復習は授業の終わったその日のうちに必ず行うこと 3. 授業で理解できなかったところはそのままにせず、自分でも調べ、疑問は質問すること 								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	障害別理学療法総論				事前に、国試の達人 理学療法編、必修ポイントの障害別PT治療学、基礎PT学各領域の問題を解いておくこと。(概ね60分程度)			大和田 宏美	
2	理学療法評価学1：関節可動域測定の基礎							佐々木 広人	
3	理学療法評価学2：関節可動域測定の実際（実地問題）							佐々木 広人	
4	理学療法評価学3：MMTの基礎							佐々木 広人	
5	理学療法評価学4：MMTの実際（実地問題）							佐々木 広人	
6	理学療法評価学5：疾患別評価法							佐々木 広人	
7	骨関節障害1：上肢の骨関節障害							小松 佳路	
8	骨関節障害2：下肢の骨関節障害							小松 佳路	
9	骨関節障害3：体幹の骨関節障害							小松 佳路	
10	骨関節障害4：RA・骨折							小松 佳路	
11	中枢神経障害1（脳卒中）：脳画像							大和田 宏美	
12	中枢神経障害2（脳卒中）：片麻痺の理学療法							大和田 宏美	
13	中枢神経障害3（脳卒中）：高次脳機能障害							大和田 宏美	
14	中枢神経障害4（脊髄損傷）							大和田 宏美	
15	中枢神経障害5（神経筋疾患）：PA・SCD・ALS							大和田 宏美	

回	授業計画	準備学修	担当	
16	中枢神経障害6（神経筋疾患）：MS・GBS・MG	事前に、国試の達人 理学療法編、必修ポイントの障害別PT治療学、基礎PT学各領域の問題を解いておくこと。（概ね60分程度）	大和田 宏美	
17	内部障害学1：呼吸器障害の理学療法		荒牧 隼浩	
18	内部障害学2：呼吸器障害の理学療法		荒牧 隼浩	
19	内部障害学3：循環器障害の理学療法		伊藤 大亮	
20	内部障害学4：循環器障害（心電図の基本）		伊藤 大亮	
21	内部障害学5：循環器障害（不整脈）		伊藤 大亮	
22	内部障害学6：代謝障害の理学療法		伊藤 大亮	
23	小児理学療法学1 脳性麻痺 知的障害について		大橋 孝子	
24	小児理学療法学2 筋ジストロフィー症 小児整形外科疾患について		大橋 孝子	
25	義肢装具学1：上肢の装具学		原 和彦	
26	義肢装具学2：下肢の装具学		原 和彦	
27	義肢装具学3：義肢学		原 和彦	
28	物理療法学1：物理療法の基礎		鈴木 裕治	
29	物理療法学2：温熱療法・寒冷療法・電気光線療法		鈴木 裕治	
30	法律・制度・地域理学療法学(介護予防も含む)		大橋 孝子	
教科書	「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別PT治療学 2023」 医歯薬出版 編 「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎PT学 2023」 医歯薬出版 編 「PT国家試験専門問題 であるもん・でたもん 一問一答!!」 「標準理学療法学・作業療法学」編集 編 医学書院			
参考文献	「国試の達人PTシリーズ2022年 理学療法編 第22版」アイベック 後日指定する			
備考	A B 合同授業			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

リハビリテーション学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- 実務を有する教員一覧
- オフィスアワー

リハビリテーション学科理学療法学専攻のナンバリングの見方

【例】 RP-1-○○○-01

RP	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号（全学共通教養科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：CO

リハビリテーション学科理学療法学専攻：RP

② 科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門基礎科目：1

専門展開科目：2

特別科目：3

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野	人間と文化		HCU	Human & Culture
	人間と社会		HSO	Human & Society
	人間と科学		HSC	Human & Science
専門教育分野	専門支持科目	人体の構造・機能と発達	BSF	Body Structure & Function
		疾病の成り立ちと回復	D&R	Disease & Recovery
		保健医療福祉とリハビリテーション	H&R	Health & Rehabilitation
	専門展開科目	基礎理学療法学	BPT	Basic PT
		理学療法管理学	MNP	Management of PT
		理学療法評価学	ASP	Assessment of PT
		理学療法治療学	FLP	Fielded PT
		臨床実習	CLP	Clinical Practice
地域理学療法		CBP	Community Based PT	
特別科目		SPS	Special Seminar	

④ 連続番号

半角数字2桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語 I	CO-0-HCU-02
歴史と文化	CO-0-HCU-03
大学生活論	CO-0-HSO-01
暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

リハビリテーション学科理学療法学専攻は以下のナンバリングを使用する。

教養教育分野	科目名称	ナンバリング		
		科目名称	ナンバリング	
教養教育分野	人間と文化 0 HCU	日本語表現法	CO-0-HCU-01	
		コミュニケーション論	RP-0-HCU-01	
		英語 I	CO-0-HCU-02	
		英語 II	RP-0-HCU-02	
		歴史と文化	CO-0-HCU-03	
		大学生活論	CO-0-HSO-01	
	人間と社会 0 HSO	暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02	
		現代の社会	CO-0-HSO-03	
		心理学概論	RP-0-HSO-01	
		情報処理	CO-0-HSC-01	
		生物学	RP-0-HSC-01	
		物理学	RP-0-HSC-02	
人間と科学 0 HSC	健康スポーツ科学	RP-0-HSC-03		
	専門支持科目 1	解剖学	RP-1-BSF-01	
		解剖学演習	RP-1-BSF-02	
		解剖学実習	RP-1-BSF-03	
		生理学 I	RP-1-BSF-04	
		生理学 II	RP-1-BSF-05	
		生理学実習	RP-1-BSF-06	
		運動学	RP-1-BSF-07	
		運動学演習	RP-1-BSF-10	
		運動学実習	RP-1-BSF-08	
		人間発達学	RP-1-BSF-09	
		疾病の成り立ちと回復 D&R	病理学	RP-1-D&R-01
医学概論			RP-1-D&R-02	
内科学	RP-1-D&R-03			
リハビリテーション栄養学	RP-1-D&R-04			
神経学	RP-1-D&R-05			
臨床医学特論	RP-1-D&R-12			
小児科学	RP-1-D&R-06			
整形外科学総論	RP-1-D&R-07			
整形外科学各論	RP-1-D&R-08			
精神医学総論	RP-1-D&R-09			
老年学	RP-1-D&R-13			
臨床心理学	RP-1-D&R-10			
救急救命医学	RP-1-D&R-11			
保健医療福祉とリハビリテーション H&R	公衆衛生学	RP-1-H&R-03		
	社会福祉概論	RP-1-H&R-02		
	医療関連法規	RP-1-H&R-04		
	リハビリテーション概論	RP-1-H&R-01		
基礎理学療法学 BPT	理学療法学概論	RP-2-BPT-01		
	運動療法基礎理論	RP-2-BPT-02		
	理学療法研究法	RP-2-BPT-03		
	理学療法管理学 MNP	理学療法管理学	RP-2-MNP-01	
		理学療法評価学 ASP	基礎理学療法評価学概論	RP-2-ASP-01
			基礎理学療法評価学実習	RP-2-ASP-02
			骨関節障害理学療法評価学実習	RP-2-ASP-03
			神経障害理学療法評価学実習	RP-2-ASP-04
			臨床理学療法評価学演習	RP-2-ASP-05
		理学療法治療学 FLP	骨関節障害理学療法学	RP-2-FLP-05
			骨関節障害理学療法学演習	RP-2-FLP-06
			神経障害理学療法学	RP-2-FLP-07
神経障害理学療法学演習			RP-2-FLP-08	
内部障害理学療法学			RP-2-FLP-09	
内部障害理学療法学演習			RP-2-FLP-10	
神経筋疾患理学療法学	RP-2-FLP-13			
発達障害理学療法学	RP-2-FLP-14			
物理療法学	RP-2-FLP-02			
物理療法学演習	RP-2-FLP-03			
義肢装具学	RP-2-FLP-11			
義肢装具学演習	RP-2-FLP-12			
日常生活活動学	RP-2-FLP-01			
日常生活活動学演習	RP-2-FLP-04			
理学療法学特論	RP-2-FLP-15			
専門展開科目 2				

	臨床実習 CLP	臨床実習Ⅰ（体験実習）	RP-2-CLP-01
		臨床実習Ⅱ（評価実習）	RP-2-CLP-02
		臨床実習Ⅲ（総合実習）	RP-2-CLP-03
		臨床実習Ⅳ（総合実習）	RP-2-CLP-04
		地域理学療法実習	RP-2-CLP-05
	地域理学療法 CBP	地域理学療法学	RP-2-CBP-01
		地域理学療法学演習	RP-2-CBP-02
		保健医療福祉連携論	RP-2-CBP-03
	特別科目 3 SPS	専門支持科目特別演習	RP-3-SPS-01
		専門展開科目特別演習	RP-3-SPS-02

リハビリテーション学科 学科教員一覧

	職位	氏名	電話番号	E-mail
1	教授 学長	たばやし こういち 田林 眺一	022-308-2071 (代表)	k_tabayashi@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 学科長兼 PT専攻長	おおわだ ひろみ 大和田 宏美		h_oowada@seiyogakuin.ac.jp
3	教授 副学科長兼 OT専攻長	さいとう ゆうき 齋藤 佑樹		yu_saitou@seiyogakuin.ac.jp
4	教授	あみもと かず 網本 和		未定
5	教授	はら かずひこ 原 和彦		未定
6	准教授	やまぐち しずえ 山口 志津枝		s_yamaguchi@seiyogakuin.ac.jp
7	准教授	おおはし たかこ 大橋 孝子		t_oohashi@seiyogakuin.ac.jp
8	講師	すとう あゆみ 須藤 あゆみ		a_sutou@seiyogakuin.ac.jp
9	講師	さかがみ ひさお 坂上 尚穂		h_sakagami@seiyogakuin.ac.jp
10	講師	こせき とものり 小関 友記		tm_koseki@seiyogakuin.ac.jp
11	講師	とだ ゆうこ 戸田 祐子		y_toda@seiyogakuin.ac.jp
12	講師	いとう だいすけ 伊藤 大亮		d_itou@seiyogakuin.ac.jp
13	助教	もりなが ゆう 森永 雄		y_morinaga@seiyogakuin.ac.jp
14	助教	くまがい りゅうた 熊谷 竜太		r_kumagai@seiyogakuin.ac.jp
15	助教	すずき ゆうじ 鈴木 裕治		y_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
16	助教	ささき ひろと 佐々木 広人		ht_sasaki@seiyogakuin.ac.jp
17	助教	たかはし さとし 高橋 慧		s_takahashi@seiyogakuin.ac.jp
18	助教	あらまき よしひろ 荒牧 隼浩		y_aramaki@seiyogakuin.ac.jp
19	助教	こまつ よしのり 小松 佳路		ys_komatsu@seiyogakuin.ac.jp

科目名	実務教員	実務の概要
解剖学	大和田 宏美	理学療法士としての経験が豊富で解剖学を教授するに十分な実務経験を有する。
解剖学演習	大和田 宏美	理学療法士としての経験が豊富で解剖学を教授するに十分な実務経験を有する。
解剖学実習	鈴木 裕治	この授業では理学療法評価、治療の実施の際、必須となる身体組織を触診し、その形状、長さ、硬さなどを同定する技術を学ぶ。当該教科担当者は臨床における十分な実務経験を有し、また触診、徒手療法などの研修会への参加も行っている。
生理学実習	坂上 尚穂	理学療法士としての経験が豊富で生理学を教授するに十分な実務経験を有する。
運動学	原 和彦	理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
運動学実習	坂上 尚穂	理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
人間発達学	大橋 孝子	実務経験の概要：健常の子どもの相談支援や、発達障害に対する理学療法、相談支援等について経験している。実務経験と授業科目との関連性：人間の発達について、様々な観点から教授する。
医学概論	佐直 信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鶴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に18年間従事した。この経験をともに講義6-15を担当する。
リハビリテーション概論	佐直 信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鶴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医等を取得した。その傍ら宮城県協議会会長として宮城県の地域リハビリテーションの構築にかかわった。この経験をともに講義を担当する。
運動療法基礎理論	網本 和	理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
基礎理学療法評価学概論	佐々木 広人	理学療法士として十分な臨床経験をもつ教員により授業を実施する。実務経験豊富な教員により講義を行うことで基本的かつ実践的な理学療法評価の知識修得を目指す。
基礎理学療法評価学実習	伊藤 大亮	理学療法士として十分な臨床経験をもつ教員により授業を実施する。実務経験豊富な教員により実習を行うことで実践的な理学療法評価の知識および技術修得を目指す。
日常生活活動学	大橋 孝子	障害者の通所施設や地域において、障害者等の生活支援について多くの経験がある。
日常生活活動学演習	森永 雄	①すべての医療関連施設（急性期病院、回復期病院、介護老人保健施設など）で”ADL介助”を行った経験を有すること。 ②大学院修士課程では、主に”基本動作の仕組み、介助”をテーマに研究してきたこと。
運動学演習	森永 雄 坂上 尚穂	理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
神経学	佐直 信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鶴子分院にてリハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。この経験をともに講義を担当する。
整形外科各論	佐々木 広人	整形外科疾患に対して理学療法士としての経験が豊富で科目を教授に十分な実務経験を有する。
老年学	佐直 信彦	医学部卒業後東北大学医学部付属鶴子分院にて内科学全般、リハビリテーション医学の臨床・教育・研究に13年間携わり、東北労災病院リハビリテーション科部長として臨床・研究に18年間従事し、リハビリテーション科専門医、脳卒中専門医等を取得した。その後、前任地の4年制大学のリハビリテーション学科教授を13年間務めた。この経験をともに講義を担当する。
骨関節障害理学療法評価学実習	佐々木 広人	骨関節障害に関する評価および治療の臨床経験をもつ教員により授業を実施する。実務経験豊富な教員により講義を行うことで基本的かつ実践的な理学療法評価の知識修得を目指す。
神経障害理学療法評価学実習	小関 友記	科目担当者は、理学療法全般に関する評価および治療の実務経験を有する。
臨床理学療法評価学演習	佐々木 広人	講義内容に関する評価および治療の十分な実務経験を有する教員により授業を実施する。経験豊富な教員により講義を行うことで臨床的な技術・方法の学習が期待できる。
骨関節障害理学療法学	佐々木 広人	骨関節障害に対して理学療法士としての経験が豊富で科目を教授に十分な実務経験を有する。
骨関節障害理学療法学演習	佐々木 広人	骨関節疾患に対して理学療法士としての経験が豊富で科目を教授に十分な実務経験を有する。
神経障害理学療法学	大和田 宏美 網本 和 小関 友記 森永 雄	神経障害理学療法全般に関する評価および治療の実務経験を有する。
神経障害理学療法学演習	大和田 宏美 網本 和 小関 友記 森永 雄	神経障害理学療法全般に関する評価および治療の実務経験を有する。
内部障害理学療法学	伊藤 大亮 荒牧 隼浩	内部障害系疾患患者の治療経験が豊富であり、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
内部障害理学療法学演習	大和田 宏美 伊藤 大亮 荒牧 隼浩	内部障害系疾患患者の治療経験が豊富である。
神経筋疾患理学療法学	坂上 尚穂	理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
発達障害理学療法学	大橋 孝子	発達障害を有する子どもから成人までの理学療法法について、一般病院、母子通園施設、通園施設、成人の通所施設等において経験がある。International Certification of Bobath concept Therapist の資格がある。人間発達を基礎にして、発達障害の特徴を捉えた評価から治療までの考え方や実技について教授する。年齢における問題点の捉え方や疾患ごとの理学療法の違いを教授する。
理学療法学特論	網本 和	理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
地域理学療法学	大橋 孝子	実務経験の概要：地域理学療法について、調査・研究および実践の経験が豊富である。実務経験と授業科目との関連性：地域理学療法法の総論と地域理学療法実践について、教授する。
地域理学療法学演習	森永 雄	理学療法士として十分な臨床経験および研究歴を持ち、本科目を教授するに十分な実務経験を有する。
43	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
93	設置基準上の標準単位数	

2023(令和5)年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。